

千葉県文化財センター

# 研 究 紀 要

18

平成 9 年 9 月

財団法人 千葉県文化財センター

## 発刊の辞

財団法人千葉県文化財センターは、昭和49年11月の創立以来、埋蔵文化財に関する数多くの調査、研究、普及活動を実施してまいりました。その成果は、発掘調査報告書をはじめとする多数の刊行物等に見られるとおりです。

研究活動につきましては、研究紀要の刊行をはじめ、埋蔵文化財調査に関連する独自の研究事業を行ってまいりました。昭和62年度から進めてきた「房総における生産遺跡の研究」を統一主題とする活動は平成5年度をもって終了し、その成果は4冊の研究紀要(12号～15号)として報告いたしました。また、「創立20周年記念論集」として研究紀要16号を、県内出土の青銅製品の生産と流通の実態を明らかにした「県内の青銅製品の集成と分析」を17号として、それぞれ刊行いたしました。

当センターでは、昭和56年度以来、千葉県教育委員会の委託を受け、古代寺院跡・中近世城館跡・貝塚等を対象とする国庫補助事業重要遺跡確認調査を継続して実施してまいりました。そこで、その成果の検討を、研究紀要の第4期の共通テーマとすることとし、「重要遺跡確認調査の成果と課題」と題して、平成5年度から共同研究を開始いたしました。

このたび、その成果報告の第1冊目として研究紀要18号「古代仏教遺跡の諸問題」を刊行いたします。本書が、考古学研究はもとより、埋蔵文化財調査の技術向上のための資料として、広く活用されることを期待してやみません。

平成9年9月

財団法人 千葉県文化財センター  
理事長 中村好成

# 目 次

## 古代仏教遺跡の諸問題

### — 重要遺跡確認調査の成果と課題 1 —

はじめに	3
I 序章	7
1 研究史	7
2 文献目録	12
II 主要遺跡概要	27
III 各論	129
1 仏器・瓦塔・墨書土器	129
2 寺院と仏堂・付属施設	165
IV 房総における古代寺院の成立過程 — 印幡郡・埴生郡を例として —	183
V まとめ	195
遺跡一覧表	199
遺跡分布地図	251
図 版	

## 挿図目次

第1図 房総における寺院跡・仏教関連遺物出土遺跡分布図	26
第2図 上総国分寺B期遺構配置図・出土瓦	28
第3図 上総国分尼寺跡B期遺構配置図・出土瓦	29
第4図 奉免上原台遺跡E地区遺構配置図・出土瓦	30
第5図 武士遺跡遺構配置図・出土瓦	31
第6図 千草山遺跡遺構配置図・出土遺物	32
第7図 南大広遺跡B地区遺構配置図・出土遺物	33
第8図 二日市場廃寺跡遺構配置図	34
第9図 二日市場廃寺跡B地区遺構配置図・出土遺物	35
第10図 萩ノ原遺跡遺構配置図	36

第11図	萩ノ原遺跡出土遺物	37
第12図	東郷台遺跡遺構配置図	38
第13図	東郷台遺跡出土遺物	39
第14図	愛宕前遺跡遺構配置図・出土遺物	40
第15図	上総大寺廃寺跡出土瓦	41
第16図	小谷遺跡出土遺物	42
第17図	永吉台遺跡群遠寺原地区遺構配置図	43
第18図	永吉台遺跡群遠寺原地区出土遺物	44
第19図	上大城遺跡遺構配置図・出土遺物	45
第20図	永吉台遺跡群西寺原地区遺構配置図	46
第21図	永吉台遺跡群西寺原地区出土遺物	47
第22図	九十九坊廃寺跡遺構配置図	48
第23図	九十九坊廃寺跡塔平面図・出土瓦	49
第24図	針ヶ谷遺跡遺構配置図・出土遺物	50
第25図	小食土廃寺跡遺構配置図	51
第26図	小食土廃寺跡出土遺物	52
第27図	内野台遺跡遺構配置図	53
第28図	大椎第2遺跡遺構配置図・出土遺物	54
第29図	山田台廃寺跡遺構配置図・出土遺物	55
第30図	南河原坂第2遺跡遺構配置図・出土遺物	56
第31図	大野第7遺跡遺構配置図・出土遺物	57
第32図	砂田中台遺跡出土遺物	58
第33図	砂田中台遺跡遺構配置図	59
第34図	中林遺跡遺構配置図・出土遺物	60
第35図	内野第II遺跡遺構配置図・出土遺物	61
第36図	真行寺廃寺跡遺構配置図・出土瓦	62
第37図	真行寺廃寺跡出土遺物	63
第38図	庄作遺跡遺構配置図	64
第39図	庄作遺跡出土遺物	65
第40図	作畑遺跡遺構配置図・出土遺物	66
第41図	法興寺跡遺構配置図・出土瓦	67
第42図	安房国分寺遺構配置図・出土遺物	68
第43図	下総国分寺・尼寺跡出土遺物	69
第44図	下総国分寺遺構配置図	70
第45図	下総国分尼寺跡遺構配置図	71
第46図	下総国分寺・尼寺跡出土瓦	72
第47図	谷津遺跡遺構配置図	73

第48図	谷津遺跡001号掘立柱建物跡・出土遺物	74
第49図	六通遺跡遺構配置図・出土遺物	75
第50図	長熊廃寺跡遺構配置図	76
第51図	長熊廃寺跡出土遺物	77
第52図	木下別所廃寺跡遺構配置図・出土遺物	78
第53図	白幡前遺跡出土遺物 1	79
第54図	白幡前遺跡遺構配置図 1	89
第55図	白幡前遺跡遺構配置図 2・出土遺物 2	81
第56図	大塚前遺跡遺構配置図・出土瓦	82
第57図	六拾部遺跡出土遺物 1	83
第58図	六拾部遺跡遺構配置図	84
第59図	六拾部遺跡出土遺物 2	85
第60図	村上込の内遺跡遺構配置図・出土遺物	86
第61図	江原台遺跡遺構配置図	87
第62図	江原台遺跡周溝状遺構・出土遺物	88
第63図	井戸向遺跡遺構配置図	89
第64図	井戸向遺跡出土遺物	90
第65図	高岡大山遺跡出土遺物	91
第66図	高岡大山遺跡遺構配置図	92
第67図	栗野 I 遺跡遺構配置図・出土遺物	93
第68図	太田宿遺跡遺構配置図・出土遺物	94
第69図	北大堀遺跡遺構配置図・出土遺物	95
第70図	馬橋鷺尾余遺跡遺構配置図・出土遺物	96
第71図	伊篠白幡遺跡遺構配置図・出土遺物	97
第72図	長勝寺脇館跡遺構配置図・出土遺物	98
第73図	飯仲金堀遺跡遺構配置図・出土遺物	99
第74図	八日市場大寺廃寺跡遺構配置図・出土瓦	100
第75図	巢根遺跡遺構配置図・出土遺物	101
第76図	土持台遺跡遺構配置図・出土遺物	102
第77図	柳台遺跡遺構配置図・出土遺物	103
第78図	大井東山遺跡遺構配置図	104
第79図	大井東山遺跡出土遺物	105
第80図	結城廃寺跡遺構配置図	106
第81図	結城廃寺跡出土瓦	107
第82図	峯崎遺跡遺構配置図・出土遺物	108
第83図	木内廃寺跡遺構配置図・出土瓦	109
第84図	織幡妙見堂遺跡遺構配置図	110

第85図	織幡妙見堂遺跡出土遺物	111
第86図	名木廃寺跡遺構配置図・出土遺物	112
第87図	多田日向遺跡遺構配置図	113
第88図	東野遺跡遺構配置図・出土遺物	114
第89図	伊地山藤之台遺跡遺構配置図・出土遺物	115
第90図	龍角寺遺構配置図・出土瓦	116
第91図	郷部・加良部遺跡、堀尾遺跡出土遺物	117
第92図	郷部・加良部遺跡、堀尾遺跡遺構配置図	118
第93図	山口遺跡遺構配置図	119
第94図	山口遺跡出土遺物	120
第95図	久能高野遺跡遺構配置図・出土遺物	121
第96図	野毛平植出遺跡遺構配置図・出土遺物	122
第97図	取香和田戸遺跡遺構配置図・出土遺物	123
第98図	永田・不入遺跡窯跡群・出土遺物	124
第99図	南河原坂窯跡群全体図	125
第100図	南河原坂窯跡群10号窯跡	126
第101図	南河原坂窯跡群軒丸瓦・軒平瓦	126
第102図	南河原坂窯跡出土土器	127
第103図	宇津志野窯跡遺構配置図	128
第104図	浄瓶・水瓶 1	130
第105図	浄瓶・水瓶 2	131
第106図	香炉 1	132
第107図	香炉 2	133
第108図	正倉院宝物塔鏡形合子	134
第109図	鳩山窯跡群柳原遺跡A地区出土遺物	134
第110図	鉄鉢形土器 1	136
第111図	鉄鉢形土器 2	137
第112図	鉄鉢形土器 3	138
第113図	鉄鉢形土器 4	139
第114図	鉄鉢形土器 5・托	140
第115図	正倉院宝物磁鉢	141
第116図	墨書土器 1	144
第117図	墨書土器 2	145
第118図	墨書土器 3	146
第119図	墨書土器 4	147
第120図	墨書土器 5	148
第121図	墨書土器 6	149

第122図	墨書土器 7	150
第123図	瓦塔 1	152
第124図	瓦塔 2	153
第125図	瓦塔 3	154
第126図	瓦塔 4	155
第127図	瓦塔 5	156
第128図	瓦塔 6	157
第129図	瓦塔 7	158
第130図	瓦塔 8	159
第131図	正倉院宝物金銅鎮鐸第 1 号	160
第132図	その他の仏教関連遺物	161
第133図	仏堂・付属施設模式図 1	166
第134図	仏堂・付属施設模式図 2	167
第135図	仏堂・付属施設模式図 3	170
第136図	仏堂・付属施設模式図 4	171
第137図	五斗葺瓦窯跡1G-17グリッド一括資料	185
第138図	向台遺跡SI-3遺物出土状況図・出土遺物	185
第139図	県内丸瓦先端部片柄形加工資料	186
第140図	大和丸瓦先端部片柄形加工資料	186
第141図	印幡郡・埴生郡の寺院跡・仏教関連遺物出土遺跡分布図	189

## 図版目次

図版 1	遺構	図版 6	軒丸瓦 4
図版 2	五斗葺瓦窯跡出土瓦	図版 7	軒丸瓦 5 軒平瓦 1
図版 3	軒丸瓦 1	図版 8	軒平瓦 2
図版 4	軒丸瓦 2	図版 9	仏教遺物
図版 5	軒丸瓦 3	図版10	寺名墨書土器

# 古代仏教遺跡の諸問題

— 重要遺跡確認調査の成果と課題 1 —



# はじめに

資料部長 沼澤 豊

財団法人千葉県文化財センターは、創立以来、埋蔵文化財の発掘調査並びにこれに関わる研究及び普及事業を主要な業務として実施している。このうち研究活動については、発掘調査の現場で、また報告書の作成過程でと、日常業務の中で日々行われているとも言えるが、一方で、センターとして一定の主題を設定した共同研究も継続して実施し、その成果は『千葉県文化財センター研究紀要』として逐次刊行してきたところである。

『研究紀要』は、文字どおり職員の研究成果を世に問うものであり、昭和51年に第1号を刊行して以来号を重ね、本書で18号を数える。この間、昭和61年3月に創立10周年記念論集（第10号）を、平成7年1月に創立20周年記念論集（第16号）を、それぞれ記念論文集として刊行したのを除いて、特定の主題によるシリーズとして刊行している。

第1期（第1号～第5号）は、昭和50年度から55年度にかけて「考古学から見た房総文化の解明」という主題のもとに原始古代の房総文化の解明を試み、あるいはそのための資料の集成を行った。第2期（第6号～第11号）は、「自然科学の手法による遺跡・遺物の研究」を主題として自然科学的分析の考古学分野への応用に関する問題について研究し、その成果を昭和56年度から昭和61年度にかけて刊行した。第3期（第12号～第15号）は、「生産遺跡の研究」を主題として、生産・流通・消費に関する諸問題を、考古学ばかりでなく様々な視点から検討し、昭和62年度から平成6年度までに4冊の成果として刊行した。また、シリーズではないが、平成2年度から平成7年度にかけて「県内の青銅製品の集成と分析」を主題として設定し、その成果を平成8年度に第17号として刊行した。

今号（第18号）から第4期として「重要遺跡確認調査の成果と課題」という新しい主題による研究成果の刊行を開始する。センターは昭和56年度以来、千葉県教育委員会からの委託を受け、古代寺院跡、中近世城館跡、貝塚、古墳等を対象とする国庫補助事業「重要遺跡確認調査」を継続して実施してきた。各年度の調査成果は個別の報告書として刊行してきたが、それぞれの対象ごとの調査結果の取りまとめと成果の確認作業は、これまでセンターとして実施する機会がなかった。そこで、重要遺跡確認調査の成果を基礎として県内の同種の遺跡をも検討する共同研究を、平成5年度から開始した。今回はその成果報告の1冊目として、「古代寺院跡確認調査事業」の成果に基づく「古代仏教遺跡の諸問題」を刊行する。

古代寺院跡確認調査事業は、昭和55年度の小見川町木内廃寺確認調査を端緒とする。翌昭和56年度の成東町真行寺廃寺確認調査からセンターへ事業が委託され、以後、平成2年度の八日市場市大寺廃寺確認調査まで、9年間で9か所の古代寺院跡の調査を実施した。県内の古代寺院跡の調査例は国分寺関係を除くと極めて少なく、この事業で実施した10か所の調査例は極めて貴重な資料を提供している。真行寺廃寺では上総国分尼寺跡に次いで2例目の瓦積み基壇を検出し、新たに紀寺式の軒先瓦の類例を加えた。下総町名木廃寺では基壇建物を1棟確認した。市原市二日市場廃寺では、基壇建物は確認できなかったものの、大量の瓦と掘立柱建物を多く検出した。君津市九十九坊廃寺では、県内では初めて塔跡の調査を実施した。

はじめに

千葉市小食土廃寺では木造基壇外装をもつ基壇を確認した。佐倉市長熊廃寺では従来の伽藍配置を訂正し、墨書土器から寺名を確定することができた。

一方、千葉県内においては上総・下総の国分二寺の全体像がほぼ明らかになったことを初めとして、各種の開発事業に伴う発掘調査の結果として、仏教関連遺構・遺物に関する新たな知見が多数蓄積されてきている。大規模調査によって古代集落が全面的に発掘される例も増加しており、そのような中でこれまで認識されていなかった「村落内寺院」の存在が指摘され、その概念が明らかになりつつある。村落内寺院は両総地方において顕著なものであり、全国的にも特異な様相を示している。このほか、千葉県の古代遺跡では仏教関係の墨書土器の出土量が群を抜いて多いことも注意されている。

センターでは、こうした近年の調査成果をまとめて『房総考古学ライブラリー7－歴史時代(1)－』を平成5年に刊行したが、対象を一般向けとしたため、個別的な集成作業に至らなかった。そこで本紀要ではまず、千葉県及び茨城県のうち古代下総国に含まれた範囲における寺院跡、仏教遺物を出土した遺跡、仏教関係の墨書土器を出土した遺跡、瓦を出土した遺跡、瓦窯跡、また、仏教関係の痕跡のある古墳を集成した。平成9年3月31日までに判明している遺跡を一覧表として掲載したが、遺漏はほとんどないものと考えている。印刷の関係上紙面には割愛してある部分も多いが、データベースとして構築してあるので、今後その利用方法について検討していきたい。仏教関係遺物についても、発表されているものはほとんど網羅できたと考えている。個々の遺跡の内容については、紙面の関係上すべて記述することはできなかったが、主要遺跡の概観で全体像は把握できるものと思われる。また、資料集成の結果をもとに、地域を設定して、仏教から見た地域史の構築を試みている。

今までややもすれば個別的に論じられてきた寺院、瓦、墨書土器等仏教遺跡の諸要素を総合的に集成、検討できたことはこれまで例を見ない試みであり、今後の研究のための基本資料としての価値をもつものと考えている。また、今後、建築史、美術史、宗教史等からの広汎な研究を推進する必要性も痛感しているが、本書が県内外を問わず今後の仏教遺跡の研究にいささかなりとも役立つことがあれば幸いである。

本書に掲載した共同研究は、平成6年度から8年度まで、石田広美を主任として小林信一、糸原清の3名が実施したものであり、執筆分担は以下に記すとおりである。なお、本書の編集作業は、資料部資料課渡邊智信が担当した。

最後に、本書が成るまでに多くの御指導、御協力をいただいた以下の機関、各位に、録して謝意を表する次第である。

#### <協力機関>

市川市立考古博物館、市原市教育委員会、佐原市教育委員会、(財)市原市文化財センター、(財)印旛郡市文化財センター、(財)君津郡市文化財センター、(財)香取郡市文化財センター、(財)山武郡市文化財センター、(財)千葉市文化財調査協会、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県立房総風土記の丘、龍角寺、関市教育委員会、玉川考古学研究所、奈良国立文化財研究所、日本窯業史研究所、古川町教育委員会、結城市教育委員会、関東古瓦研究会

#### <協力者>

青沼道文、網 伸也、石戸啓夫、稲葉昭智、今泉 潔、上原真人、大脇 潔、大川 清、岡本東三、甲斐

博幸、河野一也、倉田義広、小牧美枝子、郷堀英司、斉藤伸明、佐川正敏、篠原英政、須田 勉、辻 史郎、田所 真、花谷 浩、菱田哲郎、松本太郎、松村恵司、宮内勝巳、森 郁夫、山口直人、山路直充、吉田恵二

<執筆分担>

石田広美 I - 1, V

小林信一 II, III - 1,

糸原 清 II, III - 2, IV

<重要遺跡確認調査「古代寺院跡確認調査」実施経過>

年 度	対象遺跡	調査主体
昭和55年度	香取郡小見川町木内廃寺	木内廃寺跡発掘調査団
昭和56年度	山武郡成東町真行寺廃寺	(財)千葉県文化財センター
昭和57年度	香取郡下総町名木廃寺	(財)千葉県文化財センター
昭和58年度	市原市二日市場廃寺	(財)千葉県文化財センター
昭和59年度	君津市九十九坊廃寺	(財)千葉県文化財センター
昭和60年度	千葉市小食土廃寺	(財)千葉県文化財センター
昭和61年度	佐倉市長熊廃寺	(財)千葉県文化財センター
昭和62年度	安房郡三芳村宝珠院	(財)千葉県文化財センター
昭和63年度	印旛郡栄町龍角寺	(財)千葉県文化財センター
平成元年度	八日市場市大寺廃寺	(財)千葉県文化財センター



# I 序 章

## 1 研 究 史

千葉県内における古代寺院の研究は大別すると戦前と戦後になる。戦後を研究状況により3期に分け、全体を4期で構成し、以下、概略を記す。

### 第1期（大正年間～昭和10年代）

この時期は古瓦、寺院跡の紹介が大半を占めるが、昭和10年代には研究の基礎を形成する。まさに黎明期である。

#### 大正年間に上総・下総国分寺の瓦の紹介が始まる

千葉県における寺院及び瓦の紹介は大正6年に住田正一による「下総国分寺古瓦について」（考古学雑誌第8巻2号）を嚆矢とする。しばらくは下総、上総の国分寺関係の表採古瓦の紹介に終始する。

#### 昭和7年に龍角寺の仏像の再発見、上総大寺の登場

印旛郡栄町龍角寺の銅造薬師如来座像が昭和7年初めに氏家重次郎により発見され、同時に古瓦、塔心礎も確認され、関根貞による本格的な調査により同年に国宝に、塔心礎は史跡として指定される。その後、関東で例を見ない東国産の白鳳仏として世間の注目を集める。

木更津市上総大寺廃寺は昭和7、8年ころ道路工事による熊野神社境内の土運びに端を発し、地元の郷土史家宮本寿吉による布目瓦の採集により廃寺跡の存在が確定する。また、境内に残る巨大な加工痕のある石を石製路盤と認定し、塔跡の存在、及び地名の考証等により中世まで相当な規模をもつ寺院が存在していたことを明らかにする。

#### 大場磐雄による九十九坊廃寺跡の調査

昭和8年に大場磐雄等による君津市九十九坊廃寺跡の発掘調査が行われる。塔跡を中心とした小規模な調査であったが、房総においては初めての寺院の本格的な発掘調査で記念すべきものである。調査により、法隆寺式伽藍配置であり、塔は三重塔であり、時代は奈良時代であると結論づけた。以後の調査の指針になるものである。

#### 篠原四郎による寺院の集成、滝口宏・平野元三郎による寺院の集成と考察

昭和9年に初めて篠崎四郎により、房総の古代寺院の地名表が作成される。23か所。ただしの中には伝説地が3か所含まれている。遺構と遺物を合体した歴史考古学として房総の古代寺院を初めて面的に捉える。昭和12年になると、平野元三郎・滝口宏による分布図、各遺跡の概要を加えたより完成度の高いものが出来上がり、房総の古代寺院研究の一つの到達点を見る。ここでは伝説地を除き、遺構・遺物から抽出した22か所が報告されている。

#### 国分寺研究の集大成

昭和13年に刊行された角田文衛編「国分寺の研究」は文献、建築史、美術史、考古学を総合して考察し

## I 序 説

た優れた論考である。全国の国分寺が網羅され、均質な内容をもった希有な論文集でもある。房総関係では安房、上総、下総の3国が取り上げられており国分寺研究の一つの到達点である。特に安房については特殊な国の成り立ちをしていることに着目し、国分寺に対する新たな見解を提示しており、下総については初めて僧寺、尼寺跡を確定している等の特筆すべき内容を含んでいる。

### 第2期（昭和20～40年代）

戦前の研究が裾野を拡げ、より詳細になる。そして今まで経験したことのない大規模調査の時代に突入して行く。

#### 戦後の小規模な調査

滝口宏・平野元三郎が上総国分僧寺・尼寺跡、下総国分僧寺・尼寺跡、菊間廃寺跡、千草山廃寺跡等を、大場磐雄、武田宗久が千葉寺を、小出義治が流山廃寺跡を、久保常春等が長熊廃寺跡をそれぞれ小規模な調査を実施している。まだ実態を把握できるまでには至っていない。長熊廃寺跡は法隆寺式伽藍配置の寺院跡と報告されているが、当時から疑問視されていた部分があり、後日に解決された。

#### 国分寺の調査

昭和41～43年にかけて早稲田大学考古学研究室が上総国分寺を調査して、金堂、塔、講堂、回廊、中門の伽藍中心部を明らかにした。昭和41・42年に市川市史編さん事業の一環として下総国分寺の調査が実施され、金堂、塔、講堂の伽藍中心部が明らかになった。

#### 大規模調査の開始

成田ニュータウン遺跡群、千葉ニュータウン遺跡(大塚前遺跡)、村上込の内遺跡等の重要な大規模調査が昭和40年代後半に集中して開始される。寺院関係では上総国分寺台の調査の開始が特筆される。この調査は昭和48年から59年まで継続され、上総国分僧寺、尼寺の全体像が明らかになり、全国に先駆けて国分寺の全貌を解明した、画期的な調査である。ただ未だに正式報告書が刊行されないのは残念である。

### 第3期（昭和50年代～平成5年）

調査例が飛躍的に増大し、寺院跡から仏教関連遺跡として捉えざるを得ない状況になる。その中から、多様な論考が提出され、活発な展開を繰り返す。ほぼ論考は出尽くす。

#### 龍角寺、木下別所廃寺跡の調査

龍角寺の調査は早稲田大学考古学研究室により、昭和22、23、46、51年に実施されておりほぼ伽藍中心部については解明されている。また同時に瓦窯も調査されている。木下別所廃寺跡は昭和52、53年に早稲田大学考古学研究室が調査して基壇建物3基を確認し、本格的寺院跡であることを確認した。同時に瓦窯も調査されている。

#### 房総の古瓦展

昭和53年に千葉県立房総風土記の丘で開催された「房総の古瓦」展は県内で最初の古瓦を集成した画期的な企画展であり、その図録は現在でも有用な価値をもっている。

#### 墨書土器と新たな展開

昭和54年に高木博彦が「墨書土器よりみたる房総古代仏教の一側面」を発表し、県内の墨書土器の仏教関係を集成、遺構との関連について初めて論究した。集落における規模の大きな掘立柱建物跡（四面廂）について、寺名墨書を手掛かりにして寺院の可能性が高いことを指摘する。

昭和58年に雨宮龍太郎が「古代村落と仏教—磁鉢をめぐる人々—」を発表し、一つの遺跡の仏教遺物のあり方から古代民衆の仏教受容の姿を素描し、新たな見解を提出した。

#### 須田による村落内寺院の提唱

昭和60年に須田勉が「平安初期における村落内寺院の存在形態」を発表し、高木、雨宮の説を敷衍して、更に県内で増えてきた同種の遺跡を集成して、「村落内寺院」との仮の名称を提唱した。以後この名称が定着する。須田はこの中で村落内寺院の概念を設定し、さらに設立者、運営方法にまで言及している。

#### 古代寺院確認調査の実施

昭和55年度から千葉県教育委員会が実施した重要遺跡確認調査はこれまで、国分寺と少数の寺院跡に限られていた発掘調査が初めて計画的に実施され、多くの成果をあげた。

昭和55年度に実施された香取郡小見川町木内廃寺跡では基壇1基が確認された。昭和56年度の山武郡成東町真行寺廃寺跡調査から（財）千葉県文化財センターに委託された。真行寺廃寺跡からは基壇2基が検出され、そのうち北基壇は上総国分尼寺について県内では2例目の瓦積基壇であった。また、新たに紀寺式の軒先瓦が確認され、特殊な文様の叩目を持つ平瓦が多く確認された。なお、真行寺廃寺跡は成東町教育委員会と（財）千葉県文化財センターにより昭和58年度まで周辺の確認調査が実施され、ほぼ全貌が明らかになった。特に町が実施した昭和58年度の調査では鍛冶遺構から「武射寺」の墨書土器が出土し、郡名を冠する寺院名が判明したことは画期的である。

昭和57年度に実施した香取郡下総町名木廃寺跡では基壇1基を検出し、「度寺」と書かれた墨書土器が出土し、寺名の有力な手がかりを得る。昭和58年度の市原市二日市場廃寺跡では基壇建物は確認されなかったが、大量の瓦と多くの掘立柱建物跡が検出された。軒先瓦にも紀寺式と山田寺式の2系統があることが確認された。昭和59年度の君津市九十九坊廃寺跡では県内で最初の本格的な塔の調査を実施し、その構造を明らかにした。また、昭和60年度には（財）千葉県文化財センターが独自に確認調査を継続し、金堂、講堂、塔を備えた本格的な寺院であったことを確認する。また、独特な文様である軒先瓦も独自な変化をしていることも判明した。

昭和60年度の千葉市小食土廃寺跡では初めて木造基壇外装をもつ基壇建物が1基検出された。上総国分寺と同範である単弁二十四葉蓮華文軒丸瓦の確認も、国分寺と造営者の関係を考える上で貴重なものである。昭和61年度の佐倉市長熊廃寺跡では基壇1基だけの検出にとどまったが、従来言われていた法隆寺式の伽藍配置の誤謬を訂正することができた。なお、「高罌寺」の寺名墨書土器が出土し、郡名でない地名を冠する寺名に寺院の性格を表しているという新しい成果を得た。昭和62年度の安房郡三芳村宝珠院の調査は寺院関係に迫れず、昭和63年度の印旛郡栄町龍角寺の調査は周辺部の確認にとどまった。平成元年度の八日市場市大寺廃寺跡の調査では伝説上の龍腹寺の位置を確定できるようになった。

#### 結城廃寺跡の調査

昭和63年度から平成6年度にかけて結城市教育委員会が調査を実施する。下総国内において初期寺院の全貌が初めて明らかになる。伽藍中心部のほかに寺域まで確認された。遺構、遺物にも目をみはる物が多い。特に塔心礎における舍利容器及び蓋の彩色蓮華文、塑像の大量出土は地方寺院のあり方を根本から再



## I 序 説

考させるものである。

### 今泉による構造の提唱

平成2年に今泉潔が『瓦と建物の相剋』試論において、瓦を伴う掘立柱建物跡について新しい見解を提出した。つまり、瓦が少量出土する掘立柱建物跡の構造を葺棟とした。また、須田の説に対立する仏教受容論を提出した。

### 瓦窯の調査

龍角寺所用瓦の生産地である龍角寺瓦窯、五斗蒔瓦窯、龍正院の所用瓦の生産地である龍正院瓦跡、木下別所廃寺跡所用瓦の生産地である曾谷窪瓦窯の調査もなされ、供給関係も明らかになった。上総国分寺関係では南河原坂瓦窯、川焼瓦窯、南田瓦窯が調査され複雑な供給関係も明らかになりつつある。

### 瓦制作技法の研究

佐々木和博が下総国分寺関係の瓦を中心に進め、やがて山路直充が県内の瓦に目を広げ、成果をあげる。

### 大規模調査の増加と類例の増加

昭和40年代後半から続いた大規模調査もピークを迎え、仏教関連遺跡の類例が増加した。

## 第4期（平成6年以降）

まとめの時期に入り、今までの成果を総括する論考が出現し始めた。稔りの多い時期であり、今後の発展が期待できる。

### 笹生による村落内寺院の深化

平成6年に笹生衛が「古代仏教信仰の一側面」を発表し、須田、今泉、雨宮の説を踏まえより広範囲に仏教関連遺跡を集成し、造営基盤の類型化を行い、仏教信仰の階層性を明確にした。所謂「村落内寺院」の考え方を発展集大成した。

### 山路による下総国分寺の総括

平成6年に山路直充が「下総国分寺跡 平成元年～5年度発掘調査報告書」を中心になりまとめ、下総国分寺の現状での到達点を示した。

### 宮本による上総国分寺の総括

平成6年に宮本敬一が「上総国分寺の成立－尼寺の造営過程を中心に」を発表した。文献をよく咀嚼し、国分寺の成立過程を丹念に遺構で確認しながら精緻な素描を試みている。国分寺研究の白眉であると思われる。惜しむらくは研究者が等しく検証できる環境の整備を望みたい。

### 岡本による初期寺院の年代決定

平成8年に岡本東三が刊行した「東国の古代寺院と瓦」は氏が平成5年「下総龍角寺の山田寺式軒瓦について」、平成6年「東国の川原寺式軒瓦の波及年代をめぐって」、平成6年「紀寺式軒瓦の編年的位置について」として発表したものを骨子として新たに書き下ろしたものを加えた内容になっている。精力的に追求した県内の初期寺院の瓦と畿内の標準資料との精緻な検討をもとにして技法の問題を据えて独自の年代観を提示した。揺れ動く東国初期寺院の年代観に明確な基準を与えた。

### 関東古瓦研究会によるシンポジウム

関東古瓦研究会は昭和50年代から活動を開始し、関東地方の古瓦を精力的に県単位で集成しほぼ完璧な



資料集を完成させた。千葉県関係も須田勉がほぼ独力で昭和58年に完成させた。ただ非公開の研究会であったため集積した資料の公開を目指し、平成6年にシンポジウム「関東の国分寺」を開催し、関東の国分寺を総括する。平成9年に「関東の初期寺院」を開催し、関東の初期寺院を総括する。両シンポジウムにおいて千葉県の状況もよくまとめられ、現状では最良の資料になっている。

## 2 文 献 目 録

- 1 1917 大正6年 住田正一 「下総国分寺古瓦について」『考古学雑誌』8-2
- 2 1918 大正7年 住田正一 「上総国分寺古瓦考」『考古学雑誌』9-4
- 3 1922 大正11年 春永 政 「上総国分寺の文字瓦」『考古学雑誌』13-4
- 4 1923 大正12年 出井高義 「下総国分寺の文字瓦」『考古学雑誌』13-9
- 5 1926 大正15年 「下総国分寺址」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査第2輯』
- 6 " " 「上総国分寺址」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査2輯』
- 7 1929 昭和4年 三輪善之助 「下総の国分寺」『武蔵野』14-7
- 8 " " 三輪善之助 「上総の国分寺」『房総研究』1-4
- 9 " " 谷木光之助 「上総国分寺の遺跡と遺物」『房総研究』1-4
- 10 1930 昭和5年 古谷 清 「上総国分寺塔址」『文部省史蹟報告』5
- 11 1932 昭和7年 関根 貞 「竜角寺銅造薬師如来像及古瓦片」『歴史教育』7-4
- 12 " " 丸尾彰三郎 「竜角寺薬師如来像」『宝雲』3
- 13 " " 服部勝吉 「竜角寺塔心礎と古瓦」『宝雲』4
- 14 " " 「上総国分寺境内地積図及塔址礎石配置図(図)」『郷土愛』2-1 房総文庫刊行会
- 15 " " 「上総国分寺発見瓦(図)」『郷土愛』2-1 房総文庫刊行会
- 16 " " 古谷 清 「上総国分寺塔址」『郷土愛』2-1 房総文庫刊行会
- 17 1933 昭和8年 滝口 宏・平野元三郎 「下総国分寺址考」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査』10
- 18 " " 多田寅松 「竜角寺の薬師如来について」『千葉教育』491
- 19 " " 広岡城泉 「下総国竜角寺」『成田山新更』4-1
- 20 1934 昭和9年 篠崎四郎 「房総の寺址」『房総郷土研究』1-7
- 21 " " 氏家重次郎 「史蹟から見た竜角寺」『史蹟名勝天然記念物』9-10
- 22 " " 高橋直一 「竜角寺寺名考」『史蹟名勝天然記念物』9-6
- 23 " " 大場磐雄・内藤政恒・篠崎四郎 「上総国九十九坊廃寺址調査報告書」『史蹟名勝天然記念物』9-9
- 24 " " 「古瓦と石仏の発見」『房総郷土研究』1-10
- 25 1935 昭和10年 香取秀真 「竜角寺の薬師銅像」『美術研究』37
- 26 " " 服部清五郎 「金石史上よりみた中世以前の千葉市の開化史概観(上)」『房総郷土研究』2-3
- 27 " " 服部清五郎 「金石史上よりみた中世以前の千葉市の開化史概観(中)」『房総郷土研究』2-4
- 28 " " 服部清五郎 「金石史上よりみた中世以前の千葉市の開化史概観(下)」『房総郷土研究』2-5
- 29 " " 平野元三郎 「安房国分寺考」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査』10
- 30 1936 昭和11年 大川逞一 「竜角寺薬師像」『美術』11-12
- 31 " " 平野元三郎 「竜角寺縁起から」『千葉県史蹟調査』1
- 32 " " 柴田常恵 「千葉寺の研究」『房総郷土研究』3-1
- 33 1937 昭和12年 篠崎四郎 「上総国真里谷廃寺址」『考古学雑誌』27-10
- 34 " " 滝口 宏・平野元三郎 「上代仏教遺跡調査予報」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査』14
- 35 " " 服部清道 「上総大椎の古瓦遺跡調査概報」『房総郷土研究』4-2
- 36 1938 昭和13年 角田文衛編 『国分寺の研究』考古学研究会
- 37 " " 滝口 宏・平野元三郎 「下総国分寺」『国分寺の研究』
- 38 " " 滝口 宏・平野元三郎 「安房国分寺」『国分寺の研究』
- 39 " " 角田文次 「上総国分寺」『国分寺の研究』
- 40 1939 昭和14年 太田静六 「国分寺塔姿の一考察」『考古学雑誌』29-9・10

- 41 1940 昭和15年 篠崎四郎 「竜角寺文字攷」『考古学雑誌』30-4
- 42 // // 君塚好一 「「下総国分尼寺址」寺投入推定説を駁す」『武蔵野』27-11
- 43 // // 稲葉隣作 「竜角寺について」『千葉文化』2-4
- 44 1941 昭和16年 稲葉隣作 「国宝竜角寺薬師如来」『千葉文化』3-6
- 45 1942 昭和17年 上田三平 「下総竜角寺の新研究」
- 46 1943 昭和18年 塚本文次 「下総国分寺本堂の礎石について」『建築史』5-2
- 47 1947 昭和22年 石田茂作 「市原市市原郡市西村寺院址」『日本考古学年報』1
- 48 1949 昭和24年 滝口 宏 「終戦後早稲田大学に於ける考古学的調査について—下総龍角寺址調査—」『史観32』
- 49 // // 平野元三郎 「房総古寺」『房総展望』3-8
- 50 // // 滝口 宏・平野元三郎 「千葉県郷土史読本(上)」
- 51 // // 大場磐雄 「千葉寺を掘る」京成文化1
- 52 // // 滝口 宏 「上総国分寺」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査報告書(1)』
- 53 // // 渡辺保忠 「上総国分尼寺」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査報告書(1)』
- 54 1950 昭和25年 荻野三七彦 「竜角寺の縁起について」『史観』33
- 55 // // 「銅造薬師如来像」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査』2-3
- 56 1951 昭和26年 大野政治 「印旛風土記 竜角寺建立の基盤をなすもの」『房総展望』5-7
- 57 // // 滝口 宏・平野元三郎 「千葉県上総国分尼寺址」『日本考古学年報』1
- 58 1952 昭和27年 滝口 宏 「房総の史跡」『房総展望』6-9
- 59 // // 久保常春 「千葉県印旛郡長熊廃寺址発掘調査報告」『銅鐸』9
- 60 // // 篠崎四郎 「竜角寺管見」房総探古会
- 61 1953 昭和28年 丸子 亘 「千葉県印旛郡和田村熊野神社前の土師住居址発掘報告」『立正大学文学部論叢』1
- 62 // // 武田宗久 「千葉寺」『千葉市誌』
- 63 // // 宮原 実 「上総国分寺を中心とする史跡」市原村教育委員会
- 64 1954 昭和29年 滝口 宏 「下総国府国分二寺」『早稲田大学学術研究』2
- 65 // // 小出義治 「千葉県東葛飾郡流山廃寺址」『日本考古学年報』2
- 66 // // 金原省吾 「竜角寺の白鳳仏」『西郊文化』15・16
- 67 // // 滝口 宏 「千葉県上総国分寺址」『日本考古学年報』2
- 68 // // 大場磐雄・小出義治 「千葉県千葉市千葉寺址」『日本考古学年報』2
- 69 1955 昭和30年 久保常春 「千葉県印旛郡長熊廃寺址」『日本考古学年報』4
- 70 // // 滝口 宏 「市川市須和田奈良時代遺跡」『古代』14・15合併号
- 71 // // 滝口 宏・平野元三郎 「千葉県市原市菊間廃寺」『日本考古学年報』3
- 72 1956 昭和31年 滝口 宏・平野元三郎 「千葉県の歴史」『昭和30年版千葉県の文化財』
- 73 // // 久野 健 「関東古寺巡礼7-竜角寺-」『三彩』82
- 74 // // 山野辺薫 「下総竜角寺の研究」郷土誌資料5
- 75 // // 平野元三郎 「上総国分寺付近の条里制遺跡について」『國學院雑誌』56-5
- 76 1957 昭和32年 久保常春 「千葉県印旛郡長熊廃寺址講堂塔址」『日本考古学年報』5
- 77 // // 武田宗久 「千葉市千葉寺址」『日本考古学年報』5
- 78 // // 大川 清 「上総光善寺廃寺」『古代』24
- 79 1958 昭和33年 「考古学資料解説目録」成田山靈光館
- 80 // // 丸子 亘 「長熊廃寺周辺古瓦出土住居址2例」『銅鐸』14
- 81 1959 昭和34年 大川 清他 「千葉市大金沢町左作瓦窯跡址」『古代』33
- 82 // // 石田茂作 「東大寺と国分寺」日本歴史新書 至文堂
- 83 1960 昭和35年 坂詰秀一 「千葉県横宿古瓦出土遺跡の調査」『古代文化』5-1

I 序 説

- 84 1961 昭和36年 滝口 宏 「寺院址及び瓦塔」「附章及び結語」「印旛手賀」千葉県教育委員会
- 85 1961 昭和36年 「日本 4 歴史時代」世界考古学大系 平凡社
- 86 " " 松村 侑 「木下廃寺・竜腹寺・泉倉寺について」「成田史談」7
- 87 " " 「史蹟上総国分寺」五井町文化財研究会
- 88 1962 昭和37年 堀井三友 「上総国分寺」「国分寺址の研究」
- 89 1963 昭和38年 「千葉県史料原始古代編 -安房国-」千葉県
- 90 " " 久保常春 「千葉県印旛郡長熊廃寺一回廊・中門・南大門」「日本考古学年報」6
- 91 1964 昭和39年 高井悌三郎 「常陸台渡廃寺跡・下総結城八幡瓦窯跡」綜芸社
- 92 " " 「国指定史跡 上総国分寺塔址について(併)」『国分寺を中心とした史蹟』市原市教育委員会
- 93 " " 平野元三郎 「市原市上総国府関係遺跡」『千葉県遺跡調査報告書』千葉県教育委員会
- 94 1965 昭和40年 「ふるさと竜角寺」柴町教育委員会
- 95 1966 昭和41年 大川 清 「かわらの美」教養文庫 社会思想社
- 96 " " 「国分寺の造営」『市川』市川市教育委員会
- 97 1967 昭和42年 「千葉県史料原始古代編 -上総国-」千葉県
- 98 " " 熊野正也 「下総国分僧寺跡の発掘調査」『大和文化研究』12-1 (105号)
- 99 " " 大野政治 「下総国竜角寺・竜腹寺・竜尾寺三山縁起について」
- 100 " " 須田 勉 「上総国分寺址」『新鐘』早稲田大学
- 101 " " 滝口 宏 「昭和42年度上総国分寺址調査報告」千葉県教育委員会
- 102 " " 大川 清 「木更津矢那瓦窯址」『古代』49・50合併号
- 103 1968 昭和43年 滝口 宏 「発掘調査から見た総武-国分寺を中心として-」『早稲田大学大学院紀要』13
- 104 " " 坂井利明・市毛 勲 「南大広遺跡 海保古墳群」市原市教育委員会
- 105 " " 須田 勉 「千葉県上代寺院址一覧」『金鈴』20
- 106 " " 安藤鴻基・須田 勉 「上総大寺廃寺の古瓦」『金鈴』20
- 107 " " 杉原荘介・熊野正也 「下総国分寺址」市川市教育委員会
- 108 " " 丸子 亘 「千葉県八街町滝台遺跡緊急発掘調査報告」『日本考古学協会昭和43年度大会研究発表要旨』
- 109 " " 滝口 宏 「昭和43年度上総国分寺址調査報告」千葉県教育委員会
- 110 1969 昭和44年 鶴岡静夫 「関東古代寺院の研究」弘文堂
- 111 " " 江川良一 「下総国分寺」『房総史学』9
- 112 " " 倉田芳郎 「船戸遺跡」『我孫子古墳群』東京大学文学部考古学研究室
- 113 " " 滝口 宏 「昭和44年度上総国分寺址調査報告」千葉県教育委員会
- 114 1970 昭和45年 「飛鳥・白鳳の古瓦」奈良国立博物館
- 115 " " 滝口 宏 「氏寺の建立/国分寺造営」『古代の日本 7 関東』角川書店
- 116 " " 滝口 宏 「上総国分尼寺址の調査」『考古学ジャーナル』49
- 117 " " 「(下総国分寺) 鎧瓦」『かみしき(下総史料館だより)』3
- 118 " " 多字邦雄 「上総国分寺の研究」『早稲田実業高校研究紀要』5
- 119 1971 昭和46年 坂詰秀一 「シンポジウム歴史時代の考古学」学生社
- 120 " " 坂詰秀一 「仏教考古学序説」考古学選書 雄山閣
- 121 " " 稲垣晋也 「古代の瓦」日本の美術 至文堂
- 122 " " 熊野正也 「下総国分寺址及び同瓦窯址」『日本考古学年報』19
- 123 " " 「(下総国分寺) 字瓦」『かみしき(下総史料館だより)』4
- 124 " " 「(下総国分寺) 鎧瓦」『かみしき(下総史料館だより)』5

- 125 1971 昭和46年 川瀬 浩 「竜角寺の伽藍配置」『成田史談』17
- 126 " " 中村恵次他 『千葉県山武郡成東町湯坂遺跡発掘調査概報』湯坂遺跡発掘調査団
- 127 " " 滝口 宏 「市原市上総国分寺址」『日本考古学年報』19
- 128 1972 昭和47年 平野元三郎 「千葉県上代仏教文化史資料録」『千葉県の歴史』4
- 129 " " 「(下総国分寺) 鏡瓦」『かみしき』(下総史料館だより) 7
- 130 " " 「(下総国分寺) 宇瓦」『かみしき』(下総史料館だより) 8
- 131 " " 滝口 宏他 「下総竜角寺調査報告」千葉県教育委員会
- 132 " " 大川 清 『日本の古代瓦窯』雄山閣
- 133 " " 滝口 宏 「上総国分寺址」『日本考古学年報』20
- 134 1973 昭和48年 『房総 - その風土と歴史 -』千葉県博物館協会
- 135 " " 関口広次 「上総下総国分寺址出土古瓦の系譜と伝播」『史館』創刊号
- 136 " " 熊野正也 「国分寺の建立」『市川風土記』
- 137 " " 川戸 彰 「古代・中世の竜角寺1」『千葉県の歴史』5
- 138 " " 川戸 彰 「古代・中世の竜角寺2」『千葉県の歴史』6
- 139 " " 日下武重 『小見川町の歴史散歩』
- 140 " " 神山 崇 「山武郡芝山町金光寺について」『MUSEUMちば』2
- 141 " " 『市原のあゆみ』市原市
- 142 " " 滝口 宏 『上総国分寺』千葉県教育委員会
- 143 " " 大川 清 「東国国分寺造営時における造瓦組織の研究」『国士館大学人文学会紀要』5
- 144 " " 森 郁夫 「奈良時代の文字瓦」『日本史研究』136
- 145 1974 昭和49年 「埋もれた宮殿と寺」古代史発掘 講談社
- 146 " " 「奈良国立文化財研究所基準資料1 瓦編1」奈良国立文化財研究所
- 147 " " 「全国遺跡地図」12 千葉県文化庁
- 148 " " 滝口 宏 「国分寺建立の発詔」『市川市史』2
- 149 " " 石井則孝 「下総国分寺僧寺・尼寺の伽藍と下総国府の位置関係について」『史館』3
- 150 " " 寺村光晴他 『下総国分の遺跡』和洋女子大学
- 151 " " 佐藤克己・高木博彦 「木下庵寺の古瓦」『ふさ』5・6 合併号
- 152 " " 佐藤克己・沼澤 豊 「大塚前遺跡(CN405)」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』II
- 153 " " 『原始古代中世編 千葉市史』市史編纂委員会
- 154 " " 天野 努他 「村上込の内遺跡」『八千代市村上遺跡群』(財)千葉県都市公社
- 155 1975 昭和50年 「奈良国立文化財研究所基準資料2 瓦編2」奈良国立文化財研究所
- 156 " " 石田茂作他 『第2巻 寺院』新版仏教考古学講座 雄山閣
- 157 " " 森 郁夫 「奈良時代における東国の寺院造営」『考古学雑誌』61-4
- 158 " " 「(下総国分寺) 鏡瓦」『かみしき』(下総史料館だより) 14
- 159 " " 滝口 宏・熊野正也 「下総国分僧寺址寺域北限確認調査(速報)」『昭和49年市川博物館年報』
- 160 " " 熊野正也 「下総国分寺のはなし」市川市川博物館遺跡シリーズ2
- 161 " " 「公津原-成田ニュータウン内遺跡の考古学的調査-」千葉県企業庁
- 162 " " 種田齊吾・阪田正一 「千葉東南部ニュータウン3-有吉遺跡(第一次)」(財)千葉県文化財センター
- 163 " " 平岡和夫他 「湯坂古墳群」山武考古学研究会
- 164 " " 平岡和夫他 『成東町埋蔵文化財分布調査報告板附古墳群』
- 165 " " 「市原市考古学関係文献目録稿本市原市歴史年表」市原市
- 166 " " 須田 勉他 「南向原」上総国分寺台遺跡調査団
- 167 " " 玉口時雄 「堀ノ内遺跡」『健田遺跡発掘調査報告書』千葉県教育委員会 千倉町教育委員会

I 序 説

- 168 1975 昭和50年 内田儀久他 『将門鹿島台遺跡』佐倉市教育委員会  
 169 // // 熊野正也・伊礼正雄 『白井南』佐倉市教育委員会  
 170 // // 佐々木和博 「下総国分僧寺址出土の墨書土器」『MUSEUMちば—千葉県博物館協会研究紀要—』6  
 171 // // 鈴木仲秋 「房総における墨書土器の一考察」『史館』5  
 172 1976 昭和51年 // // 『奈良国立文化財研究所基準資料3瓦編3』奈良国立文化財研究所  
 173 // // 新羅愛子 『新訂房総研究文献総覧』多田屋  
 174 // // 須田 勉 「初期地方寺院の成立事情」『房総の郷土史』4  
 175 // // // 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和49・50年』千葉県教育庁文化課  
 176 // // 佐々木和博 「下総国分僧寺の寺域および寺域内地割について」『史館』6  
 177 // // 滝口 宏・熊野正也他 「下総国分僧寺址西限確認調査」『昭和50年度市立市川博物館年報』  
 178 // // // 『史料編1 原始古代中世編千葉市史』市史編纂委員会  
 179 // // 矢吹俊男他 「多古台遺跡群調査概報」日本文化財研究所  
 180 1977 昭和52年 // // 『奈良国立文化財研究所基準資料4瓦編4』奈良国立文化財研究所  
 181 // // // 『奈良国立文化財研究所基準資料5瓦編5』奈良国立文化財研究所  
 182 // // // 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和47・48年』千葉県教育庁文化課  
 183 // // 佐々木和博 「下総国分僧寺址北方における新発見の遺物」『昭和51年度市立市川博物館年報』  
 184 // // 石井則孝・熊野正也 「国府と国分寺」『いちかわ再発見—考古学からみた市川—』市川ジャーナル社  
 185 // // 中山吉秀・高橋良助 「手賀廃寺の古瓦」『史館』9  
 186 // // // 『特別展 茨城の古瓦』茨城県歴史館  
 187 // // 篠崎四郎 「史跡散歩76 佐倉の長熊廃寺」『京成ライン』京成電鉄株式会社  
 188 // // // 「古代建築史上重要な遺構を発見」『ちばの博物館・千葉県博物館協会報』5・6合併号  
 189 // // 寺門義範・田口 崇 『千葉県萩ノ原遺跡発掘調査報告』日本文化財研究所文化財調査報告5  
 190 // // 石田広美・松村恵司他 『山田水呑遺跡』山田遺跡調査会  
 191 // // 平野元三郎他 『上総法興寺跡—第一次発掘調査概要—』千葉県教育委員会  
 192 // // 高田 博他 『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書I』(勸千葉県文化財センター  
 193 // // 石井則孝 『古代房総文化の謎』人物往来社  
 194 1978 昭和53年 折原 繁・須田 勉 『千葉市築地台貝塚・平山古墳』(勸千葉県文化財センター  
 195 // // 須田 勉 「上総国分寺の造瓦組織と同範瓦の展開」『史館』10  
 196 // // 石井則孝 「房総国分寺跡調査と古代寺院について」『千葉県の歴史』15  
 197 // // 鈴木仲秋 「房総における墨書土器」『千葉県の歴史』15  
 198 // // // 『房総の古瓦』千葉県立房総風土記の丘  
 199 // // 奥田正彦 『佐原市神田台遺跡』(勸千葉県文化財センター  
 200 // // 工藤英行 「山谷遺跡発掘調査概要」『成田史談』23  
 201 // // // 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報—昭和50(その2)・51年度—』千葉県教育庁文化課  
 202 // // 大川 清 『永田・不入須恵窯跡』千葉県教育委員会  
 203 // // 滝口 宏 『木下別所廃寺跡第1次発掘調査概報』千葉県教育委員会・木下別所廃寺跡調査会  
 204 // // 平野元三郎 「岩室廃寺跡を中心に」『千葉文華』13  
 205 // // 平岡和夫他 『岩部遺跡』  
 206 1979 昭和54年 滝口 宏 『木下別所廃寺跡第2寺発掘調査概報』千葉県教育委員会・木下別所廃寺跡調査会  
 207 // // 田坂 浩 『ムコアラク遺跡・小金沢古墳群 千葉東南部ニュータウン8』(勸千葉県文化財センター  
 208 // // 田中清美 『千草山遺跡』千草山遺跡発掘調査団

- 209 1979 昭和54年 伊藤公子他 「高野台遺跡発掘調査報告書」 柏市教育委員会
- 210 // // 高橋健一 「江原台」 江原台第1遺跡発掘調査団
- 211 // // 高木博彦 「墨書土器よりみたる房総古代仏教の一側面」 『MUSEUMちばー千葉県博物館協会研究紀要ー第10号』 千葉県博物館協会
- 212 // // 須田 勉 「房総古瓦に関する覚書(2)ー川原井廃寺ー」 『古代』 65
- 213 // // 米田耕之助・鷹野光行 「上総国分寺台調査概報IV 祇園原貝塚調査概報」 市原市教育委員会
- 214 1980 昭和55年 郷田良一・雨宮龍太郎 「六通遺跡」 『千葉東南部ニュータウン9ー六通遺跡・御塚台遺跡』 (勸千葉県文化財センター)
- 215 // // 熊野正也 「若宮八幡遺跡」 『昭和54年度市川東部遺跡群発掘調査報告』 市川市教育委員会
- 216 // // 渋谷興平・渋谷 貢 「馬橋鷺尾余遺跡」 馬橋鷺尾余遺跡調査会
- 217 // // 松本 茂他 「尾井戸遺跡」 尾井戸遺跡調査会
- 218 // // 上野純司他 「千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」 千葉県教育委員会
- 219 // // 多宇邦雄・西川修一他 「曾谷窪瓦窯跡発掘調査概報」 早稲田大学考古学研究室・千葉県教育委員会
- 220 // // 高田 博他 「佐倉市江原台発掘調査報告書II」 (勸千葉県文化財センター)
- 221 // // 滝口 宏 「安房国分寺」 館山市教育委員会
- 222 // // 中山吉秀他 「西深井一の割遺跡」 『西深井一の割遺跡・西初石桜窪遺跡』 流山市教育委員会
- 223 // // 「日秀遺跡遺構確認調査概報」 (勸千葉県文化財センター)
- 224 // // 佐々木和博 「下総国分尼寺跡付近発見の古瓦ー新形式軒平瓦を中心にー」 『昭和54年度市立市川博物館年報』
- 225 // // 佐々木和博 「瓦当背面に布目痕を有する軒丸瓦ー関東の国分寺を中心としてー」 『史館』 12
- 226 // // 安藤鴻基 「房総七世紀史の一姿相」 『古代探叢』
- 227 // // 須田 勉 「古代地方豪族と造寺活動ー上総国を中心としてー」 『古代探叢』
- 228 // // 多宇邦雄 「下総龍角寺について」 『古代探叢』
- 229 1981 昭和56年 宮本敬一 「最近の調査から見た上総国分尼寺の伽藍と付属諸院1〜4」 『歴史教育』 第3巻9号〜12号
- 230 // // 天野 努他 「公津原II」 (勸千葉県文化財センター)
- 231 // // 福岡 元 「木内廃寺跡発掘調査概報」 千葉県教育委員会
- 232 1982 昭和57年 宮内勝巳 「下総国分遺跡第1地点」 『昭和56年度埋蔵文化財発掘調査報告』 市川市教育委員会
- 233 // // 福岡 元 「今富地区遺跡発掘調査報告書」 市原市今富地区遺跡調査会
- 234 // // 沼澤 豊 「成東町真行寺廃寺跡確認調査報告」 千葉県教育委員会
- 235 1983 昭和58年 須田 勉 「関東地方の瓦窯」 『佛教芸術』 148
- 236 // // 雨宮龍太郎 「古代村落と仏教ー磁鉢をめぐる人々ー」 『研究連絡誌』 2 (勸千葉県文化財センター)
- 237 // // 安藤鴻基 「上総法興寺跡古瓦拾遺」 『古代房総史研究』 2
- 238 // // 滝口 宏他 「成東町真行寺廃寺跡発掘調査概報」 成東町教育委員会
- 239 // // 関東古瓦研究会 「関東古瓦研究会資料 上総・安房編」
- 240 // // 関東古瓦研究会 「関東古瓦研究会資料 下総編」
- 241 // // 栗田則久 「バクナ穴遺跡」 『千葉東南部ニュータウン14』 (勸千葉県文化財センター)
- 242 // // 沼澤 豊 「下総町名木廃寺跡確認調査報告」 千葉県教育委員会
- 243 // // 本吉正宏 「法興寺の瓦窯」 『総南博物館館報』 特集号
- 244 // // 有沢 要・高橋 誠 「太田宿遺跡」 『岩富漆谷津・太田宿』 佐倉市教育委員会
- 245 // // 小宮 孟 「小座ふちき遺跡」 『東総用水』 (勸千葉県文化財センター)
- 246 // // 五代吉彦 「房総の古代寺院跡について」 『房総風土記の丘年報』 6
- 247 1984 昭和59年 今泉 潔他 「成東町真行寺廃寺跡研究調査報告」 (勸千葉県文化財センター)



I 序 説

- 248 1984 昭和59年 岡崎文喜他 『磯花遺跡』佐原市発掘調査会 磯花遺跡調査団
- 249 // // 郷堀英司他 『市原市二日市場廃寺跡確認調査報告書』千葉県教育委員会
- 250 // // 秋山利光他 『高津新山遺跡Ⅲ－昭和58年度確認調査の概要－』
- 251 // // 『小建築の世界』奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
- 252 // // 青沼道文他 『千葉市芳賀輪遺跡－第2・7次発掘調査概報』千葉市教育委員会
- 253 // // 三芳村史編纂委員会 『三芳村史』三芳村
- 254 // // 村田六郎太他 『谷津遺跡』千葉市教育委員会
- 255 // // 野村幸希他 『下総・龍正院瓦窯跡群』立正大学考古学研究室
- 256 // // 佐々木和博 『下総国分二寺軒瓦小考』『史館』16
- 257 // // 山路直充 『下総国分寺出土の文字瓦(1)』『昭和54年度市立市川博物館年報』
- 258 1985 昭和60年 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－昭和58年度－』千葉県教育庁文化課
- 259 // // 小沢 洋 『境遺跡』(勸君津郡市文化財センター)
- 260 // // 柿沼修平 『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅰ』佐倉市大崎台B地区遺跡調査会
- 261 // // 阪田正一・藤岡孝司 『八千代市北海道遺跡』(勸千葉県文化財センター)
- 262 // // 勝又貫行 『林遺跡』多古町林遺跡発掘調査会
- 263 // // 小林清隆 『大畑Ⅰ－2遺跡－県単道路成田安食線埋蔵文化財調査報告書』(勸千葉県文化財センター)
- 264 // // 石田広美 『向台遺跡』『大畑Ⅰ遺跡』『主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書』(勸千葉県文化財センター)
- 265 // // 新井和之 『大袋台畑遺跡』『松崎白子・大袋台畑・塔之下遺跡発掘調査報告書』成田市松崎・大袋遺跡調査会
- 266 // // 須田 勉 『平安初期における村落内寺院の存在形態』『古代探叢Ⅱ』
- 267 // // 豊巻幸正・小沢 洋他 『永吉台遺跡群』(勸君津郡市文化財センター)
- 268 // // 堀越正行・山路直充 『下総国分尼寺跡Ⅲ』市川市教育委員会
- 269 // // 滝口 宏・谷川章雄他 『成東町真行寺廃寺跡発掘調査報告』成東町教育委員会
- 270 // // 篠原 正 『北大堀遺跡』『北大堀猿楽場遺跡発掘調査報告書』(勸印旛郡市文化財センター)
- 271 // // 『竜角寺古墳群調査の意義』『房総風土記の丘年報』8
- 272 // // 佐々木和博 『下総国分二寺軒瓦の基礎的研究』『論集 日本原史』
- 273 // // 須田 勉 『上総国分僧寺跡調査の意義』『日本歴史』442
- 274 1986 昭和61年 『東郷台遺跡(川原井廃寺)』(勸君津郡市文化財センター)
- 275 // // 相京邦彦・池田大助 『谷津遺跡』『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群－』(勸千葉県文化財センター)
- 276 // // 大野康男 『栄町植生郡衙跡確認調査報告書』千葉県教育委員会
- 277 // // 堀越正行・山路直充 『下総国分尼寺跡Ⅳ』市川市教育委員会
- 278 // // 桐谷 優・平田貴正 『千葉県東金市作畑遺跡』作畑遺跡調査会
- 279 // // 光江 章 『愛宕前遺跡』『上総鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』(勸君津郡市文化財センター)
- 280 // // 永沼律朗 『千葉市小食土廃寺跡確認調査報告書』千葉県教育委員会
- 281 // // 三浦和信 『伊篠白幡遺跡B地点』『酒々井町伊篠白幡遺跡』(勸千葉県文化財センター)
- 282 // // 三浦和信 『巢根遺跡』『多古工業団地内遺跡群発掘調査報告書』(勸千葉県文化財センター)
- 283 // // 三浦和信 『土持台遺跡』『多古工業団地内遺跡群発掘調査報告書』(勸千葉県文化財センター)
- 284 // // 渋谷興平・渋谷 貢 『広遺跡』『坂戸遺跡』佐倉市坂戸遺跡調査会
- 285 // // 石田守一・岡村眞文・落合章雄 『根戸城跡』『西原遺跡・根戸城跡』我孫子市教育委員会



- 286 1986 昭和61年 長内美知枝 「油作第2遺跡」『平賀』平賀遺跡群発掘調査会
- 287 // // 武部喜充他 「野出山遺跡」『荒追遺跡群—発掘調査報告書』荒追遺跡群調査会
- 288 // // 福間 元他 「柳台遺跡」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』八日市場市教育委員会
- 289 // // 平岡和夫他 「入谷遺跡」『千葉県山武町荒追遺跡群発掘調査報告書』荒追遺跡群調査会
- 290 // // 「六拾部遺跡発掘調査報告書」佐倉市教育委員会
- 291 // // 山路直充 「下総国分寺出土の文字瓦(2)」『昭和60年度市立市川博物館年報』
- 292 // // 森 郁夫 「奈良時代における東国の寺院造営」『考古学雑誌』86—4
- 293 1987 昭和62年 永沼律朗 「佐倉市長熊廃寺跡確認調査報告書」(財)千葉県文化財センター
- 294 // // 田中清美 「千草山遺跡の再検討」『市原市文化財センター研究紀要』I
- 295 // // 「庚塚遺跡」『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書III(大栄地区2)』(財)千葉県文化財センター
- 296 // // 今泉潔他 「大井東山遺跡・大井大畑遺跡」(財)千葉県文化財センター
- 297 // // 斎木 勝 「瓦当範一例」『考古学雑誌』73—2
- 298 // // 柴田龍司・小高春雄 「八田太田台遺跡」『主要地方道成田松尾線V』(財)千葉県文化財センター
- 299 // // 藤岡孝司 「八千代市井戸向遺跡—萱田地区埋蔵文化財調査報告書IV」(財)千葉県文化財センター
- 300 // // 米田耕之助他 「沢遺跡」(財)市原市文化財センター
- 301 // // 林田利之他 「成田市産業廃棄物処理場予定地内埋蔵文化財調査報告書 椎ノ木遺跡」(財)印旛郡市文化財センター
- 302 1986 昭和61年 「千葉県埋蔵文化財分布地図(2)」(財)千葉県文化財センター
- 303 1987 昭和62年 「千葉県埋蔵文化財分布地図(3)」(財)千葉県文化財センター
- 304 1988 昭和63年 「千葉県埋蔵文化財分布地図(4)」(財)千葉県文化財センター
- 305 // // 菊地敏記他 「久能高野遺跡」『久能遺跡群発掘調査報告書』(財)印旛郡市文化財センター
- 306 // // 栗田則久 「東野遺跡」『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書IV—佐原地区(1)—』(財)千葉県文化財センター
- 307 // // 原田享二他 「関峯崎横穴群3号横穴」『佐原市内遺跡群発掘調査概報II』佐原市教育委員会
- 308 // // 今泉 潔 「古代寺院跡(宝珠院)確認調査報告」千葉県教育委員会
- 309 // // 勝又貫行 「太良内遺跡—千葉県香取郡多古町太良内遺跡発掘調査報告書—」多古町遺跡調査会
- 310 // // 勝又貫行 「中内原遺跡」多古町教育委員会
- 311 // // 小久貫隆史 「八日市場市平木遺跡」(財)千葉県文化財センター
- 312 // // 道澤 處 「双賀辺田No1遺跡発掘調査報告書」鎌ヶ谷市教育委員会
- 313 // // 木内達彦 「下台遺跡・尾上藤木遺跡A・B地区発掘調査報告書」(財)印旛郡市文化財センター
- 314 // // 有澤 要・斉藤 毅他 「岩戸広台遺跡B地区」『岩戸広台遺跡A地区・B地区発掘調査報告書』(財)印旛郡市文化財センター
- 315 // // 山路直充 「中島辨智氏旧蔵の瓦(1)」『昭和62年度市立市川博物館年報』
- 316 // // 山路直充・領塚正浩 「市川出土の古瓦1」市立市川考古博物館図録16 市立市川考古博物館
- 317 1989 平成元年 田中清美 「千草山遺跡・東千草山遺跡」(財)市原市文化財センター
- 318 // // 山口直人 「宮台遺跡」(財)山武郡南部地区文化財センター
- 319 // // 中野修秀他 「織幡地区遺跡群発掘調査報告書」小見川町埋蔵文化財調査会
- 320 // // 川根正教 「北谷津第2遺跡」『加地区遺跡群』流山市教育委員会
- 321 // // 斉藤信明 「結城廃寺第1次発掘調査概報」結城市教育委員会
- 322 // // 小林信一 「木更津市上名主ヶ谷窯跡確認調査報告書」千葉県教育委員会
- 323 // // 大原正義 「栄町龍角寺確認調査報告」千葉県教育委員会

I 序 説

- 324 1989 平成元年 上原真人 「東国国分寺の文字瓦再考」『古代文化』41-12
- 325 // // 本吉正宏 「房総における古瓦の様相」『國學院大學考古学資料館紀要』5
- 326 1990 平成2年 // 「千葉県文化財センター年報No15」(勸千葉県文化財センター)
- 327 // // 大木英行・寺内博之 「囲護台遺跡群 成田市計画事業 成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」成田市教育委員会
- 328 // // 喜多圭介 「野毛平植出遺跡」『ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(III)』(勸印旛郡市文化財センター (株)ニュー東京空港カントリー倶楽部)
- 329 // // 栗田則久 「佐原市吉原三王遺跡」(勸千葉県文化財センター)
- 330 // // 原田享二 「多田日向遺跡」『シンポジウム平安前期の村落とその仏教 発表資料』千葉県立房総風土記の丘
- 331 // // 斎藤太郎・鈴木仁子 「海神台西遺跡第1次～第4次調査報告」船橋市教育委員会
- 332 // // 「財団法人山武郡市文化財センター年報No5」(勸山武郡市文化財センター)
- 333 // // 松田政基他 「小原子遺跡群」小原子遺跡群調査会・芝山町教育委員会
- 334 // // 関口達彦他 「千葉東南部ニュータウン17-高沢遺跡-」(勸千葉県文化財センター)
- 335 // // 太田文雄 「伊地山藤之台遺跡 大柴栗源干潟線埋蔵文化財調査報告書」(勸千葉県文化財センター)
- 336 // // 谷 旬 「八日市場市大寺廃寺跡確認調査報告書」千葉県教育委員会
- 337 // // 津田芳男他 「千葉県茂原市桂遺跡群発掘報告書」(勸長生郡市文化財センター)
- 338 // // 木内達彦 「千葉県印旛郡酒々井町長勝寺脇館跡」(勸印旛郡市文化財センター)
- 339 // // 山路直充 「中島辨智氏旧蔵の瓦(2)」『平成元年度市立市川博物館年報』
- 340 // // 山路直充 「下総国分寺跡採集といわれる2点の字瓦」『千葉史学』17
- 341 1991 平成3年 麻生正信他 「多古町南借当遺跡-県単橋梁架挽(借当橋)事業に伴う埋蔵文化財調査報告書-」(勸千葉県文化財センター)
- 342 // // 「財団法人山武郡市文化財センター年報No6」(勸山武郡市文化財センター)
- 343 // // 「千葉県文化財センター年報No16」(勸千葉県文化財センター)
- 344 // // 山口典子 「佐倉市栗野I・II遺跡」(勸千葉県文化財センター)
- 345 // // 渋谷 貢・荒井世志紀 「仲ノ台遺跡」『大台遺跡群』(勸山武郡市文化財センター)
- 346 // // 石本俊則 「中林遺跡」(勸山武郡市文化財センター)
- 347 // // 大野康男 「八千代市白幡前遺跡」(勸千葉県文化財センター)
- 348 // // 米田幸雄 「天神台遺跡」『天神台・ヤジタ遺跡発掘調査報告書』(勸印旛郡市文化財センター)
- 349 // // 斉藤信明 「結城廃寺第3次発掘調査概報」結城市教育委員会
- 350 // // 山路直充 「中島辨智氏旧蔵の瓦(3)」『平成2年度市立市川博物館年報』
- 351 // // 大脇 潔 「畿内と東国の初期寺院」『東国の初期寺院』栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
- 352 // // 房総歴史考古学研究会 「房総における奈良平安時代の出土文字資料」1
- 353 // // 「平安前期の村落とその仏教」房総風土記の丘年報14
- 354 1992 平成4年 // 「第7回市原市文化財センター遺跡発表会要旨 平成3年度」(勸市原市文化財センター)
- 355 // // 青木 司 「伊地山藤之台遺跡第2地点」『佐原市内遺跡群発掘調査概報VI』佐原市教育委員会
- 356 // // 菊地健一他 「中鹿子第2遺跡」『千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書』(勸千葉市文化財調査協会)
- 357 // // 寺門義範他 「南河原坂第2遺跡」『土気南遺跡群1』(勸千葉市文化財調査協会)
- 358 // // 寺門義範他 「大椎第2遺跡」『土気南遺跡群1』(勸千葉市文化財調査協会)
- 359 // // 「財団法人山武郡市文化財センター年報No7」(勸山武郡市文化財センター)
- 360 // // 「居寒台遺跡」埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成3年度-」千葉市教育委員会
- 361 // // 「勸印旛郡市文化財センター年報8-平成3年度-」(勸印旛郡市文化財センター)

- 362 1992 平成4年 田中清美 『奉免上原台遺跡』(勸市原市文化財センター)
- 363 // // 山本哲也 『文脇遺跡』(勸君津郡市文化財センター)
- 364 // // 『川島遺跡発掘調査報告書』(勸君津郡市文化財センター)
- 365 // // 谷 旬他 『東金市井戸ヶ谷遺跡』(勸千葉県文化財センター)
- 366 // // 渡辺高弘 『千葉市宇津志野窯跡確認調査報告書』千葉県教育委員会
- 367 1993 平成5年 渡辺修一 『千葉市地藏山遺跡(2)―住宅都市整備公団 千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告2』(勸千葉県文化財センター)
- 368 // // 稲見英輔 「坂志岡・尼ヶ谷遺跡」『平成4年度芝山町内遺跡発掘調査報告書小池麻生遺跡・坂志岡・尼ヶ谷遺跡』芝山町教育委員会
- 369 // // 金丸 誠・森本和男 『佐倉市南広遺跡―佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書X―』(勸千葉県文化財センター)
- 370 // // 原田亨二 『事業報告II―平成2年度・平成3年度―』(勸香取郡市文化財センター)
- 371 // // 宮内勝己他 『高岡遺跡群II～IV』(勸印旛郡市文化財センター)
- 372 // // 寺門義範 「文六第2遺跡」『土気南遺跡群IV』(勸千葉市文化財調査協会)
- 373 // // 小林信一 『千原台ニュータウンV―押沼第1遺跡K地点』(勸千葉県文化財センター)
- 374 // // 田所 真 「孟地遺跡の坏」『市原市文化財センター研究紀要II』(勸市原市文化財センター)
- 375 // // 『平和台遺跡発掘調査概報』流山市教育委員会
- 376 // // 岡本東三 「下総竜角寺の山田寺式軒瓦について」『千葉史学』23
- 377 // // 小出伸夫・西川修一・山路直充 「千葉県印西町木下別所廃寺の鏡瓦」『古代』96
- 378 // // 山路直充 「下総国分寺創建期鏡瓦の制作技法と千葉寺廃寺の事例」『千葉県の歴史』45
- 379 1994 平成6年 平野 功 『織幡妙見堂遺跡II』(勸香取郡市文化財センター)
- 380 // // 『市原市文化財センター年報 昭和63年度』『市原市文化財センター年報 平成元年度』
- 381 // // 山下亮介 「あすみが丘の遺跡群」『平成5年度千葉市遺跡発表会要旨』(勸千葉市文化財調査協会)
- 382 // // 金丸 誠他 『佐倉市六拾部遺跡』(勸千葉県文化財センター)
- 383 // // 「嶋戸東遺跡」『財団法人山武郡市文化財センター年報No.9』(勸山武郡市文化財センター)
- 384 // // 野沢彰哉 「茨城県における古代瓦の研究」茨城県立歴史館
- 385 // // 西口 徹 「大野第7遺跡」『土気緑の森工業団地内発掘調査報告書』(勸千葉県文化財センター)
- 386 // // 西口 徹 「西大野第1遺跡」『土気緑の森工業団地内発掘調査報告書』(勸千葉県文化財センター)
- 387 // // 西口 徹 「大椎第2遺跡」『土気緑の森工業団地内発掘調査報告書』(勸千葉県文化財センター)
- 388 // // 今泉 潔・笹生 衛 「小谷遺跡」『千葉県木更津市大畑台遺跡群遺跡発掘事前総合調査報告書』木更津市教育委員会
- 389 // // 「一之綱II・一之綱III遺跡」『財団法人印旛郡市文化財センター年報10―平成5年度』(勸印旛郡市文化財センター)
- 390 // // 田形孝一 『市原市川焼瓦窯跡発掘調査報告書』千葉県教育委員会
- 391 // // 笹生 衛 『上大城遺跡発掘調査報告書』(勸君津郡市文化財センター)
- 392 // // 山口直人 「郡内出土仏教関係遺構・遺物の基調報告」『記念講演会資料 東上総の古代仏教』(勸山武郡市文化財センター)
- 393 // // 山口直人 『南麦台遺跡』(勸山武郡市文化財センター)
- 394 // // 山路直充他 『下総国分寺跡 平成元年～5年度発掘調査報告書』市川市教育委員会
- 395 // // 『事業報告III』(勸香取郡市文化財センター)
- 396 // // 部 淳一・宮 文子他 「飯仲金堀遺跡」『公津東遺跡群I』(勸印旛郡市文化財センター)
- 397 // // 部 淳一・宮 文子他 「飯田町南向野遺跡」『公津東遺跡群I』(勸印旛郡市文化財センター)

I 序 説

- 398 1994 平成 6 年 小久貫隆史・新田浩三 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書VIII取香和田戸遺跡（空港 Na60遺跡）』（勸千葉県文化財センター）
- 399 // // 『本郷台遺跡（第7次調査）』『山武考古学研究所年報No13』山武考古学研究所
- 400 // // 『千葉県文化財センター年報No19』（勸千葉県文化財センター）
- 401 // // 田形孝一 『草刈に寺はあったのか？出土文字資料と地名』『千葉県史研究』2
- 402 // // 半澤幹雄 『栗焼棒遺跡出土の掘立柱建物跡について』『研究連絡誌』42（勸千葉県文化財センター）
- 403 // // 平山誠一他 『砂田中台遺跡』（勸山武郡市文化財センター）
- 404 // // 梁瀬裕一 『生実城跡』『財団法人千葉市文化財調査協会年報』6
- 405 // // 郷堀英司 『鳴神山遺跡群の文字資料』『研究連絡誌』40（勸千葉県文化財センター）
- 406 // // 椎名信也 『滝東台遺跡』『油井古塚原遺跡群』（勸山武郡市文化財センター）
- 407 // // 大野康男 『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書 VII』（勸千葉県文化財センター）
- 408 // // 宮本敬一 『上総国分寺の成立－尼寺の造営過程を中心に』『東海道の国分寺』栃木県教育委員会
- 409 // // 岡本東三 『東国の川原寺式軒瓦の波及年代をめぐって』『千葉史学叢書』
- 410 // // 岡本東三 『紀寺式軒瓦の編年の位置について』『千葉史学』25
- 411 // // 山路直充 『下総国分寺』『東国の国分寺』関東古瓦研究会シンポジウム資料
- 412 // // 高橋康男 『上総国分寺』『東国の国分寺』関東古瓦研究会シンポジウム資料
- 413 1995 平成 7 年 宮 文子 『大袋山王第2遺跡B地区』『公津東遺跡群II』（勸印旛郡市文化財センター）
- 414 // // 『事業報告IV』（勸香取郡市文化財センター）
- 415 // // 『千葉県文化財センター年報No20』（勸千葉県文化財センター）
- 416 // // 小林清隆・石本俊則 『大網山田台遺跡群II』（勸山武郡市文化財センター）
- 417 // // 椎名信也 『油井古塚原遺跡』『油井古塚原遺跡群』（勸山武郡市文化財センター）
- 418 // // 當眞紀子 『神田遺跡』『神田遺跡・神田古墳群』（勸君津郡市文化財センター）
- 419 // // 萩原恭一他 『下総町新シ山・柳和田台遺跡 青山中峰遺跡 青山宮脇遺跡』（勸千葉県文化財センター）
- 420 // // 加藤正信他 『袖ヶ浦市文協遺跡』（勸千葉県文化財センター）
- 421 // // 『富津市川島遺跡』『千葉県文化財センター年報No20』（勸千葉県文化財センター）
- 422 // // 田中清美 『謎の千草山廃寺跡（予察）』『市原市文化財センター紀要』3
- 423 // // 宮本敬一 『墨書土器から見た国分寺の講師院と読師院』『日本通史』月報22 岩波書店
- 424 // // 高木博彦 『真行寺廃寺跡近傍発見の軒丸瓦』『千葉県立房総風土記の丘年報』18
- 425 // // 田形孝一 『集落から村落へ(1)』『研究連絡誌』第47号（勸千葉県文化財センター）
- 426 // // 稲葉昭智 『南子安全井崎遺跡』（勸君津郡市文化財センター）
- 427 1996 平成 8 年 石坂雅樹 『宮本台遺跡群(4)』『平成7年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
- 428 // // 糸原 清 『一般国道464号県単道路改良事業埋蔵文化財調査報告』（勸千葉県文化財センター）
- 429 // // 喜多圭介 『城次郎丸遺跡』（勸印旛郡市文化財センター）
- 430 // // 香取正彦他 『一般国道296号国道改良事業埋蔵文化財調査報告書1』（勸千葉県文化財センター）
- 431 // // 加納 実 『市原市武士遺跡I』（勸千葉県文化財センター）
- 432 // // 『市原市文化財センター年報 平成4年度』（勸市原市文化財センター）
- 433 // // 小高幸男 『郡遺跡郡遺跡』『郡発掘調査報告書II』（勸君津郡市文化財センター）
- 434 // // 松田政基他 『峯崎遺跡』山武考古学研究所
- 435 // // 『上ノ山A・上ノ山B・下根田A・下根田B・御所塚遺跡』（勸君津郡市文化財センター）
- 436 // // 杉山晋作 『駄ノ塚西古墳の調査』『国立歴史民俗博物館研究報告』第65集
- 437 // // 村田六郎太 『鐘つき堂遺跡』『土気南遺跡群VII』（勸千葉市文化財調査協会）

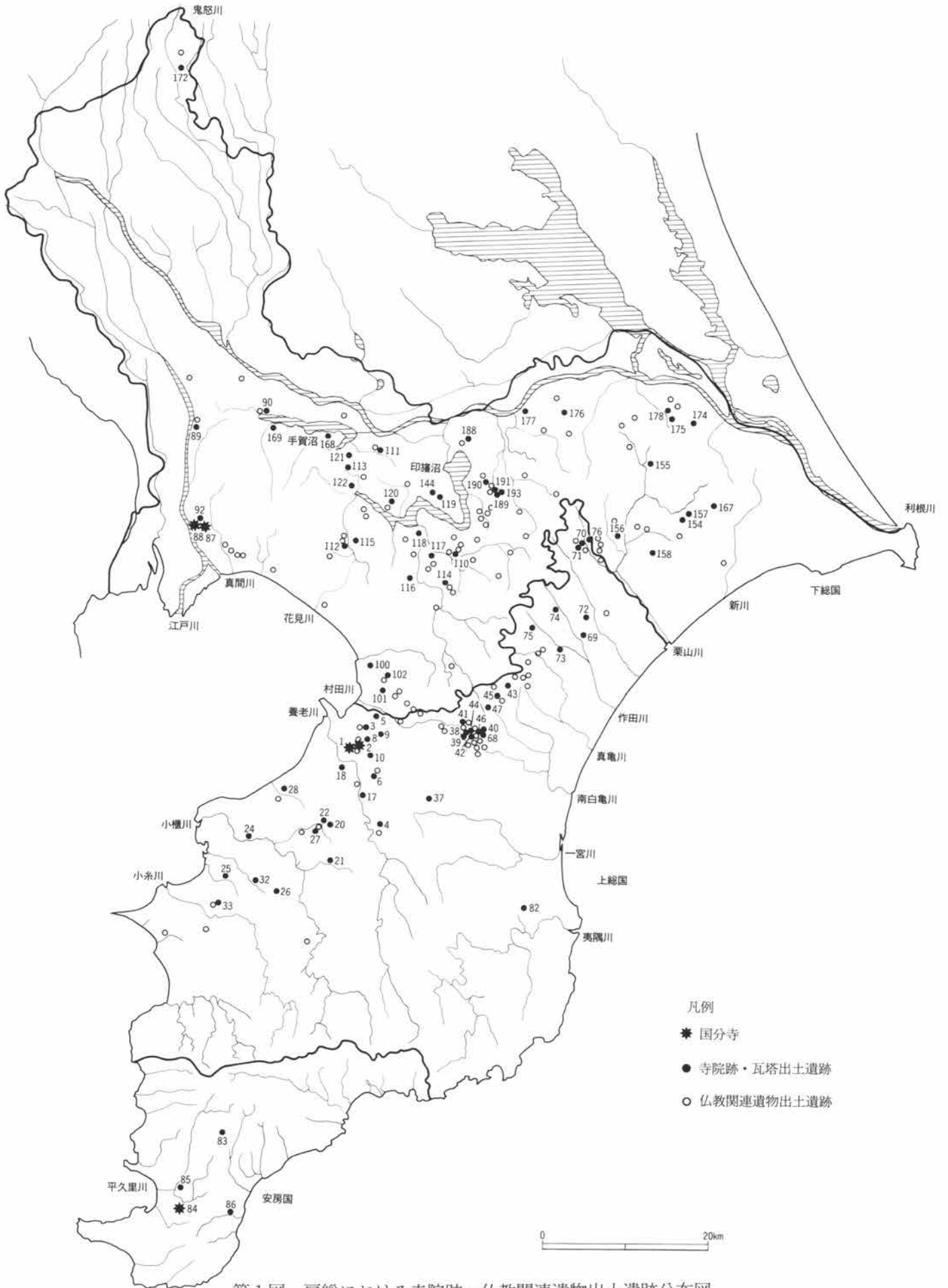
- 438 1996 平成8年 村田六郎太 「南河原坂窯跡群」『土気南遺跡群VII』(勸千葉県文化財調査協会)
- 439 // // 猪股昭喜・谷 旬 「本埜村角田台遺跡出土の文字資料」『研究連絡誌』46 (勸千葉県文化財センター)
- 440 // // 津田芳男 「針ヶ谷遺跡」『平成7年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』千葉県文化財法人連絡協議会・千葉市教育委員会
- 441 // // 『柏市埋蔵文化財調査報告書』柏市教育委員会・柏市遺跡調査会
- 442 // // 「尾亭遺跡B地区」『(勸山武郡市文化財センター年報No.11)』
- 443 // // 「千葉県文化財センター年報No.21」(勸千葉県文化財センター)
- 444 // // 平野 功 「月輪神社遺跡」(勸香取郡市文化財センター)
- 445 // // 鳴田浩司 「池尻遺跡」『主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告2』(勸千葉県文化財センター)
- 446 // // 林田利之 「臼井屋敷跡遺跡」(勸印旛郡文化財センター)
- 447 // // 「事業報告V」(勸香取郡市文化財センター)
- 448 // // 藤岡孝司 「古代東国村落の構造—中核集落と衛星集落」『古代』101
- 449 // // 岡本東三 「東国の古代寺院と瓦」吉川弘文館
- 450 1997 平成9年 渡部 真・青沼道文 「芳賀輪遺跡」『平成8年度 千葉市遺跡発表会要旨』千葉市教育委員会・(勸千葉県文化財調査協会)
- 451 // // 『市原市文化財センター年報 平成5年度』(勸市原市文化財センター)
- 452 // // 「根切遺跡」我孫子市教育委員会
- 453 // // 山口直人 「山田・宝馬古墳群(1020地点)」(勸山武郡市文化財センター)
- 454 // // 「事業報告VI」(勸香取郡市文化財センター)
- 455 // // 「千葉県埋蔵文化財分布地図(1)」(勸千葉県文化財センター)
- 456 // // 「東総文化財センター年報」1 (勸東総文化財センター)
- 457 // // 「村神郷の文化人たち—墨書土器—」八千代市歴史民俗資料館
- 458 // // 木川浩司 「鷲山入遺跡」『平成8年度 千葉県遺跡調査研究発表会 発表要旨』
- 459 // // 糸原 清 「上総国の初期寺院」『関東の初期寺院』関東古瓦研究会シンポジウム資料
- 460 // // 辻 史郎 「下総国の初期寺院」『関東の初期寺院』関東古瓦研究会シンポジウム資料
- 461 // // 石戸啓夫・小牧美知枝 「千葉県印旛郡栄町竜角寺五斗葺瓦窯跡」(勸印旛郡文化財センター)
- 〔追加〕
- 462 1985 昭和60年 森本和男 「君津市九十九坊廃寺址調査報告」(勸千葉県文化財センター)
- 463 1994 平成6年 麻生正信 「長柄町横穴群徳増支群発掘調査報告書」(勸千葉県文化財センター)
- 464 1983 昭和58年 阪田正一 「八千代市権現後遺跡」(勸千葉県文化財センター)
- 465 1975 昭和50年 須田 勉・宮本敬一 「上総国分尼寺」『仏教芸術』103
- 466 1980 昭和55年 宮本敬一 「上総国分尼寺跡の調査—寺域北東部における付属雑舎群の調査—」  
『上総国分寺台発掘調査概報』上総国分寺台遺跡調査団・市原市教育委員会
- 467 1981 昭和56年 宮本敬一 「上総国分尼寺跡の調査(1980年度)」『上総国分寺台発掘調査概報』上総国分寺台遺跡調査団 市原市教育委員会
- 468 1982 昭和57年 須田 勉 「上総国分僧寺跡—寺域東南部における調査—」『上総国分寺台発掘調査概報X』上総国分寺台発掘調査団 市原市教育委員会
- 469 // // 須田 勉・浅利幸一 「上総国分僧寺跡—寺域北西部における調査—」『上総国分寺台発掘調査概報XI』上総国分寺台発掘調査団・市原市教育委員会
- 470 1976 昭和51年 須田 勉・宮本敬一 「上総国分寺台発掘調査概要II」上総国分寺台遺跡調査団
- 471 1979 昭和54年 須田 勉 「上総国分僧寺北辺部の調査」『上総国分寺台調査概報』上総国分寺台遺跡調査団
- 472 1980 昭和55年 須田 勉 「上総国分僧寺跡—寺域西辺部の調査—」『上総国分寺台発掘調査概要VII』上総国分寺台遺跡調査団

I 序 説

- 473 1981 昭和56年 須田 勉 「上総国分僧寺—寺域東南部における調査—」『上総国分寺台発掘調査概要VIII』上総国分寺台遺跡調査団
- 474 1973 昭和48年 平野元三郎 「下あらく遺跡」『日本考古学年報』24
- 475 1977 昭和52年 須田 勉 「上総国分寺台発掘調査概要IV 坊作遺跡の調査」上総国分寺台遺跡調査団
- 476 1994 平成6年 田熊信之・天野 茂 『宇野信四郎蒐集 古瓦集成』東京堂出版
- 477 1993 平成5年 笹生 衛・大野康男他 『房総考古学ライブラリー7 歴史時代(1)』(勸千葉県文化財センター)
- 478 1968 昭和43年 住田正一・内藤政恒 『古瓦』学生社
- 479 1985 昭和60年 中井 公 「桶型内巻作り平瓦の事例—千葉縣市原市光善寺廃寺出土の凸面布目平瓦—」『考古学と移住・移動』同志社大学考古学シリーズII
- 480 1987 昭和62年 中井 公 「いわゆる凸面布目平瓦について」『歴史考古学を考える—古代瓦の生産と流通—』帝塚山考古学研究所
- 481 1994 平成6年 鈴木仲秋 『東国地域史文化史序説』暁印書館
- 482 1990 平成2年 「史跡 上総国分尼寺跡」『平成元年度 千葉県遺跡調査研究発表会 要旨』千葉県文化財法人連絡協議会
- 483 1995 平成7年 田所 真 「上総の「造寺司」—坊作遺跡出土の墨書土器を中心に—」『市原市文化財センター研究紀要III』
- 484 1987 昭和62年 田所 真 「市原市坊作遺跡(旧市原郡)」『房総における歴史時代土器の研究』房総歴史考古学研究会
- 485 1978 昭和53年 須田 勉 「房総の古瓦に関する覚書(1)」『古代』64
- 486 1976 昭和57年 須田 勉 「上総国府の諸問題(一)—特にその所在地をめぐって—」『古代』61
- 487 1997 平成9年 小出伸夫 「二日市場遺跡」『平成8年度 市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 489 1989 平成元年 今泉 潔・山口典子 「市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘調査報告書」(勸千葉県文化財センター)
- 490 1990 平成2年 『(勸千葉市文化財調査協会 年報2—昭和62・63年度—)』(勸千葉市文化財調査協会)
- 491 1983 昭和58年 沼澤 豊他 『成東町真行寺廃寺跡研究調査概報』(勸千葉県文化財センター)
- 492 1995 平成7年 山路直充他 『下総国分寺 いま見つめなおす下総の天平文化』市立市川考古博物館図録17
- 493 1983 昭和58年 堀越正行他 『下総国分尼寺跡I』市立市川考古博物館
- 494 1984 昭和59年 堀越正行他 『下総国分尼寺跡II』市立市川考古博物館
- 495 1995 平成7年 松本太郎他 『平成5年度 市川市内遺跡発掘調査報告書』市川市教育委員会
- 496 // // 松本太郎 『下総国分遺跡 第42地点(その2)』市川市教育委員会
- 497 1994 平成6年 熊野正也編 『東京低地の古代—考古学からみた旧葛飾郡とその周辺』崙書房
- 498 1997 平成9年 熊野正也編 『古代末期の葛飾郡』崙書房
- 499 1990 平成2年 今泉 潔 「瓦と建物の相剋」試論—大塚前出土瓦の分析—『千葉具文化財センター研究紀要』12
- 500 // // 永沼律朗 「上総における瓦生産の一例」『千葉県文化財センター研究紀要』12
- 501 1968 昭和63年 三舟隆之 「下総結城廃寺の成立」『北下総地方史2』
- 502 1987 昭和62年 山路直充 「市川市出土の軒先瓦について」『古代』83
- 503 1985 昭和60年 多宇邦雄 「下総龍角寺文字瓦考」『古代探叢』II
- 504 1978 昭和53年 石井則孝 「龍角寺の選地について」『千葉県房総風土記の丘年報』2
- 505 1989 平成2年 関口達彦 「千葉市中原窯跡確認調査報告書」千葉県教育委員会
- 506 1997 平成9年 林田利之 『新橋高松遺跡』(勸印旛郡市文化財センター)
- 507 1982 昭和57年 『日秀遺跡遺構確認調査・別当地遺跡発掘調査』我孫子市教育委員会
- 508 1984 昭和59年 安藤鴻基 「上総大寺考」『研究員紀要 第3集』千葉県立上総博物館



- 509 1934 昭和9年 小熊吉蔵 「君津郡中郷村大寺廃寺址考」『房総郷土研究』1-10
- 510 1996 平成8年 甲斐博幸他 「常代遺跡群」(勸君津郡市文化財センター)
- 511 1981 昭和56年 田川 良他 「千葉市土気・日向遺跡発掘調査報告書」千葉市遺跡調査会
- 512 1978 昭和53年 三森俊彦他 「木更津市菅生第2遺跡」菅生遺跡調査会
- 513 1974 昭和49年 中村 進 「江戸川右岸河川敷出土遺物雑考」
- 514 1994 平成6年 「埼玉県埋蔵文化財調査年報 平成4年度」埼玉県教育委員会
- 515 1982 昭和57年 越川敏夫他 「龍角寺ニュータウン遺跡群」龍角寺ニュータウン遺跡調査会
- 516 1993 平成5年 永沼律朗 「主要地方道成田安食線地方道道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書II」(勸千葉県文化財センター)
- 517 1995 平成7年 今泉 潔 「瓦と建物、そのイメージと原風景に関する覚書」『千葉県史研究』3
- 518 1982 昭和57年 須田 勉 「千葉県古代寺院跡発掘の現状」『歴史手帖』10-10
- 519 1994 平成6年 富永樹之 「「村落内寺院」の展開(上)」『神奈川考古』30
- 520 1995 平成7年 富永樹之 「「村落内寺院」の展開(中)」『神奈川考古』31
- 521 1996 平成8年 富永樹之 「「村落内寺院」の展開(下)」『神奈川考古』32
- 522 " " 阪田正一 「古代房総の民衆と仏教文化」『坂詰秀一先生還暦記念 考古学の諸相』坂詰秀一先生還暦記念会
- 523 1994 平成6年 笹生 衛 「古代仏教信仰の一側面」『古代文化』46-12
- 524 1993 平成5年 笹生 衛 「村落内寺院」における堂宇建物と仏教信仰『野中徹先生還暦記念論集』野中徹先生還暦記念祝賀会
- 525 1994 平成6年 須田 勉 「国分寺造営期にみる中央と在地」『古代』97
- 526 1989 平成元年 三舟隆之 「国分寺造営と地方豪族」『駿台史学』75
- 527 1995 平成7年 須田 勉 「国分寺造営勅の評価」『古代探叢』IV
- 528 " " 須田 勉 「関東の国分寺-改作された国分寺-」『シンポジウム古代寺院の移建と再建を考える』帝塚山考古学研究所
- 529 1987 昭和62年 上原真人 「官窯の条件」『北陸の古代寺院』北陸古瓦研究会
- 530 1982 昭和57年 坂詰秀一 「東国古代廃寺跡発掘の視角」『歴史手帖』10-10
- 531 " " 林 宏一 「古代東国の小金銅仏」『歴史手帖』10-10
- 532 1994 平成6年 原田憲二郎 「古代の石造相輪についての一考察」『文化財学論集』文化財学論集刊行会
- 533 " " 菱田哲郎 「瓦当文様の創出と七世紀の仏教政策」『ヤマト王権と交流の諸相 古代王権と交流5』名著出版
- 534 1976 昭和51年 中山吉秀 「離れ国分考」『古代』61
- 535 1993 平成5年 廣岡孝信 「古代における複線鋸歯文を表現する瓦の検討」『関西大学文学部考古学研究室開設四拾周年記念考古学論集』
- 536 1978 昭和53年 五代吉彦 「重圏文鏡瓦考」『房総風土記の丘年報』2
- 537 1981 昭和56年 稲垣晋也 「新羅の古瓦と飛鳥・白鳳時代古瓦の新羅的要素」『新羅と日本古代文化』
- 538 1982 昭和57年 長坂一雄 「日本の木造塔跡」雄山閣
- 539 1984 昭和59年 坂詰秀一 「関東」『新版仏教考古学講座』第二巻
- 540 1986 昭和61年 上原真人 「仏教」『岩波講座 日本考古学』4 岩波出版
- 541 1996 平成8年 宮田安志 「仏具出土集落の出現とその背景」『論集しのぶ考古』論集しのぶ考古刊行会
- 542 1997 平成9年 糸原 清 「房総の古代寺院と交通路」『人間・遺跡・遺物』3



第1図 房総における寺院跡・仏教関連遺物出土遺跡分布図



## II 主要遺跡概要

### 1 上総国分寺

市原市惣社字太子堂812他

東京湾に面した市原台地のほぼ中央に位置している。僧寺と尼寺の創建期瓦を焼成した神門瓦窯跡群が約100m離れた台地南西斜面に、僧寺の補修瓦を焼成した南田瓦窯跡群が寺院地にほぼ接した台地南側斜面に位置している。昭和41年から43年にかけて早稲田大学考古学研究室を中心とした発掘調査で金堂、塔、回廊、中門、講堂の位置と規模が明らかにされた。その後、昭和50年以降、伽藍周辺の発掘調査が実施され、南北約490m、東西約325mの寺域とともに、寺院地内の付属施設の解明が進められた。

僧寺と尼寺の遺構は、方位が北で東へ7度振れるA期のものと、西へ3～4度振れるものと真北に近いB期に大きく分けられている。A期は最初に造営された仮設的性格が強い時期で、寺域区画溝と僧坊と推定される掘立柱建物跡2棟と講堂基壇等が発見されている。一方B期は板塀に区画された伽藍地が設定され、基壇上に建つ瓦葺き建物の仏堂が造営され、寺院地内に政所院や修理院、蘭院などの付属施設が整備される。なお、寺院地の東側に接した荒久遺跡からも多くの仏具や僧寺の機構を示す墨書土器が出土しており、国分寺の機能を支える重要な集落跡と考えられている。

出土軒瓦は軒丸瓦5種と軒平瓦11種がある。主体的な創建期の組合せは僧尼寺同範の単弁二十四葉蓮華文軒丸瓦(1)と均整唐草文軒平瓦(8)で、それぞれ平城宮6225型式と6691型式の流れを汲むものである。「講院」「東院」「中院」「四院」「綱所」「経所」「油菜所」「備所」「厨」「西館」「門」「客」「井」「大屋」「丁」など組織や施設に関わる墨書土器が多く出土している。このほか、「潤津寺カ田」の存在から僧寺の寺田の一部が潤津郷に存在したことが明らかになっている。

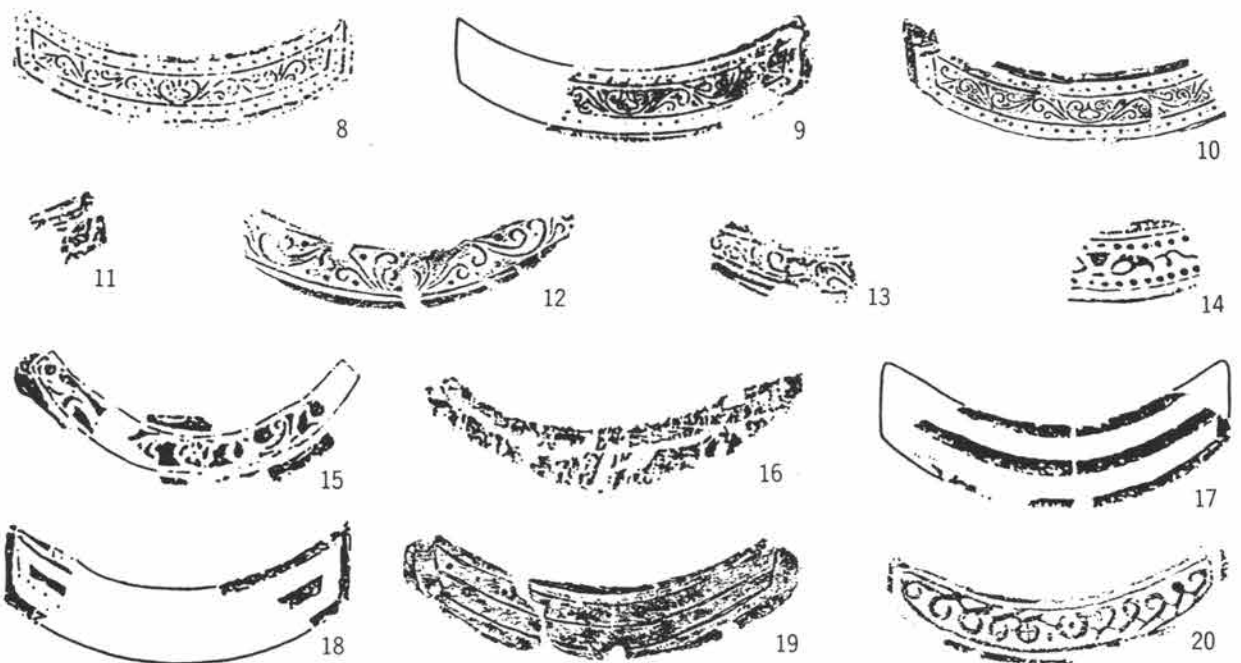
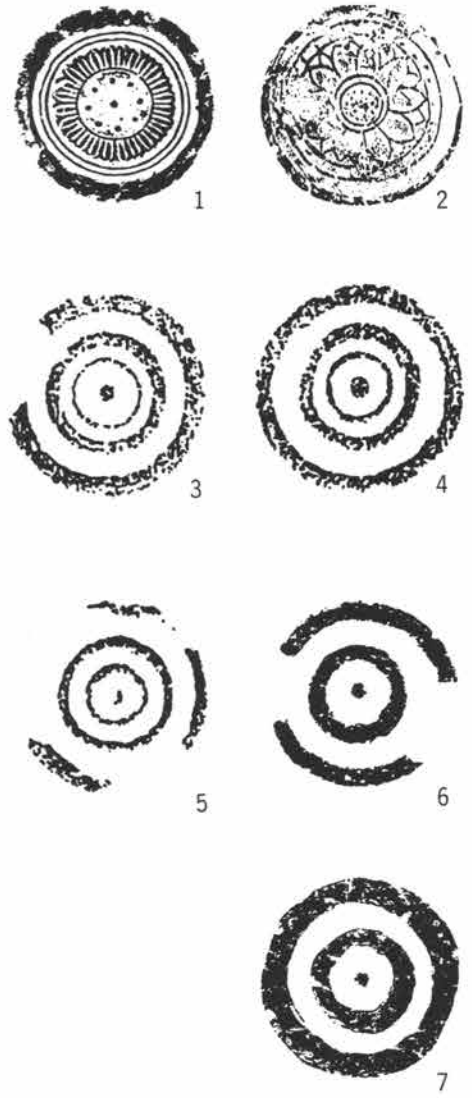
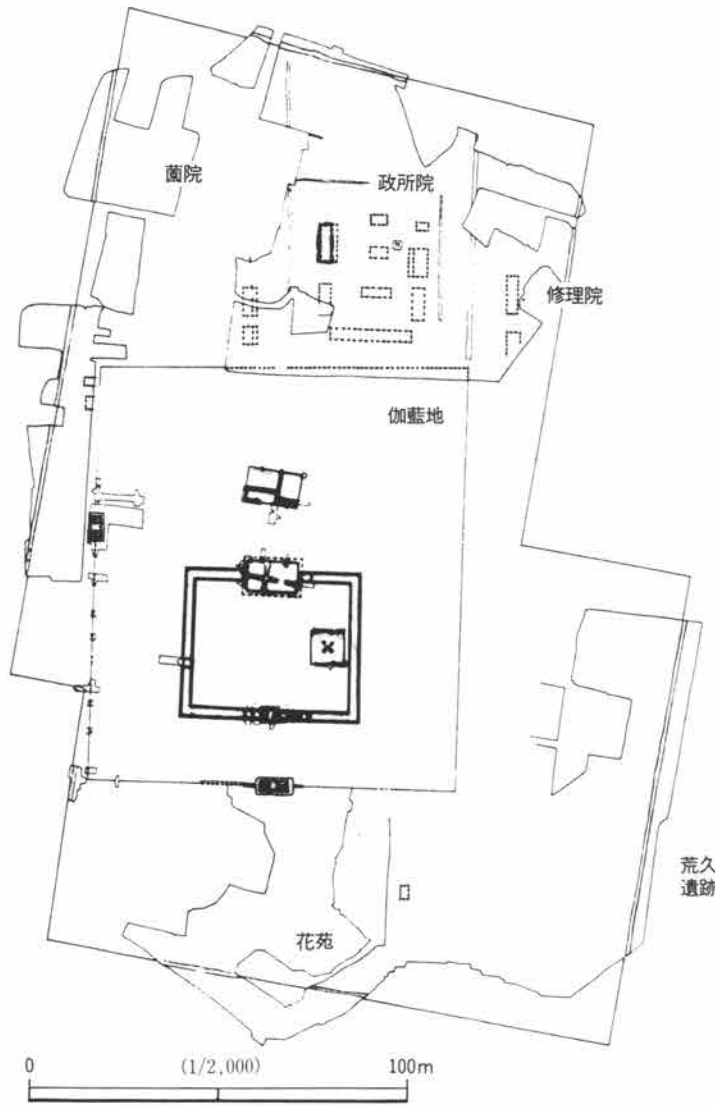
### 2 上総国分尼寺跡

市原市根田字祇園原

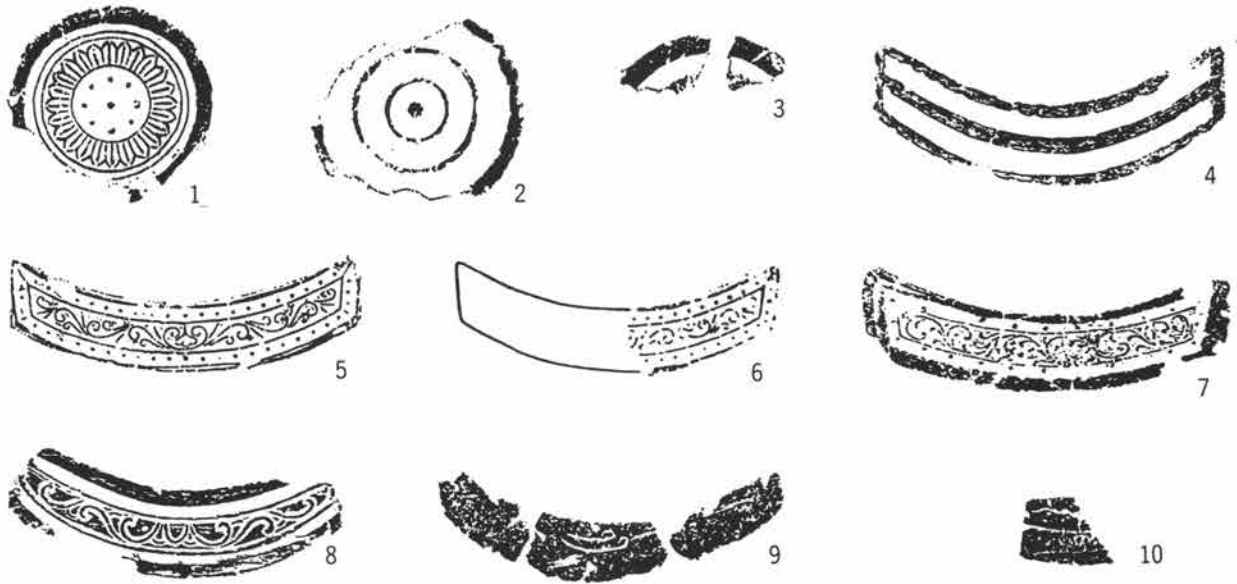
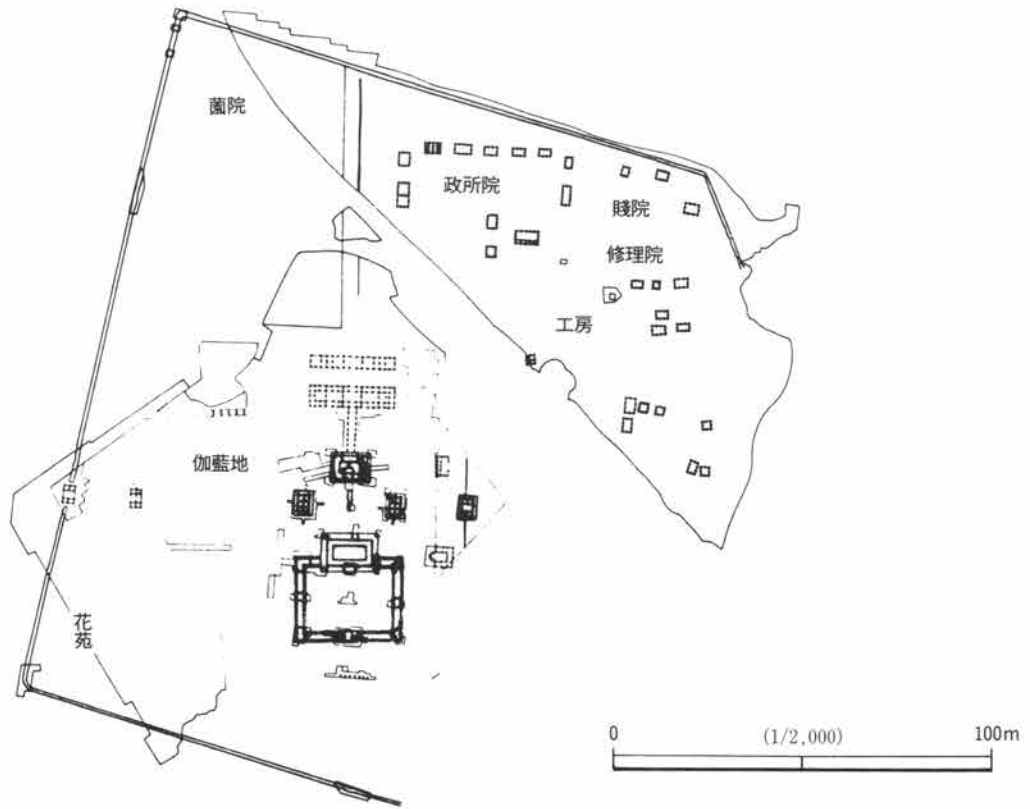
僧寺から谷津を隔てて約700m離れた台地上に位置している。約100m離れた台地南西斜面に尼寺の補修瓦を焼成した祇園原瓦窯跡が位置している。昭和23年と43年に早稲田大学によって金堂を中心とした発掘調査が実施され、その後昭和48年から59年にかけて上総国分寺台遺跡発掘調査団により大規模な発掘調査が実施され、寺域や尼坊などの解明が進められた。国史跡に指定後、(財)市原市文化財センターにより昭和63年から平成元年に主要伽藍の発掘調査が実施され、その成果に基づいて現在、中門・回廊などの復原整備がなされている。

僧寺同様に尼寺も大きくA期とB期の変遷が認められる。A期の遺構としては、寺域区画溝と講堂・尼坊と推定される掘立柱建物跡などが発見されている。南北371m、東西285m～350mで面積123万㎡の規模が明らかになっている。B期の主要伽藍では方位の微妙な変化が確認され、金堂→中門・回廊→講堂・尼坊→鐘楼・経楼→東門→金堂東方仏堂の順で造営されたことが明らかになっている。また、伽藍周辺の寺院地内からは政所院、賤院、修理院等の付属施設が発見されている。尼寺跡からは軒丸瓦3種、軒平瓦6種の軒瓦が出土している。創建時の主体的な軒瓦は僧寺跡と同一で、同範の単弁二十四葉蓮華文軒丸瓦(1)と均整唐草文軒平瓦(5)の組合せである。

II 主要遺跡概要



第2図 上総国分寺B期遺構配置図・出土瓦 (1/6)



第3図 上総国分尼寺跡B期遺構配置図・出土瓦 (1/6)

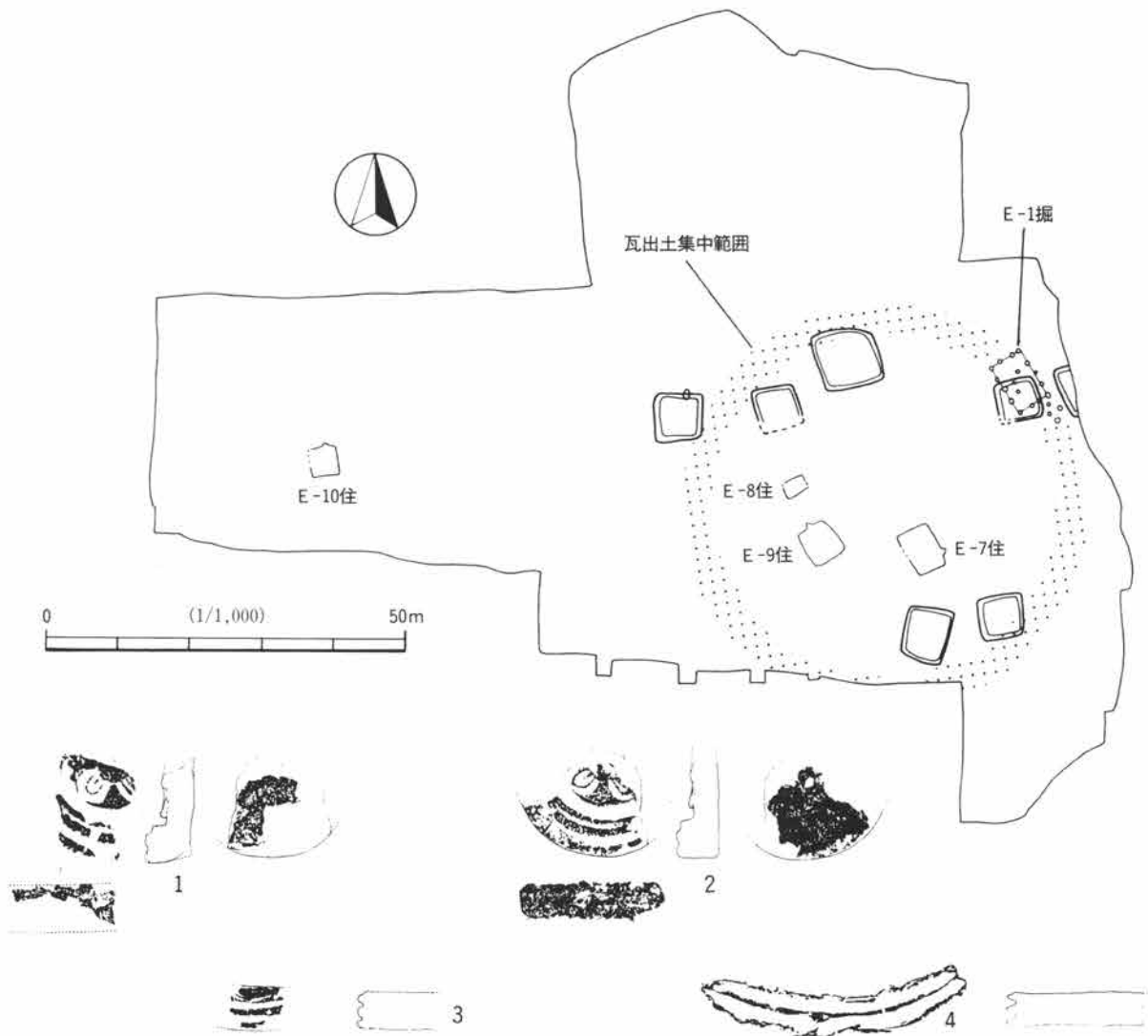
## II 主要遺跡概要

### 4 奉免上原台遺跡

市原市奉免字上原台

養老川の中流域右岸の標高約80mの台地上に位置している。低地との比高差は約40mを測る。縄文時代と古墳時代中期から平安時代までの集落跡、古墳時代終末期から8世紀末葉の古墳・方形周溝状遺構55基と火葬墓10基が発見された。瓦が出土したE地区は調査区東端で、方形周溝状遺構7基、3間×4間の掘立柱建物跡1棟、8世紀第1四半期ころの竪穴住居跡3軒、9世紀中葉前後の竪穴住居跡1軒などが発見された。瓦の年代は竪穴住居跡内の瓦出土状況から8世紀初頭を遡る時期とされている。また、今泉潔氏はE-1号掘立柱建物跡を葺棟葺き建物に想定され、墳墓群と関わる仏教関連施設と位置付けている。

軒丸瓦は三重圏文縁単弁四葉蓮華文軒丸瓦2種がある。単弁は凸線で表現され、その弁端が尖るもの(2)と、丸味を帯びるもの(1)がある。中房蓮子は磨滅しているため不明である。軒平瓦は三重弧文で瓦当面の先端が尖ったもの(4)と、丸味を帯びたもの(3)がある。丸瓦は無段式と有段式の2種がある。平瓦も凸面布目平瓦と凸面の斜格子叩きをヨコ方向にナデ消した平瓦の2種がある。



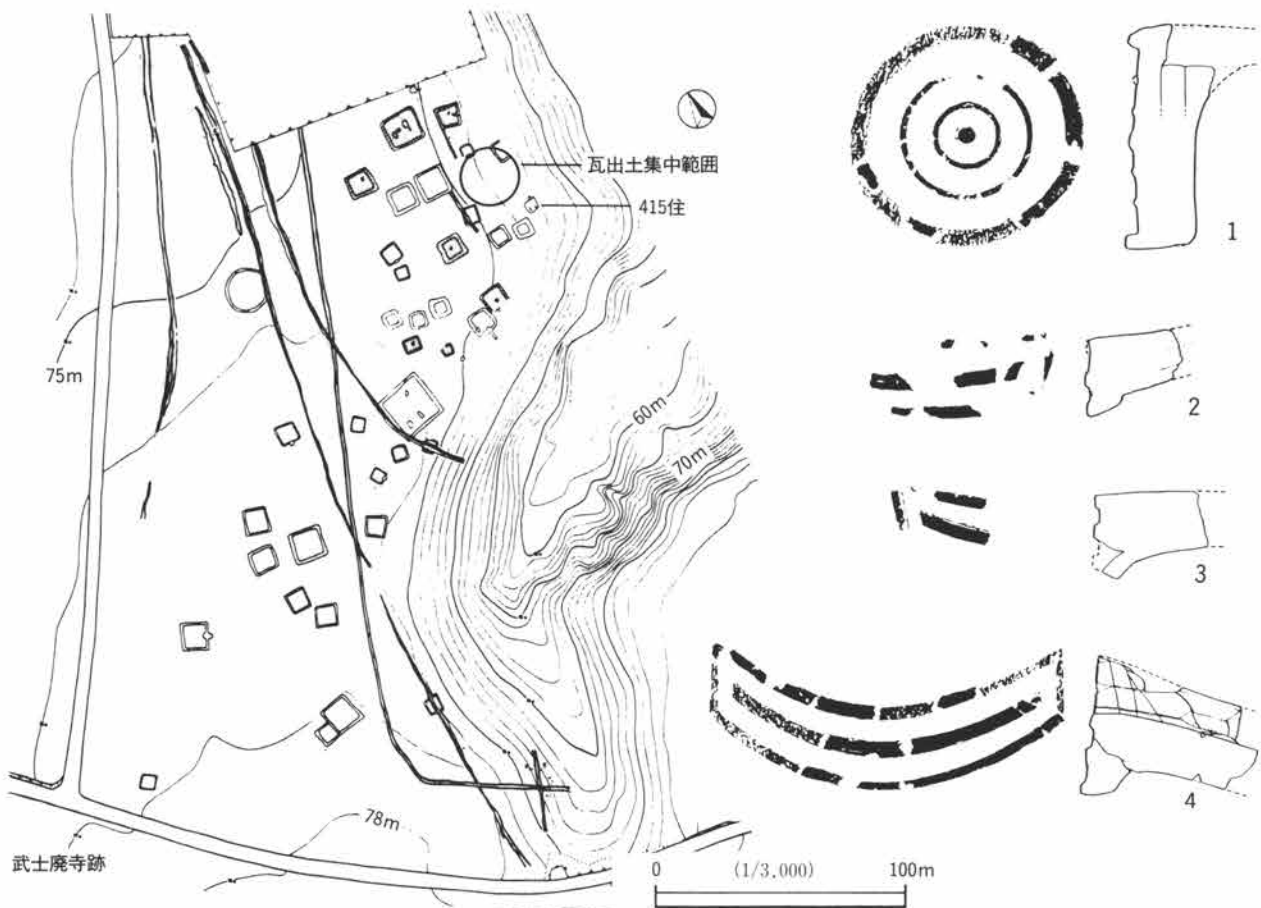
第4図 奉免上原台遺跡E地区遺構配置図・出土瓦 (1/6)

7 武士遺跡

市原市福増字向田・勝問字土器石

養老川中流の右岸で、東から村田川支流の神崎川の谷津が深く入り込んだ標高約75mの台地上に位置している。人見塚古墳・鍋塚古墳などの武士古墳群や、武士廃寺跡、元慶8年(884)に昇叙記事がある「建市神」に比定される建市神社の旧地が南に接している。武士遺跡からは7世紀後半から9世紀前半の円墳1基、方形墳墓38基、単独地下式主体部4基、単独石櫃主体部3基が発見された。墳墓群に接して国分寺系瓦などの出土集中地点があり、瓦葺き建物跡の存在が想定されている。また、その地点に接してカマド材に瓦を転用した415号竪穴住居跡も1軒発見された。この付近は7世紀後半の古い墳墓と8世紀後半の石櫃を主体部とする墳墓群(図中の網掛けの墳墓)が集中している。そして、9世紀前半の地下式坑を主体部とする新しい墳墓がより南に広がる傾向がある。瓦と石櫃墳墓群の年代観がほぼ一致する点から、瓦葺き建物は墳墓と関連性をもった仏堂の可能性が高い。

武士遺跡の南東に接して、武士廃寺跡の瓦散布地がある。一部発掘調査されているが詳細不明で、瓦窯跡の可能性も指摘されている。武士遺跡出土瓦は、この武士廃寺跡付近のものも含まれている。これまで両遺跡から出土した軒丸瓦は三重圏文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦、鋸齒文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦、鋸齒文縁複々弁四葉蓮華文軒丸瓦、有心四重圏文軒丸瓦、有心三重圏文軒丸瓦(1)の計5種である。軒平瓦は三重弧文、唐草文、重郭文3種(2~4)の計5種がある。丸瓦は無段式のみで、平瓦は桶巻作りの縄叩きと、凸面布目平瓦、凸型台一枚作りの縄叩きと斜格子叩きがある。このほかに武士遺跡からは甍も出土している。



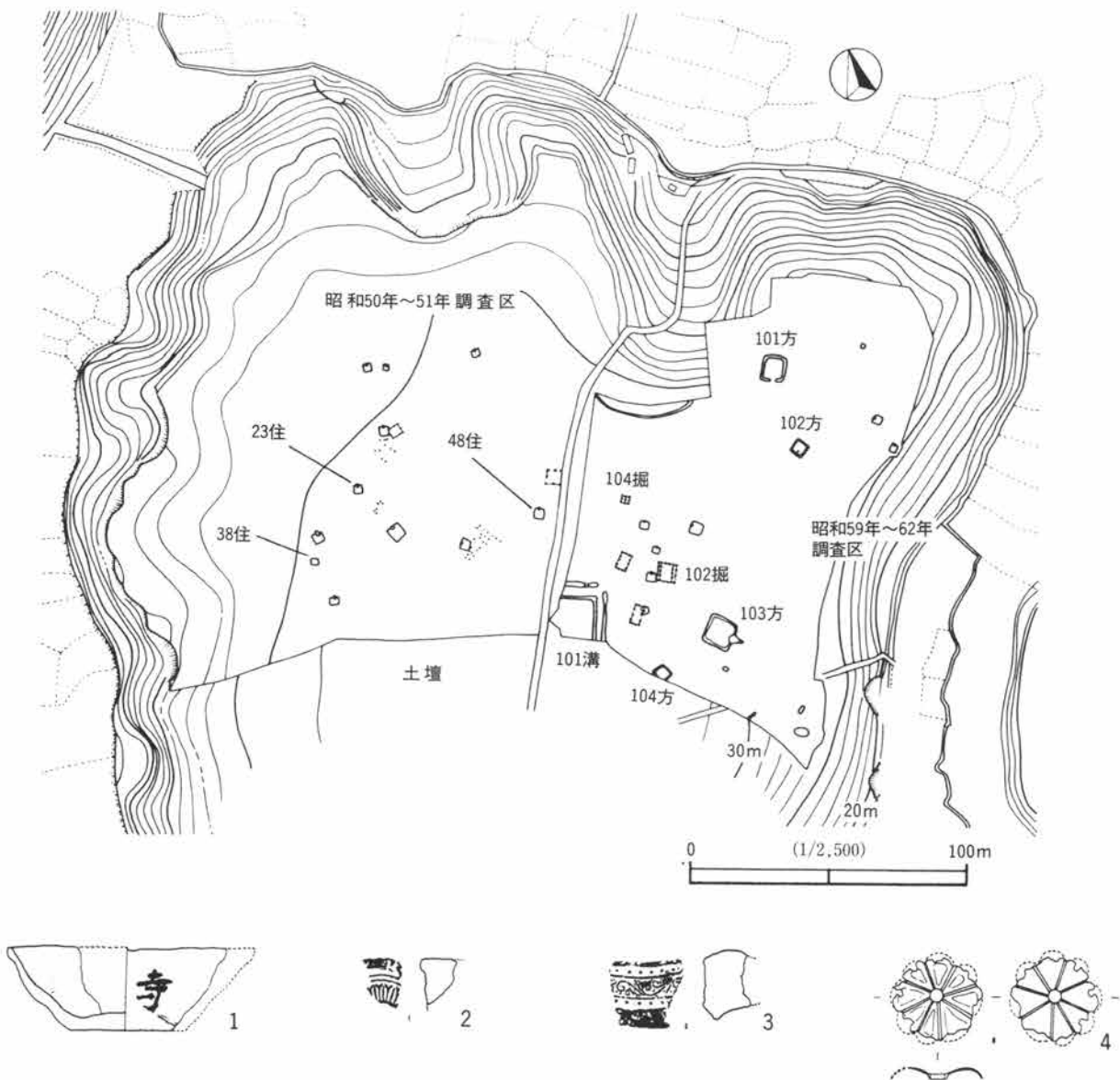
第5図 武士遺跡遺構配置図・出土瓦(1/6)

## II 主要遺跡概要

### 8 千草山遺跡

市原市能満字西千草山1450他

北と東西に小さい谷が入る標高約32mの台地上に位置している。昭和38年に確認調査が行われ、南北約7m、東西約10m、高さ約90cmの土壇と、凝灰質砂岩の径約30cmの礎石3点、鉄釘9本と多くの丸瓦・平瓦が発見された。その後、昭和50年から51年に土壇北西の隣接地が発掘調査され、奈良・平安時代の竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡などが発見された。48号竪穴住居跡から墨書土器「寺」(1)が、表採で単弁二十四葉蓮華文軒丸瓦(2)と均整唐草文軒平瓦(3)が発見された。さらに昭和59年から62年にかけて台地北東部も発掘調査され、奈良・平安時代の竪穴住居跡10軒と掘立柱建物跡4棟などが発見された。この調査区の南西隅で直行する二重の溝が検出され、土壇との位置関係から寺院の区画溝の可能性が指摘されている。溝の底からは10世紀前後の土器が出土し、北方の建物跡などは9世紀前半から10世紀初頭にかけて増加すると指摘されている。このほか、8世紀～9世紀の方形墳墓4基と地下式坑2基なども発見された。

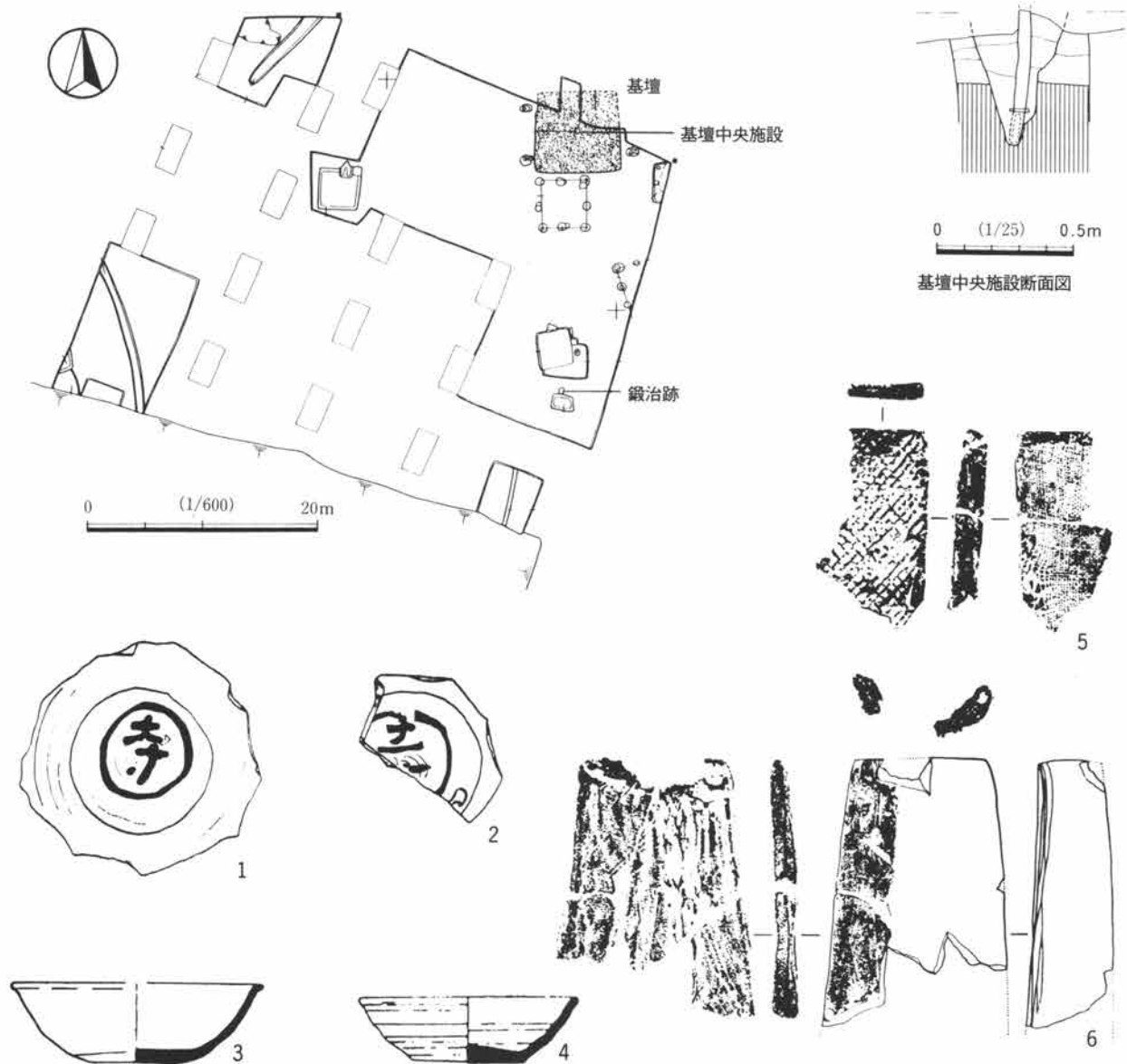


第6図 千草山遺跡遺構配置図・出土遺物 (1・ $\frac{1}{4}$ 、2～3・ $\frac{1}{6}$ 、4・ $\frac{1}{2}$ )

9 南大広遺跡

市原市能満字東四辻、山木字南大広

村田川に注ぐ支谷に面した台地上に位置している。昭和42年の発掘調査で、竪穴住居跡2軒と製鉄遺構1基とともに墨書土器「寺」(1、2)が発見された。また、平成4年の発掘調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡5軒、溝2条、掘立柱建物跡2棟、方形基壇1基、小鍛冶跡1基などが発見された。方形基壇の掘込み地業は北側が調査区外へ伸びており全体は不明であるが、南北8m以上、東西7.4mの規模が確認された。さらに基壇の中央から蕨手太刀を埋納した穴が、南西・南東の両隅からは刀子を埋納した穴が発見された。太刀と刀子はいずれも切先を上方に向けて発見された。こうした遺構は萩ノ原遺跡の基壇からも発見されており、鎮壇遺構と捉えられている。出土瓦は、昭和42年の調査で凸型台一枚造りの斜格子叩きの平瓦(5)と丸瓦(6)が報告されている。ただし、平成4年の調査では出土瓦は少なく、磨滅した小片が多い点から、瓦葺の建物跡が存在した可能性は低いとされている。



第7図 南大広遺跡B地区遺構配置図・出土遺物(1~4・1/4、5~6・1/6)



## 17 二日市場廃寺跡

市原市二日市場機織面572-1他

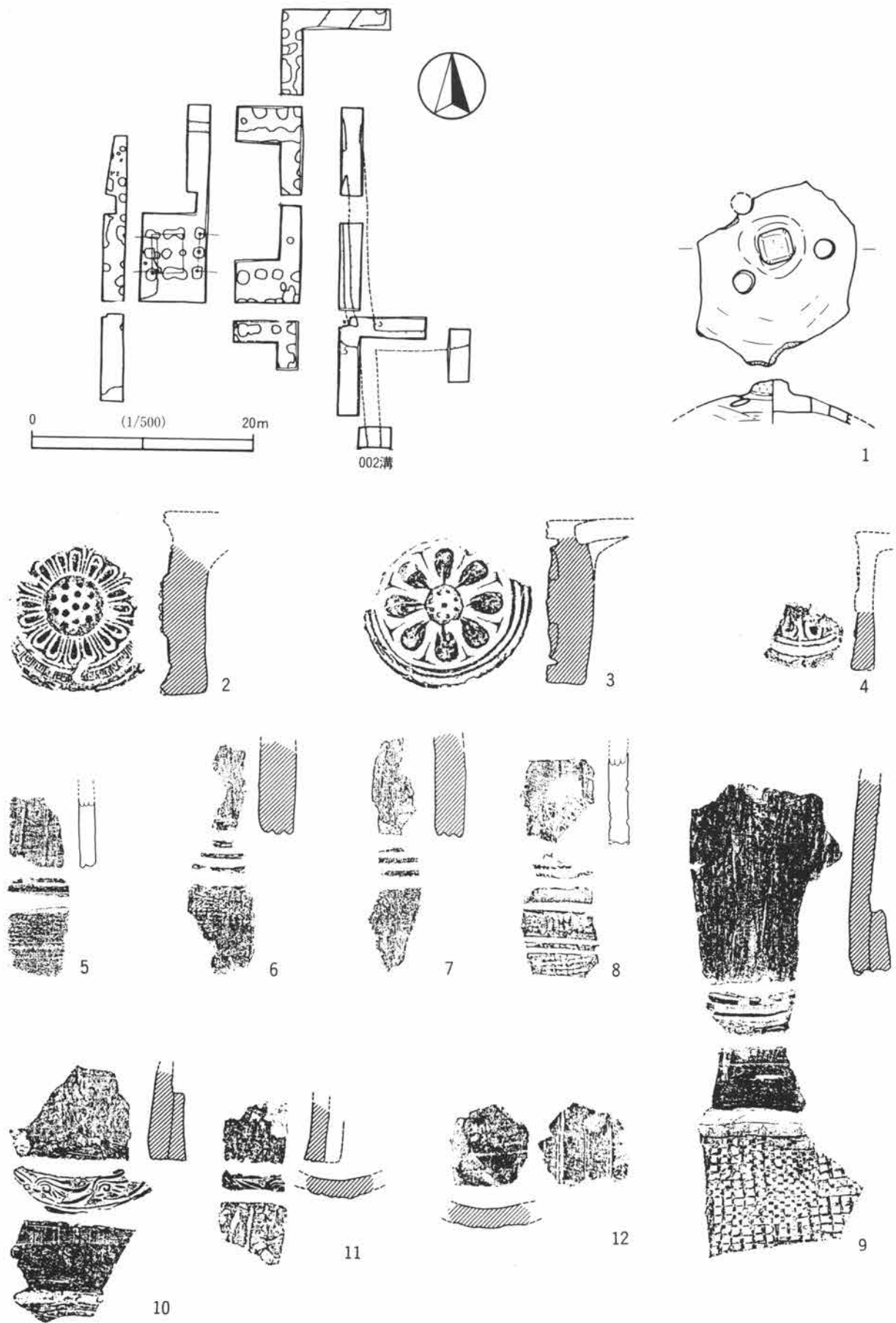
養老川右岸の標高約15mの微高地上に位置している。古代の養老川は現在よりも東側に大きく蛇行し、廃寺跡は島状を呈した微高地の左岸に位置していたと想定されている。

昭和58年と平成8年に発掘調査が実施されたが、想定される伽藍中心部分は未発掘である。瓦散布範囲の東側と西側の端から南北方向の溝が確認された。また、東側の002溝の西側で総柱建物跡を含む掘立柱建物跡が3棟以上発見され、想定中心伽藍の西側からも掘立柱建物跡の一部が発見された。これらは寺域の区画溝と寺院付属施設の可能性がある。このほか、古墳時代後期の土器や方墳の周溝、そして朱が付着した瓦、香炉蓋(1)、小鍛冶遺物、10世紀後半の土器一括資料等が発見された。出土した軒丸瓦は雷文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦(2)、三重圈文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦(3)、素文縁単弁十二葉蓮華文軒丸瓦(4)の3種がある。複弁軒丸瓦の中房には1+5+9の蓮子が配され、瓦当裏面下半に突帯が付加された特異な資料もある。単弁八葉蓮華文軒丸瓦への丸瓦の接続はいわゆる印籠つぎで、丸瓦の端面と端部付近の凹凸面に刻みを入れるものが多い。4は傾斜縁で内区と外区の間には圈線が一本めぐる。軒平瓦は二重弧文1種(5)、三重弧文4種(6~9)、唐草文2種(10、11)がある。8は無顎で、顎面に1条+2条の沈線が施文され、瓦当面際の凹面にヘラによる無造作な刻みが認められる。唐草文は段顎で、顎の接合面に刻みを入れるものがある。丸瓦は無段式と有段式があり、後者は一体の粘土で成形するものと、玉縁部を別に作り接合するものがあり、その接合面に刻みを入れるものもある。平瓦は桶巻作りの格子叩き、凸型台一枚作りの格子叩きと縄叩きがある。少数ながら凸面布目平瓦(12)や面戸瓦等の道具瓦も出土している。なお、3は武士遺跡出土瓦と同範であり、10は武士遺跡と東郷台遺跡出土瓦と同文である。



第8図 二日市場廃寺跡遺構配置図





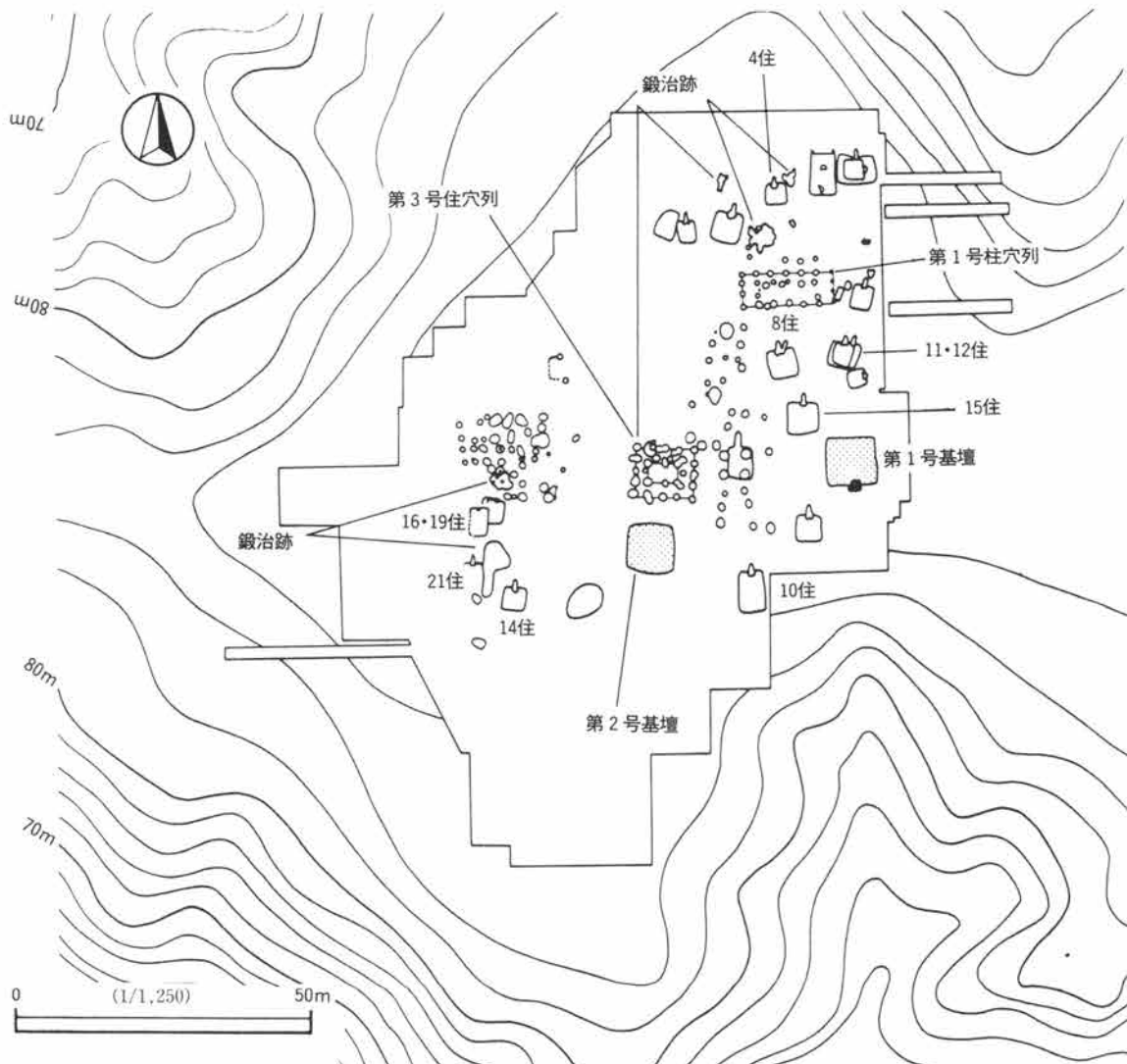
第9図 二日市場廃寺跡B地区遺構配置図・出土遺物 (1・ $\frac{1}{4}$ 、2~12・ $\frac{1}{6}$ )

20 萩ノ原遺跡

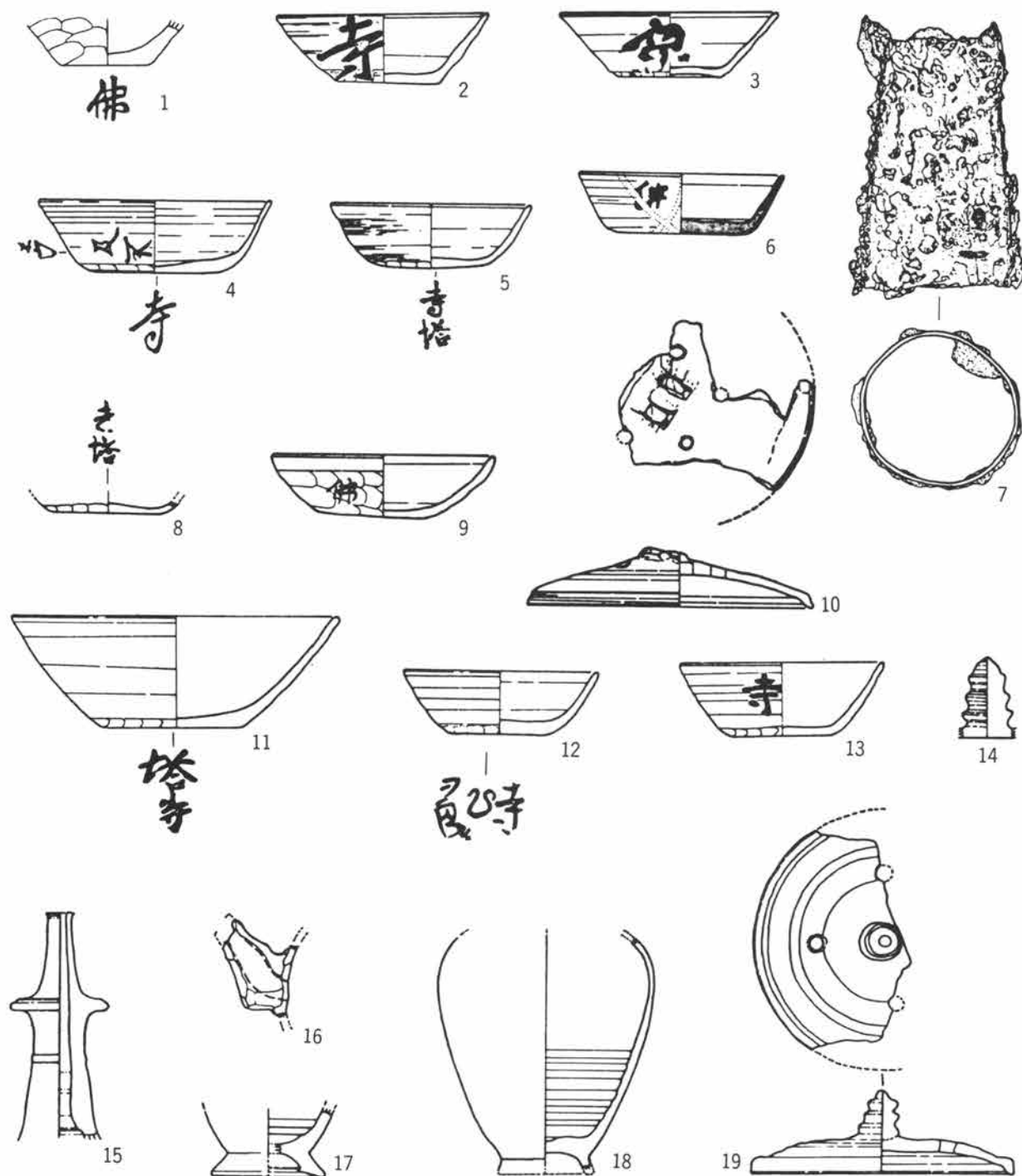
市原市上高根字萩の原

小櫃川支流の松川上流左岸の台地上に位置している。発掘調査により基壇建物跡2基、掘立柱建物跡4棟以上、竪穴住居跡22軒、鍛冶遺構5基以上などが発見された。第1号基壇は一边約8mの方形で旧表土上から地業され、南側に5段の土段状の階段が取り付け、礎石2個が残っていた。なお、中央の心礎孔から鎮壇具として坏2点と角釘10数本が出土し、その周辺から墨書土器「佛」(1)「土」などが出土した。第2号基壇も一边約8mで、旧表土上に地業されている。やはり中央の心礎孔から鎮壇具として鉄刀が切先を上方に向けて発見された。このほか、鉄製の小型風鐸(7)と風招や大量の鉄釘が発見された。この第2号基壇の北から二間四面の建物跡に復原される第3号柱穴列が、第1号基壇の北約25m離れて、桁行六間ほどの建物跡に復原される第1号柱穴列などが発見された。また、第2号基壇の南約40m離れた地点から一边2mの方形の範囲から高さ35cm~40cmほどの地業が確認された。これはこの付近から遺跡西北部にかけて発見された瓦塔の基壇と捉えられている。

これら基壇建物跡や掘立柱建物跡を囲むように発見された竪穴住居跡から多くの仏教関連遺物が出土した。第4号住居跡(2、3)から墨書土器「寺」「原」が、第8号住居跡(4、5)から墨書土器「寺/寺/及不」「寺塔」「寺」が、第10号住居跡から墨書土器「佛」(6)が、第11・12住居跡から墨書土器「寺塔」(8)が、



第10図 萩ノ原遺跡遺構配置図



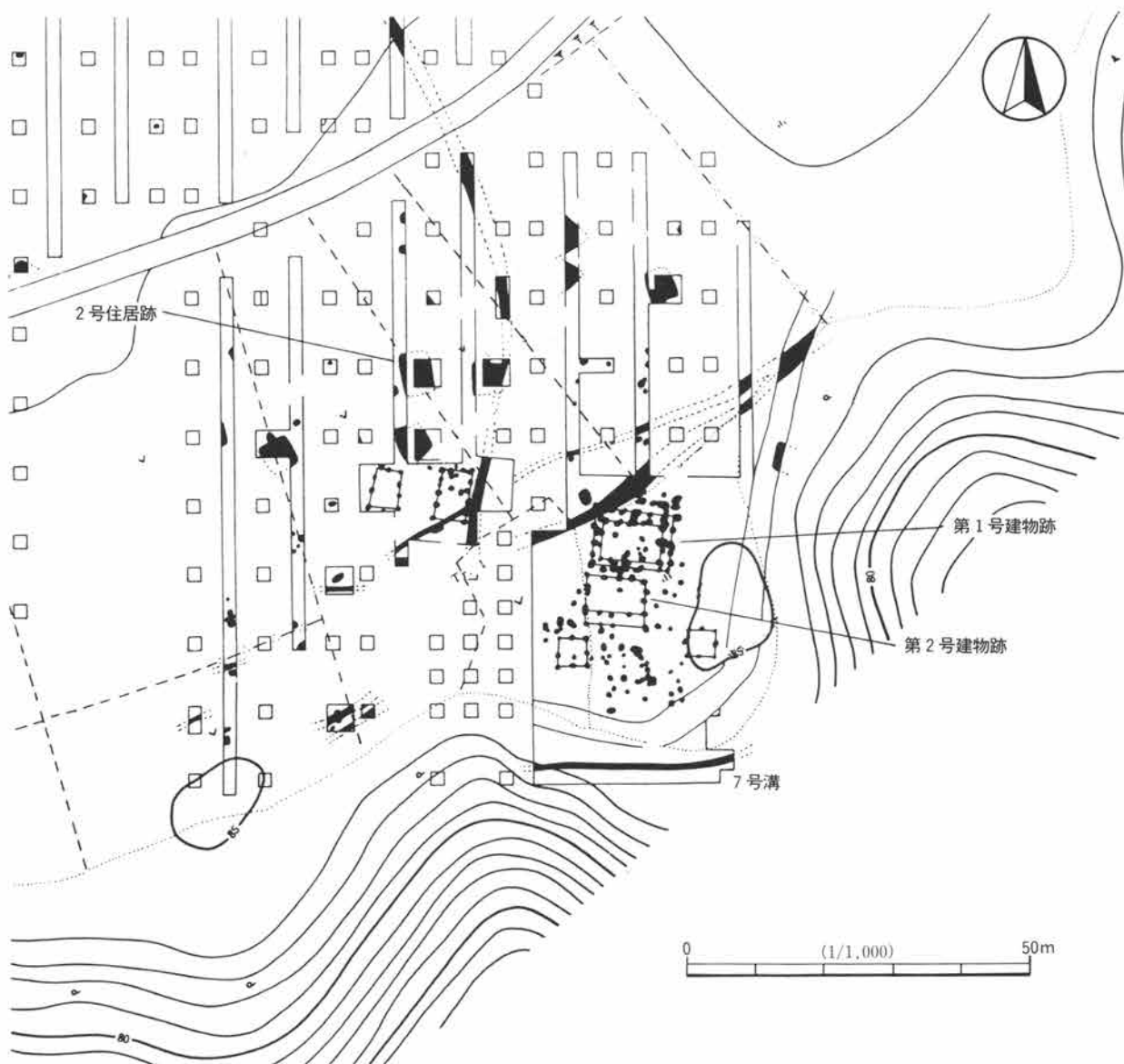
第11図 萩ノ原遺跡出土遺物 (1/4)

第14号住居跡(10)から墨書土器「寺」と香炉蓋が、第15号住居跡から墨書土器「佛」(9)が、第16・19住居跡(11、12)から墨書土器「塔寺」「口寺」「寺塔」「寺」が、第18号住居跡から墨書土器「寺」が、第21号住居跡(13、14)から墨書土器「寺」と香炉蓋の宝珠部分が出土した。このほか、調査区域内から灰釉の浄瓶など(15~18)や、第4号柱穴列付近からは青銅製匙なども発見された。瓦は住居跡で二次的に利用したものほかに、遺跡全体から散漫に丸平瓦のみ少量出土した。丸瓦は無段式のみで、平瓦は縄叩きの凸型台一枚作りと、格子叩きの桶巻作りの平瓦がある。

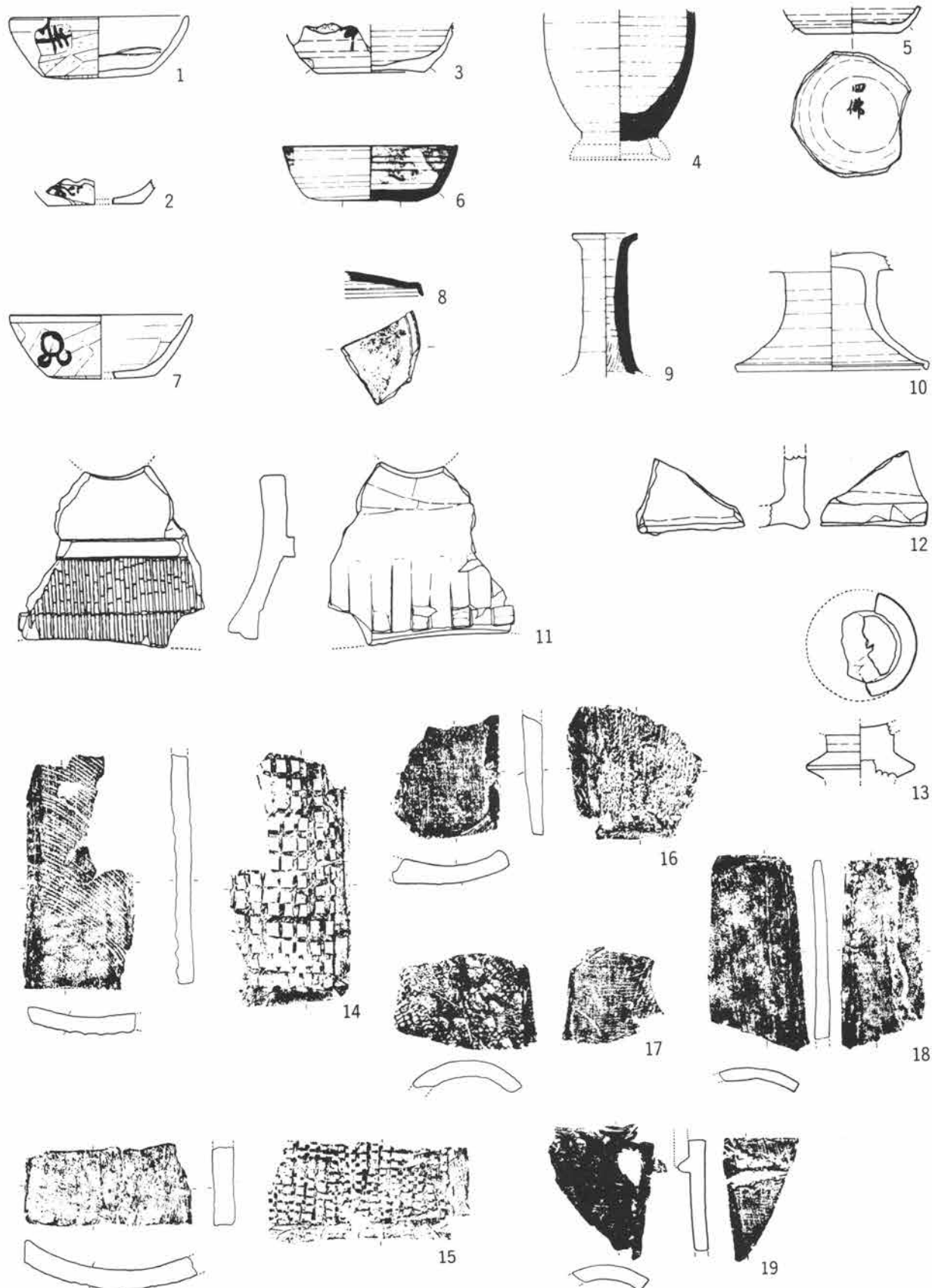
22 東郷台遺跡（川原井廃寺）

袖ヶ浦市川原井字東郷台1403-16他

松川をのぞむ台地南端に位置している。伽藍は4棟の建物跡によって構成されているが、区画施設は発見されていない。伽藍周辺の北から北西にかけて、掘立柱建物跡2棟と竪穴住居跡8棟が発見された。第1号建物跡は四間四面の掘立柱建物から礎石建物に建て替えられている。第2号建物跡も坪地業が見つかり、礎石建物であったことが明らかになっている。これら礎石建物跡周辺の調査区を中心に420点の平瓦と丸瓦、瓦塔（11~13）や水瓶（もしくは浄瓶（4））が発見された。平瓦は桶巻作りの格子叩き（14、15）、凸面無文と、凸型台1枚作りの縄叩き（16）がある。丸瓦は無段式（18）と有段式（19）がある。このほかに、二日市場廃寺跡出土瓦と同文の唐草文軒平瓦が表面採集されている。また、2号竪穴住居跡からは墨書土器「寺」（1）が、7号溝から墨書土器「四佛」（5）などが出土した。



第12図 東郷台遺跡遺構配置図



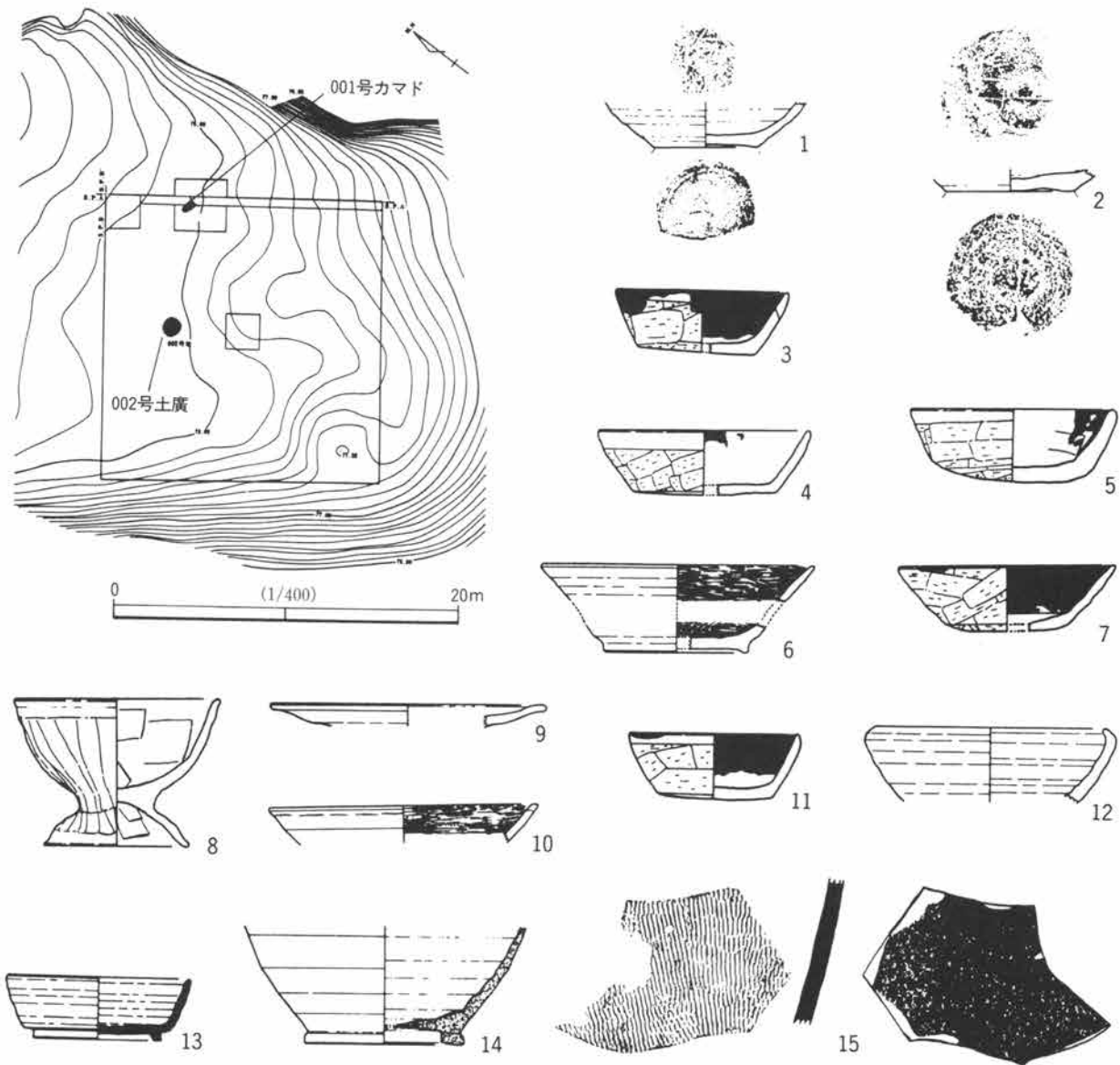
第13図 東郷台遺跡出土遺物 (1~13・ $\frac{1}{4}$ 、14~19・ $\frac{1}{6}$ )

II 主要遺跡概要

23 愛宕前遺跡

君津市向郷字愛宕前1,540-1他

鹿野山丘陵から小櫃川流域の沖積地に向かって舌状に張り出した小丘陵の先端部分に位置する。遺跡付近の標高は78m前後を測る。発掘面積が狭く、遺構としてはカマド1基と土廣1基が発見されたにすぎない。ただし、遺物については、カマド付近から比較的まとまった土師器・須恵器・灰釉陶器などが出土した。これら土器群は8世紀後半から10世紀と比較的長期間にわたっている。その中で、ヘラ書き土器「寺」「東」(1、2)と土師器鉄鉢形土器(12)が出土した。「寺」「東」はそれぞれロクロ土師器坯の底部内面にヘラ書きされている。このほかに灯明皿と転用硯が多く出土した。なお、底部が故意に打ち欠かれた可能性がある灰釉陶器瓶も出土している。東約1.3kmに位置する向郷遺跡周辺に「寺ノ台」「寺ノ下」の地名が見られ、ヘラ書き土器の「寺」は向郷遺跡周辺に想定されている。



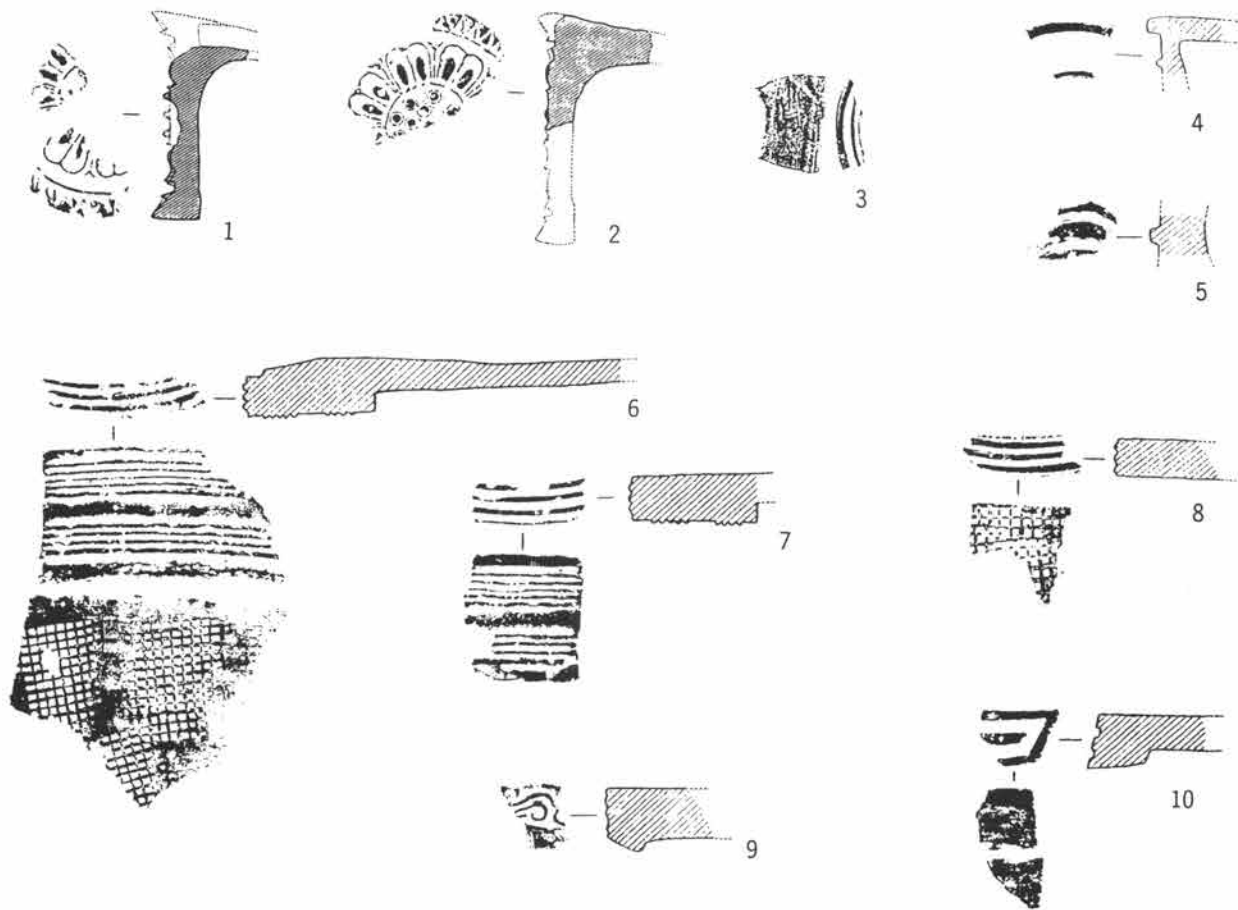
第14図 愛宕前遺跡遺構配置図・出土遺物 (1/4)



24 上総大寺廃寺跡

木更津市大寺字本郷

小櫃川右岸の標高約8mの微高地上に位置している。小櫃川が大きく北に蛇行する箇所接している。発掘調査は実施されていないが、凝灰質砂岩の石製露盤があり、塔を備えた寺院跡と推測される。石製露盤は1.3m×1.4mほどの方形で、中央に径約45cmの貫通孔が見られる。厚さは30cmほどである。石製露盤は元禄年間中に字「とうのこし」から掘り出されたもので、瓦の出土範囲も字「とうのこし」を中心に少なくとも100m四方に及んでいた記録が残されている。なお、廃寺跡が位置する現在の熊野神社境内地周辺には廃仏毀釈以前に「善徳寺（禅徳寺）」が所在しており、この寺院についても中世末まで遡ることが確認できる。軒丸瓦は、面違鋸歯文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦3種(1、2)、重圈文縁単弁四葉蓮華文軒丸瓦(3)、重圈文軒丸瓦2種(4、5)がある。軒平瓦は三重弧文7種(6、8)、四重弧文(7)、重郭文(10)、均整唐草文(9)がある。三重弧文には長い段顎で顎面に5+4条の隆線が施されたもの2種(6)、同じく3+4条の隆線が施されたもの、顎面に3条の隆線が施され、凹面に爪形状に抉られた痕跡があるもの、無顎で広端部際まで凸面に正格子叩きが施されたもの(8)、薄い段顎で凸面に斜格子叩きが施されたもの、瓦当面の先端が山形状にシャープな九十九坊廃寺跡出土瓦と類似したものがある。凹面に爪形状に連続して抉り入れられた平瓦は、九十九坊廃寺跡からも出土している。丸瓦は無段式と有段式の2種がある。平瓦は桶巻作りの格子叩きと縄叩き、凸型台一枚作りの縄叩きなどがある。格子叩き平瓦の中に、格子が丸味を帯びたものがあり、同様のものが九十九坊廃寺跡と大鷲瓦窯跡から出土している。また、この丸味を帯びた格子叩きの平瓦には、平瓦の隅部を大きく四角に落としたものがある。



第15図 上総大寺廃寺跡出土瓦 (1/6)

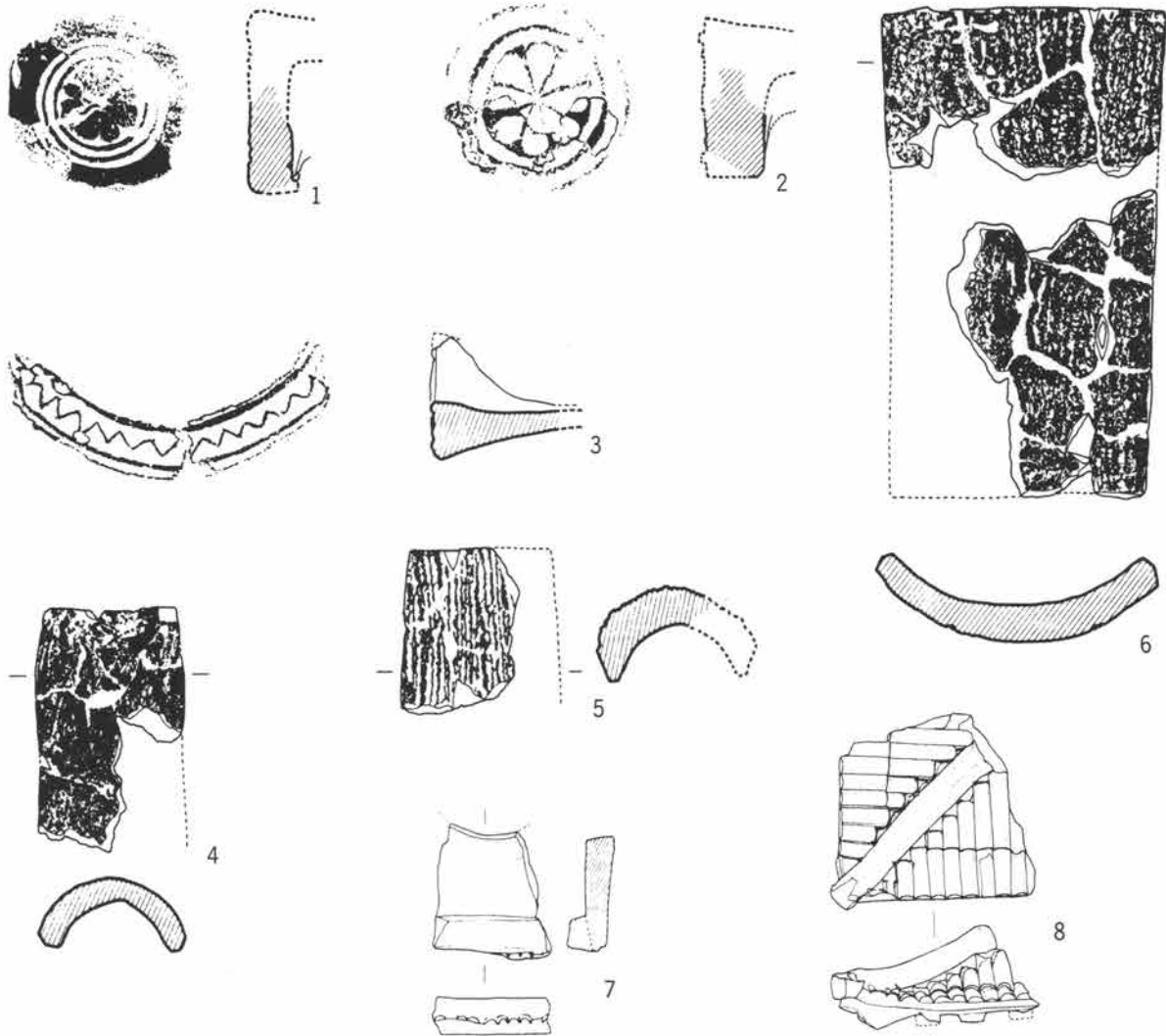


25 小谷遺跡

木更津市請西1951-1 他

矢那川と烏田川に挟まれた台地上に位置している。北側からの谷津に向かって張り出した舌状台地の北端で基壇建物跡1基が多くの小型瓦とともに発見された。また、基壇建物跡から南東に70m~80m離れた谷頭付近から、瓦塔と瓦堂がまとまって発見された。この台地上からはほかに竪穴住居跡や掘立柱建物跡が発見されており、谷津を挟んだ隣接する台地上からも多くの火葬墓や方形墳墓（方墳）が発見されている。

基壇建物跡から発見された軒丸瓦は単弁四葉蓮華文が2種、軒平瓦は線彫りの山形の連続文様（鋸歯文）1種(3)がある。軒丸瓦は瓦当文様をレリーフで表現したもの(1)と、線的に表現した(2)2種である。なお、前者には瓦当裏面に布目圧痕を残すものがある。これら軒丸瓦の瓦当復元径は10cm前後、軒平瓦の復元弧は16cm前後で共に小型である。丸瓦は無段式で、凸面に縄叩きを残すもの(5)と、ナデ調整するもの(4)がある。平瓦は粘土板成形の凸型台1枚作りで、凸面に縄叩きを残すもの(6)と、調整を加えたものがある。瓦堂には軒先から垂木にかけて赤色塗彩の痕跡がある。また、香炉蓋も出土している。



第16図 小谷遺跡出土遺物 (1/4)

27 永吉台遺跡群遠寺原地区

袖ヶ浦市永吉西寺原ノ式169他

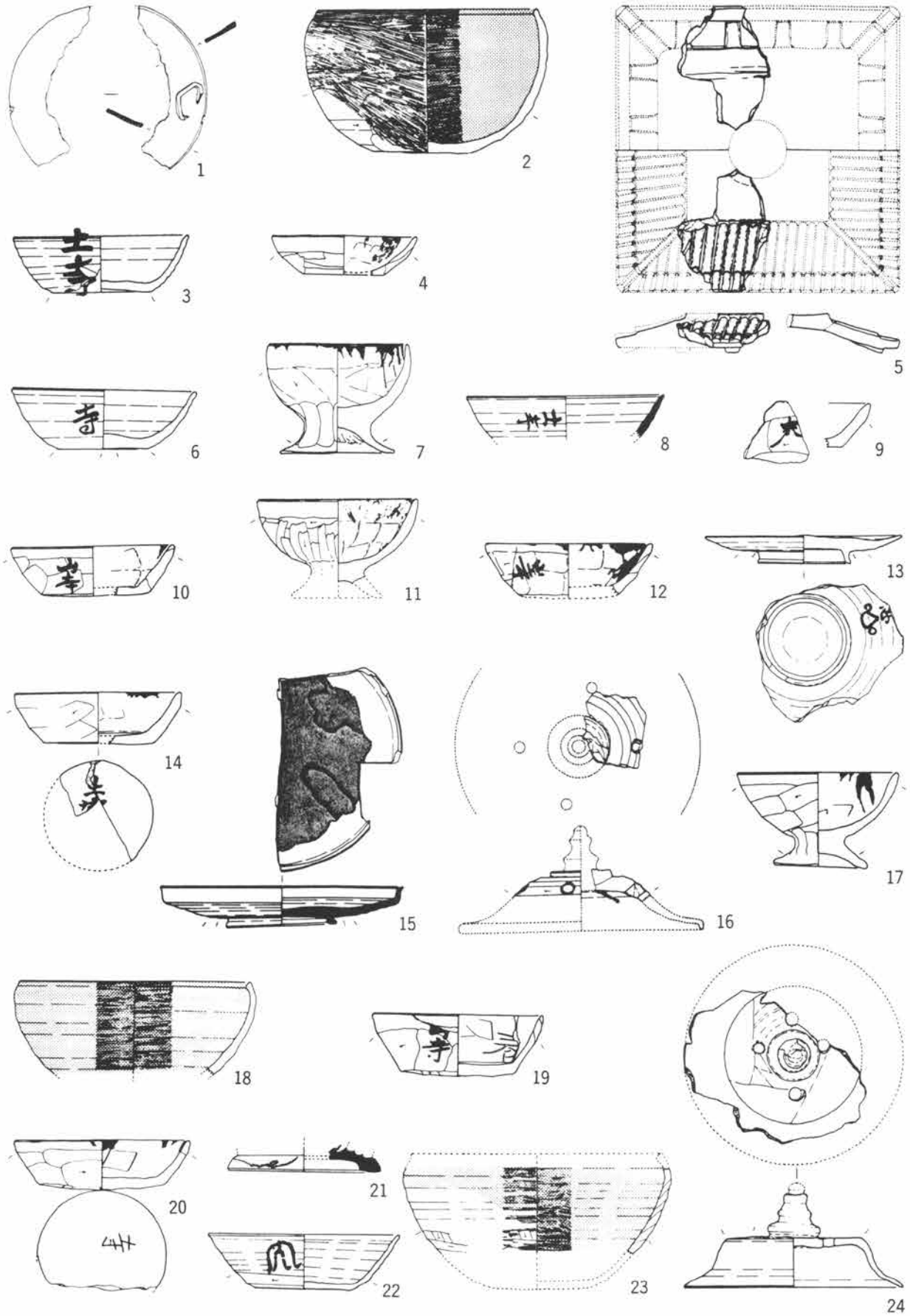
松川流域からやや奥まった小支谷沿いの台地南端に位置する。掘立柱建物跡群を中心とした東側と、竪穴住居跡群の西側の二つの遺構群に分けられる。東側の建物跡群の中心に位置するのが、三間四面の掘立柱建物跡2棟であり、中心的な仏堂として機能したと考えられる。これら掘立柱建物跡の南面は開放されており、前庭として機能した可能性がある。これら掘立柱建物跡群の東側等に位置する竪穴住居跡からは多くの仏教関連遺物が出土した。26号竪穴住居跡（6、7）から墨書土器「寺」「土」が、33号竪穴住居跡から墨書土器「土寺」（8）「田寺カ」「□宗□」が、34号竪穴住居跡（9～11）から墨書土器「□寺」「土家」「奉□」が、35号竪穴住居跡（12、13）から「山寺」「家」が、39号竪穴住居跡（14～17）から香炉蓋と墨書土器「土家」が、41号竪穴住居跡から土師器鉄鉢形土器（18）が、42号竪穴住居跡から墨書土器「西カ寺」（19）が、43号竪穴住居跡からはヘラ書き土器「寺」（20）が出土した。このほかに灯明皿や転用硯も各竪穴住居跡から多く出土した。このようにこれらの竪穴住居跡群からは仏教関連遺物が多く出土しており、寺院の雑舎の一部として機能していたと推測される。

また、西側の建物跡群からも4号竪穴住居跡から青銅鏡（1）が、18号竪穴住居跡から墨書土器「土寺」と瓦塔が出土した（3～5）。



第17図 永吉台遺跡群遠寺原地区遺構配置図

II 主要遺跡概要

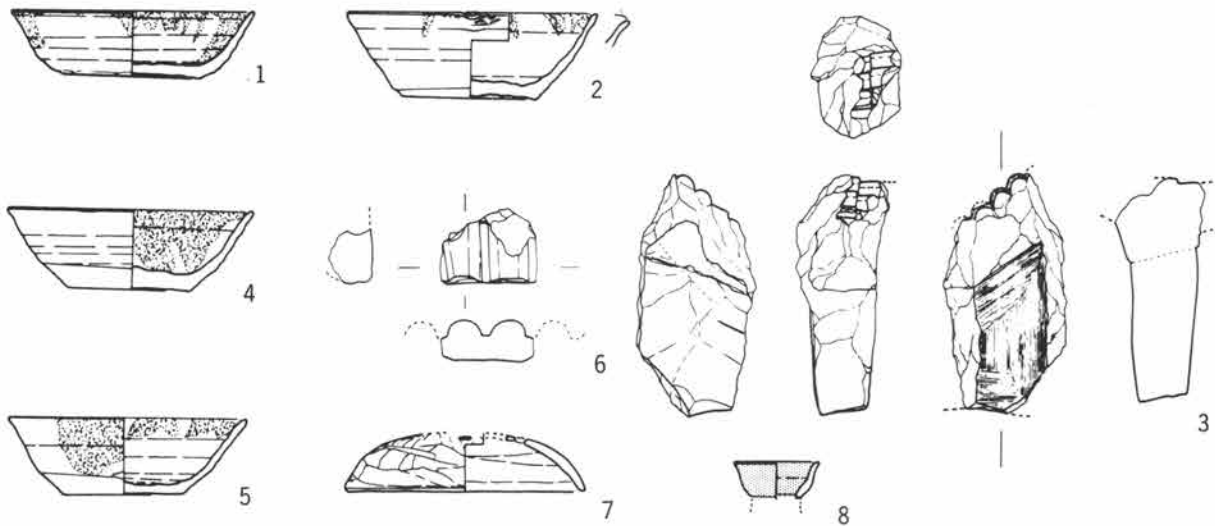
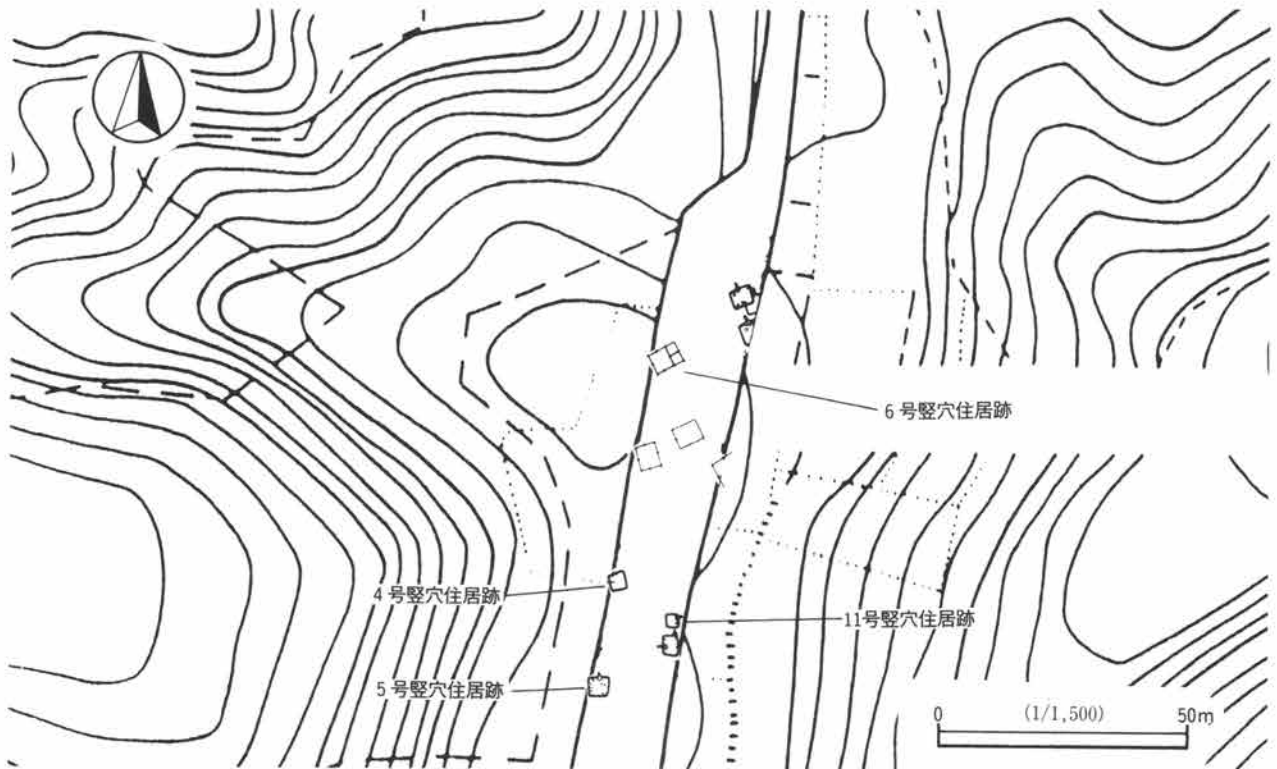


第18図 永吉台遺跡群遠寺原地区出土遺物 (1/4)

28 上大城遺跡

袖ヶ浦市代宿字上大城

浜宿川と久保田川に挟まれた細尾根状の台地上に位置している。やや広い台地頂部から掘立柱建物跡が4棟発見され、その周囲から6棟の竪穴住居跡が発見された。そして、掘立柱建物跡群の南に位置する4号(1~3)・5号(4~6)竪穴住居跡から多くの灯明皿とともに瓦堂(もしくは瓦塔)片が、11号竪穴住居跡から浄瓶が発見された(8)。またグリッドから香炉蓋(7)が発見された。部分的な発掘であるが、建物配置に規則性が窺え、仏教遺物もまとまって出土している。発見された掘立柱建物跡ないし、その西側に隣接する台地頂部に仏堂が存在した可能性がある。



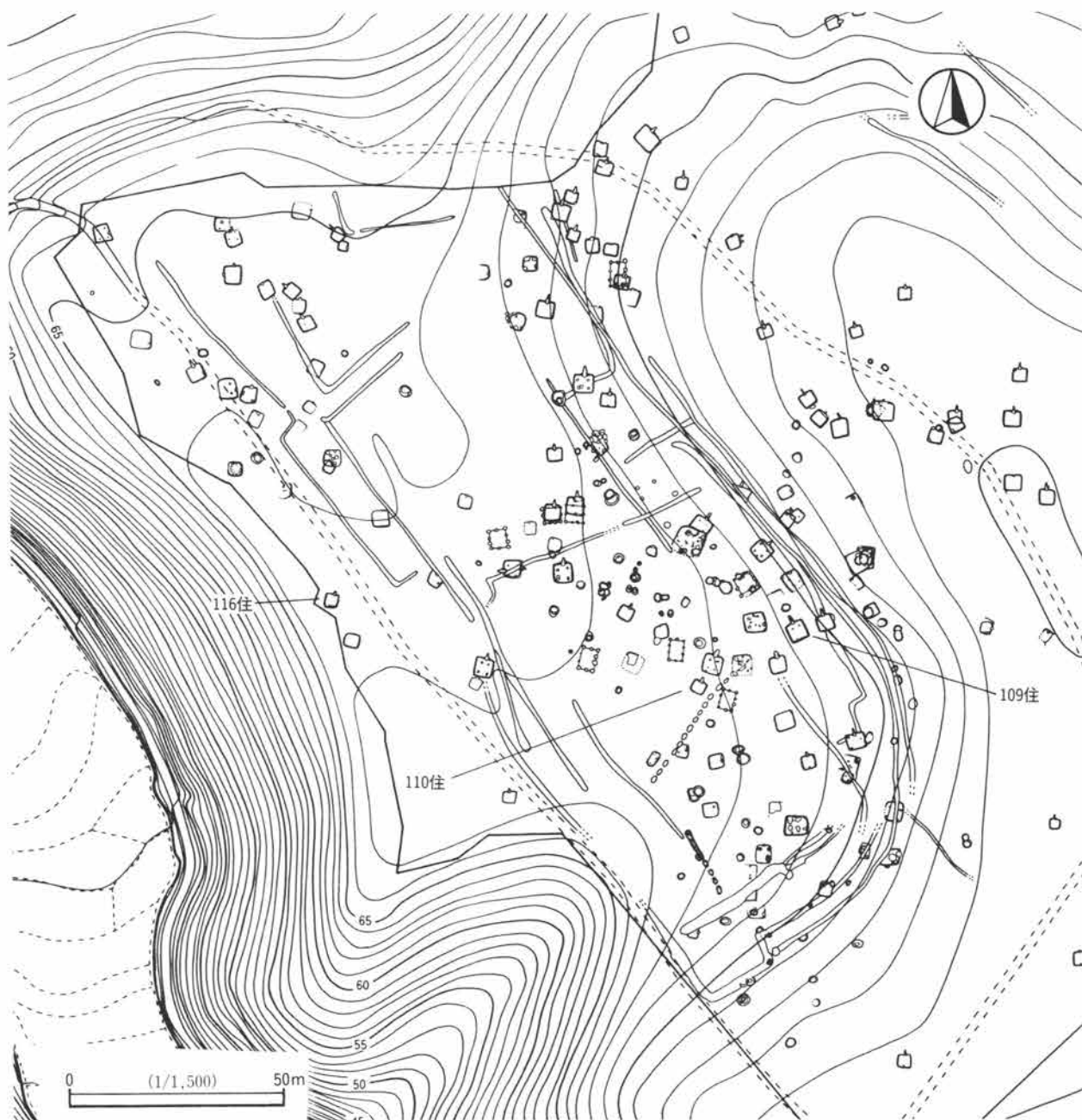
第19図 上大城遺跡遺構配置図・出土遺物(1/4、ただし3と6は1/2)

## II 主要遺跡概要

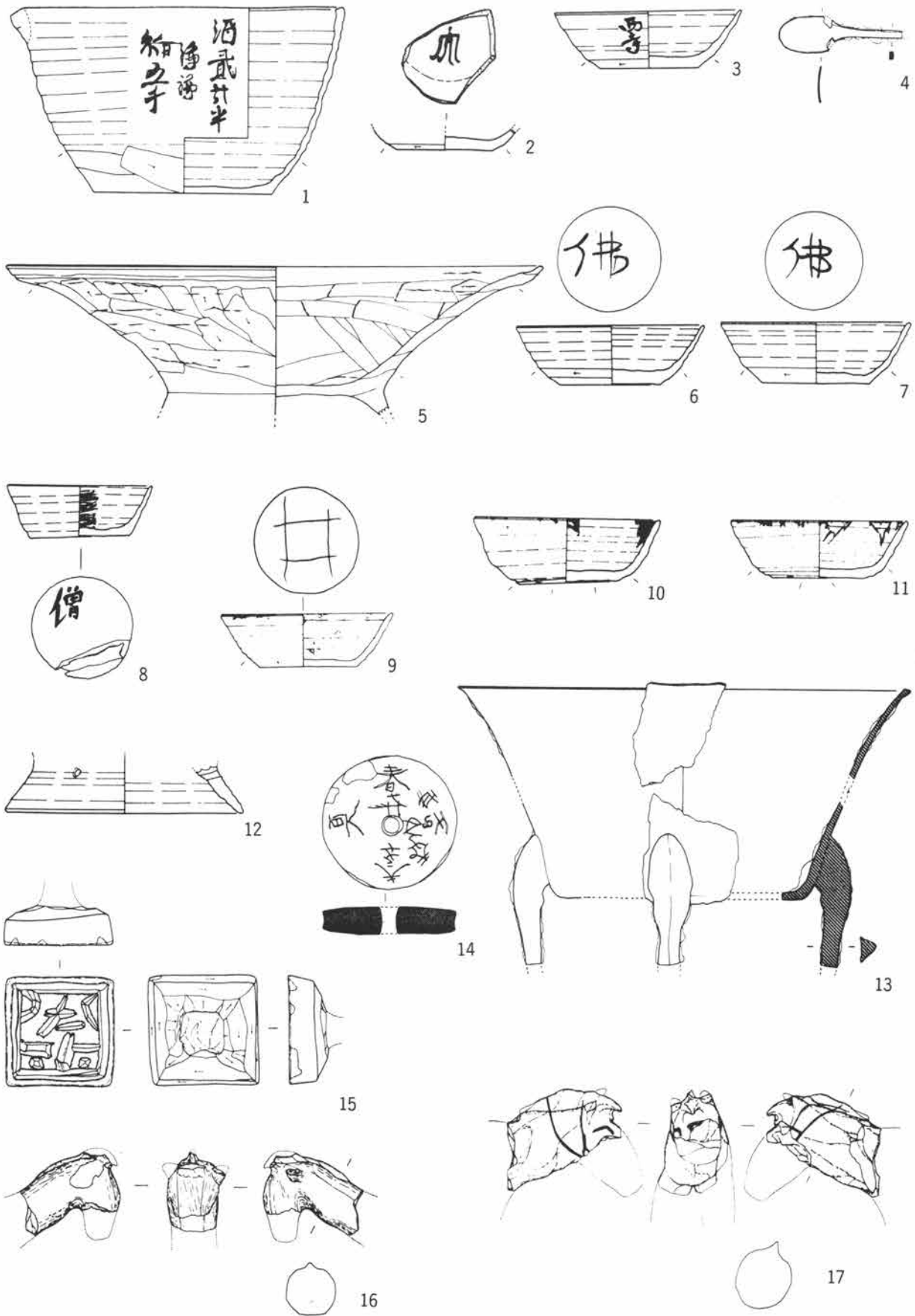
### 29 永吉台遺跡群西寺原地区

袖ヶ浦市永吉西寺原ノ式169他

松川に面した台地北西端に位置する。調査区中央で掘立柱建物跡がやや集中しているが、大規模な建物跡は発見されていない。仏教関連遺物は掘立柱建物跡群周辺の竪穴住居跡からやや散漫に発見されている。109号竪穴住居跡(2、3)から墨書土器「西寺」が、110号竪穴住居跡から墨書土器「佛」(6、7)が、116号竪穴住居跡(8~11)から墨書土器「僧」が出土した。また、116号竪穴住居跡からは灯明皿がややまとまって発見された。このほかに陶印や土馬、鉄製匙、鉄製三足鍋、土製紡錘車(へら書き「春・夏(秋)・冬」)、片口鉢(墨書「酒貳升半浄浄稻五千」)など特異な遺物が出土した。



第20図 永吉台遺跡群西寺原地区遺構配置図



第21図 永吉台遺跡群西寺原地区出土遺物 (1~13・¼、14~17・½)

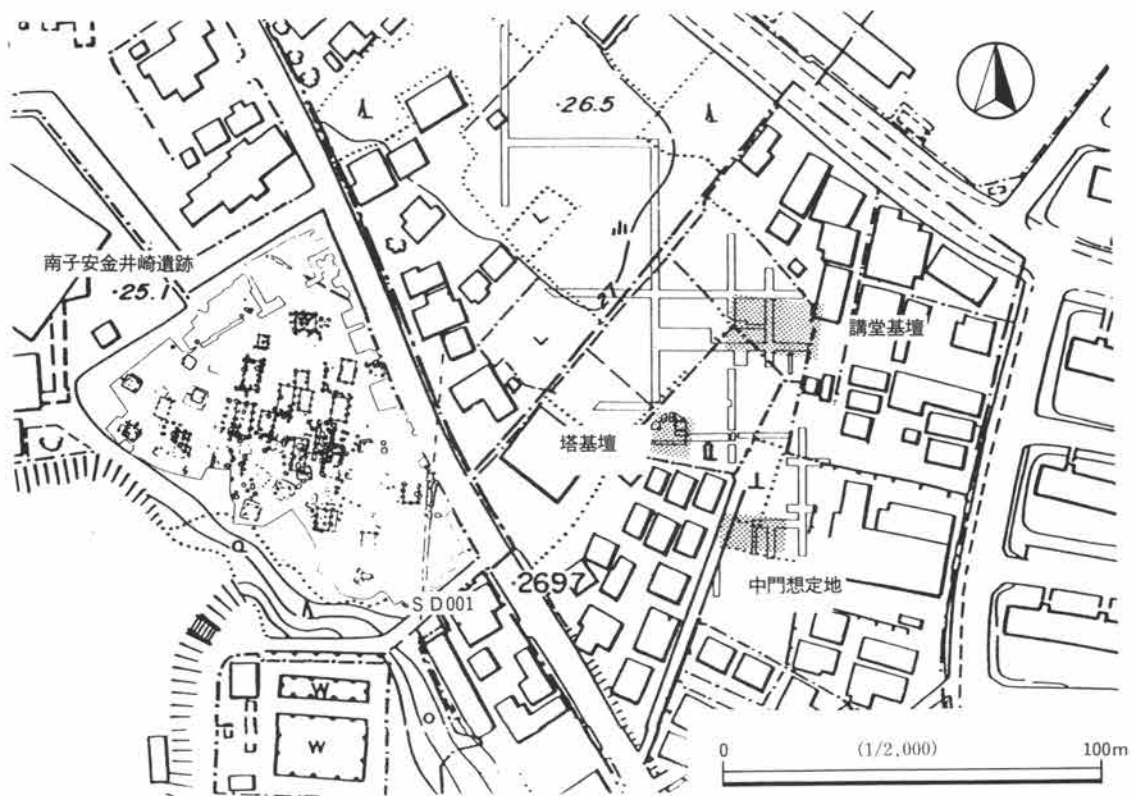


33 九十九坊廃寺跡

君津市内箕輪字九十九坊台、南子安字九十九坊

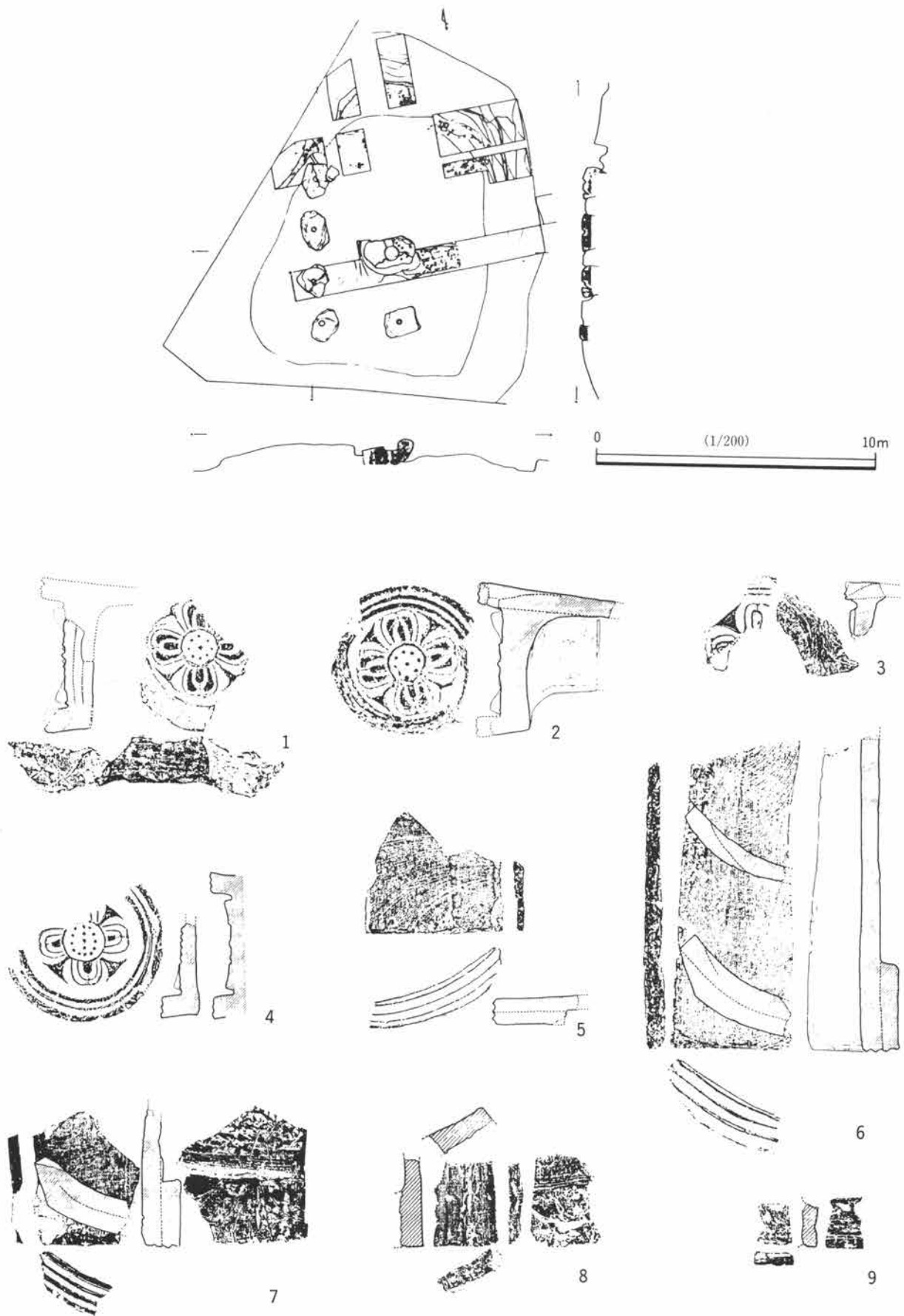
小糸川右岸の標高約27mの台地上に位置する。創建期瓦を焼成した牛ケ作瓦窯跡が北西約2kmに、補修瓦を焼成した大鷲瓦窯跡が東南東約3kmに位置している。発掘調査は昭和8年に塔跡を中心に実施され、法隆寺式伽藍が復原されている。昭和59年にも確認調査が行われ、講堂基壇などが発見された。塔基壇と講堂基壇は掘込み地業で、講堂基壇中には朱付き瓦を含む複数の瓦敷面が確認された。講堂基壇西側では複数の掘立柱建物跡が、講堂基壇西北西約70m付近でも掘立柱跡が発見された。昭和60年には中門などの確認調査が実施されたが、詳細不明である。平成7・8年には伽藍西側の南子安金井崎遺跡が発掘調査され、廃寺跡の軸線にほぼ沿った掘立柱建物跡群や溝状遺構、堅穴住居跡、鍛冶工房跡などが発見された。掘立柱建物跡は40棟以上で、その大半で複数の建替えが確認された。僧名を記した墨書土器「弘安」なども発見され、南北に走る溝状遺構SD001は寺院地内部の区画溝に想定され、8世紀後半から10世紀前半の寺院附属施設と考えられている。

軒丸瓦は三重圏文縁単弁四葉蓮華文軒丸瓦3種(1~4)が、軒平瓦は三重弧文(5~7)と二重弧文(8、9)がある。1と2は周縁が高く、中房蓮子が1+8の二重である。牛ケ作瓦窯跡から、範傷が進行した同範品が出土している。3は周縁が低く、子葉の周りの圏線が1本である。4は中房蓮子が1+2+12の三重で、子葉の周りの圏線が二重である。三重弧文軒平瓦はいずれも段顎であるが、弧線の先端が丸味を帯びたもの(7)、山形のもの(5)、シャープなもの(6)がある。二重弧文軒平瓦も段顎で、瓦当面に幅の狭いヘラで描かれた沈線が一条走る。丸瓦は無段式と有段式があり、凸面に縄叩きが残るものがある。平瓦は桶巻作りの格子叩きと縄叩き、凸型台一枚作りの縄叩きがある。なお、凹面に連続して爪形状に抉られた痕跡を有する平瓦もある。



第22図 九十九坊廃寺跡遺構配置図



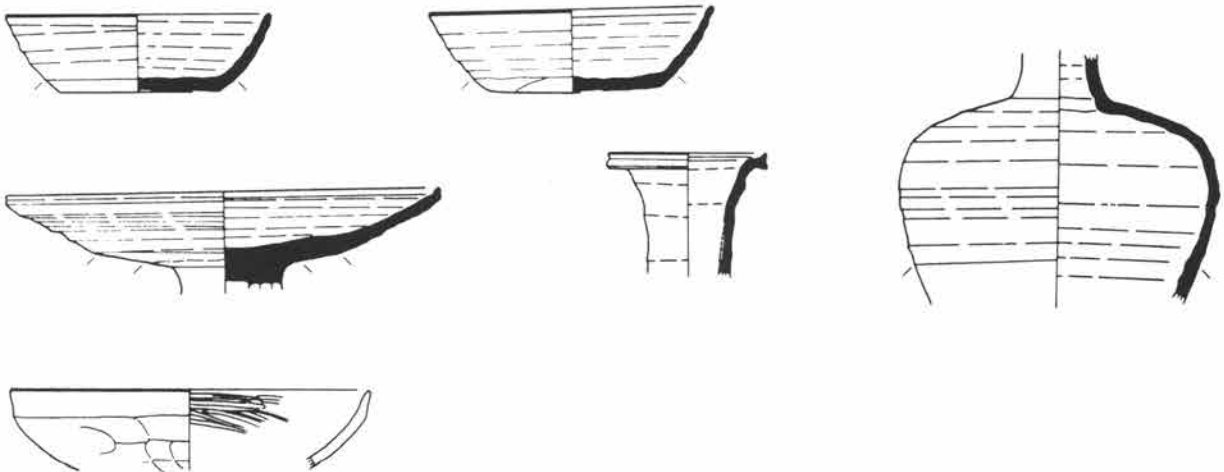
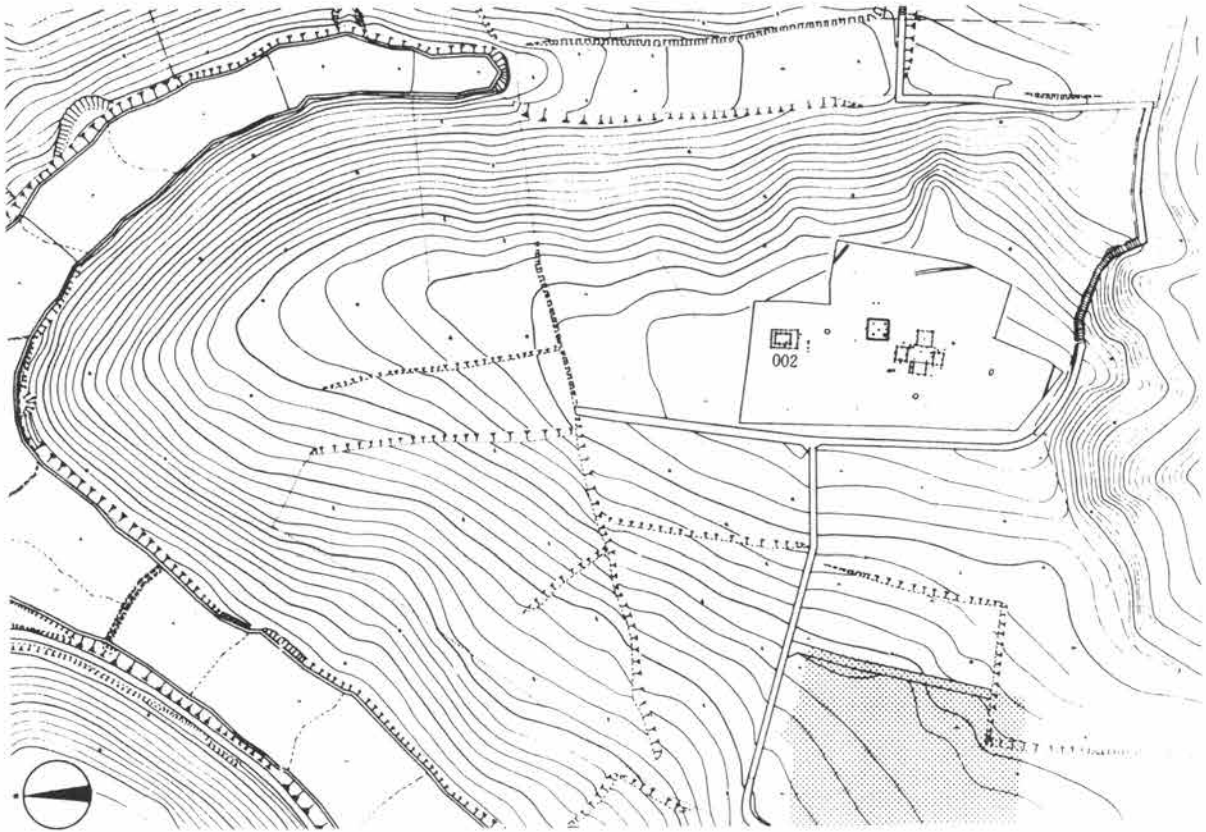


第23図 九十九坊廃寺跡塔平面図・出土瓦 (1/6)

37 針ヶ谷遺跡

長生郡長柄町針ヶ谷字中野

一宮川流域を眼下に望む標高133mの丘陵の南端に位置している。また、北からは一宮川支流の豊田川上流の谷津が開析している。やや平坦な丘陵頂部の北側から三間四面の掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡4棟がほぼ南北に並立して発見された。遺物は水瓶の可能性がある須恵器瓶以外は仏教遺物の出土は明らかではない。建物群の南側は比高差約100mもある丘陵斜面部で、四面庇建物の西面方向には周辺では最も高所の権現森のピークが眼前にある。特異な立地状況と建物群から8世紀中葉から後半の寺院跡の可能性が指摘されている。



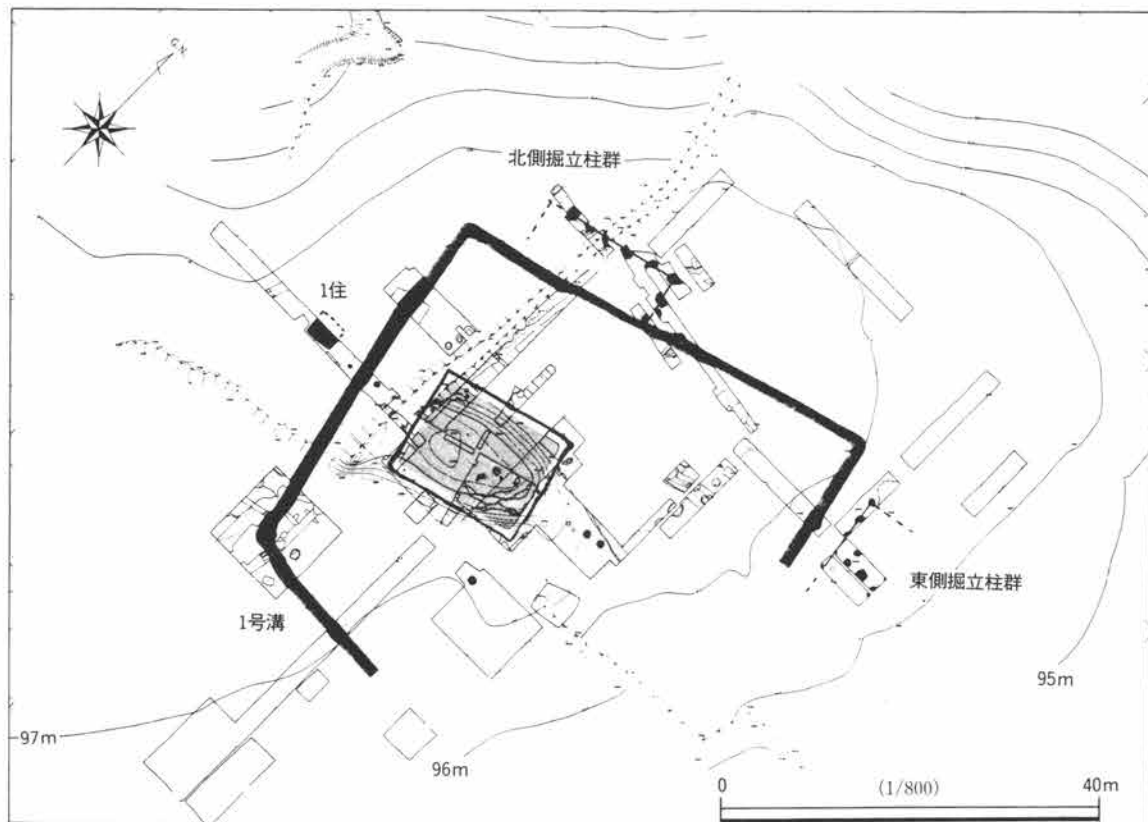
第24図 針ヶ谷遺跡遺構配置図・出土遺物 (1/4)

40 小食土廃寺跡

千葉市緑区小食土町698他

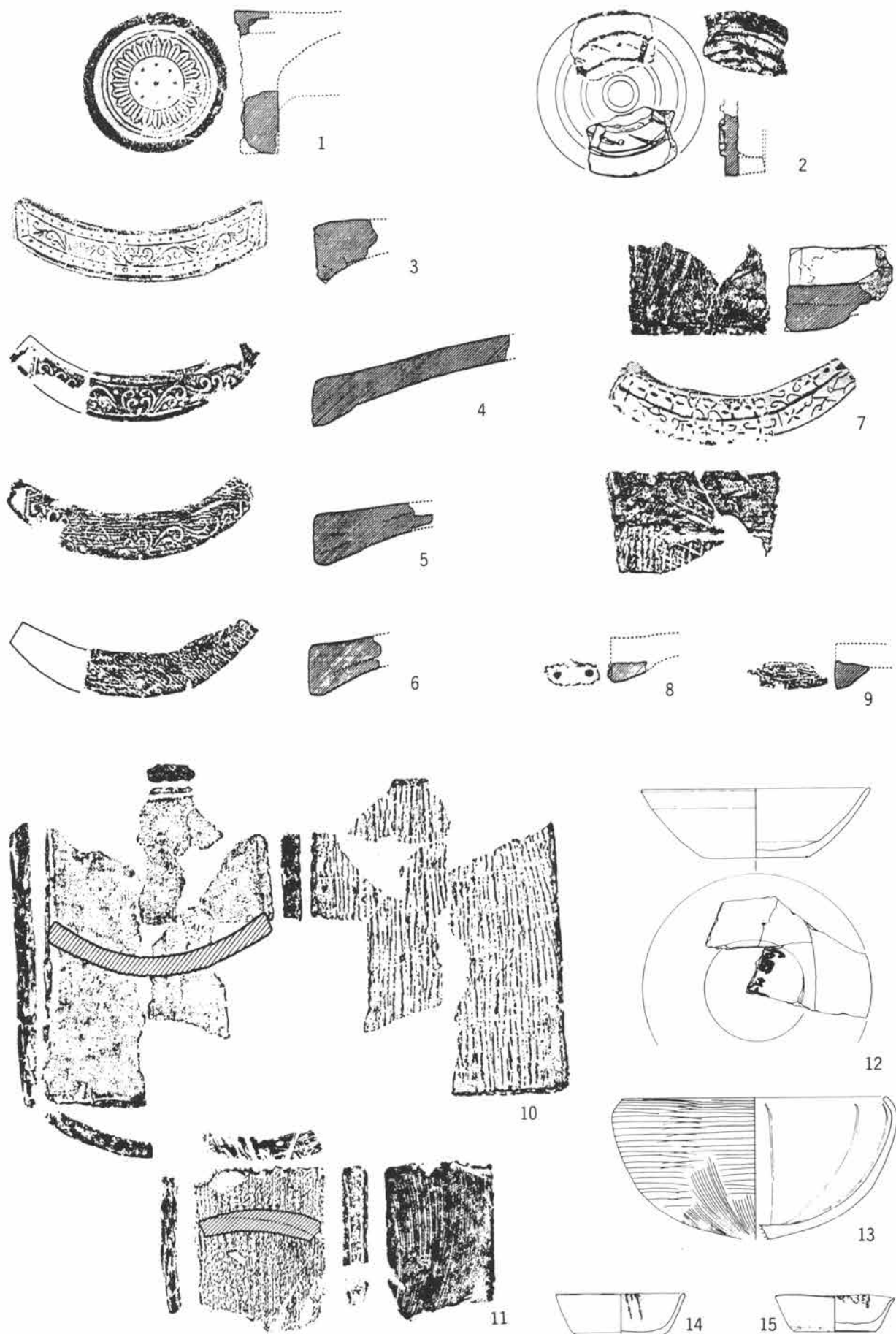
東京湾に注ぐ村田川と印旛沼に注ぐ鹿島川の最上流の台地上に位置している。また、東側は急峻な崖を介して九十九里平野と接している。廃寺跡の西500mには菰生道遺跡が位置し、同時期の集落跡などが発見されている。また、西1.1kmには上総国分寺創建期瓦等を焼成した南河原坂窯跡群がある。小食土廃寺跡からは基壇建物跡1基と掘立柱建物跡2棟以上、竪穴住居跡1軒、溝などが確認された。基壇は掘込み地業で東西14.8m、南北11.8mの規模で、厚板で基壇外装を化粧している。建物痕跡は確認されなかったが、基壇規模から四間×五間ほどの建物規模が想定されている。そして、この基壇建物跡を取り囲むように、上端1.3m、下端0.8mほどの断面逆台形の溝が確認された。この溝の内側からは基壇建物跡のほかに、その東6mほど離れて柱穴が2基発見された。溝外からは西側で竪穴住居跡が、北側と東側から掘立柱建物跡が発見された。竪穴住居跡の時期は9世紀前半で、墨書土器「冨□」(12)や鉄鉢形土器(13)などが出土した。また、北側の掘立柱建物跡付近からはスラグが集中して発見され、製鉄遺構の存在が推測されている。

出土軒丸瓦は2種で、単弁二十四葉蓮華文軒丸瓦(1)と重圈文軒丸瓦(2)が出土した。前者は上総国分寺の創建瓦と同範である。後者は重圈文間に珠文と放射状の縦線が入る特異な文様であり、また瓦当裏面下半に丸瓦を一部残す特徴的な製作方法である。軒平瓦は6種で、均整唐草文軒平瓦3種(3~6)、上下2段に四葉文・唐草文が配されたもの(7)、重郭文の珠文が配されたもの(8)、ヘラ描き木葉文(9)がある。丸瓦は無段式である。平瓦は凸型台一枚作りで、凸面に縄叩きを残す。このほか熨斗瓦(11)が2点出土した。



第25図 小食土廃寺跡遺構配置図

II 主要遺跡概要

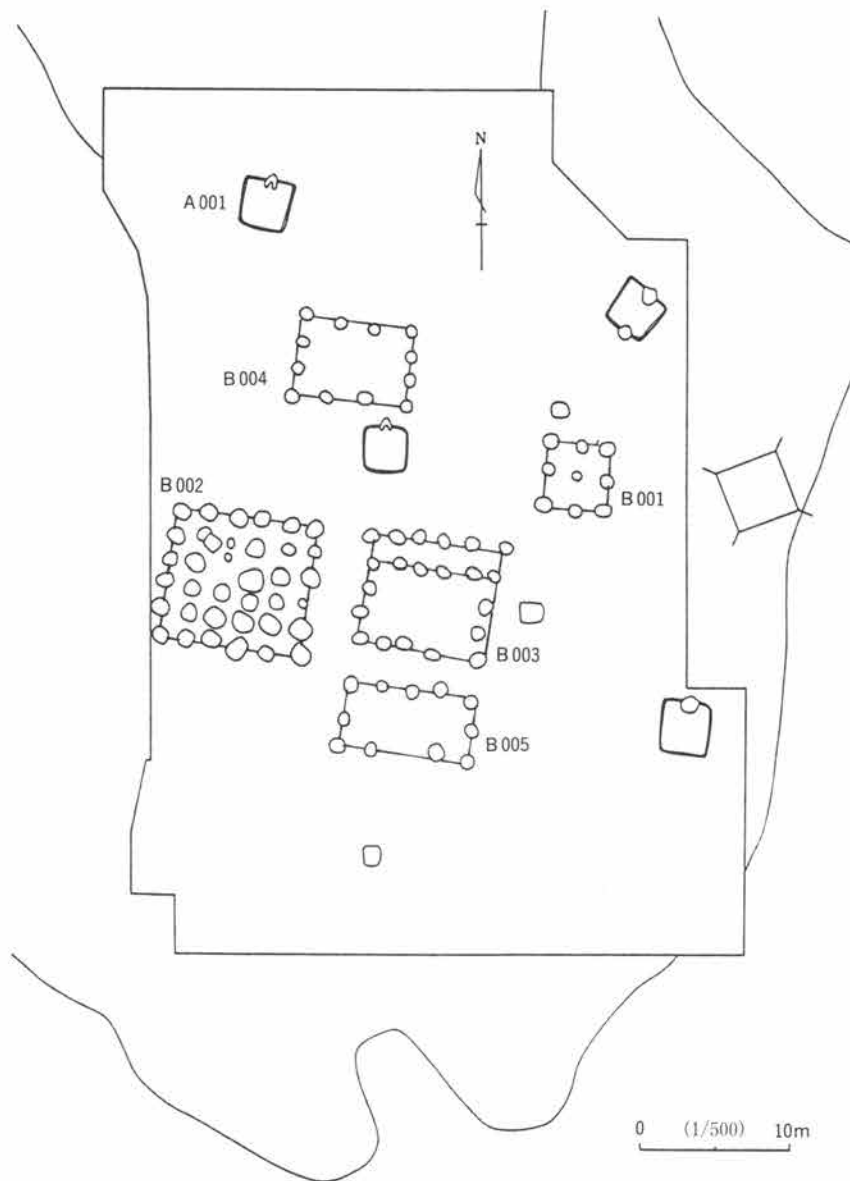


第26図 小食土廃寺跡出土遺物 (1~11・ $\frac{1}{6}$ 、12~15・ $\frac{1}{4}$ )

42 内野台遺跡

千葉市緑区小山町内野台

村田川上流の台地南端に位置している。掘立柱建物跡5棟と竪穴住居跡4軒が発見された。三間四面南孫庇付建物跡のB002と、双堂形式に復原されるB003・B005がほぼ柱筋を揃えて東西に並置されている。これらの北側のA001竪穴住居跡からは墨書土器「祥」「祥寺」が出土した。なお、墨書土器「祥寺」は北西約400m離れた文六第2遺跡からも出土している。

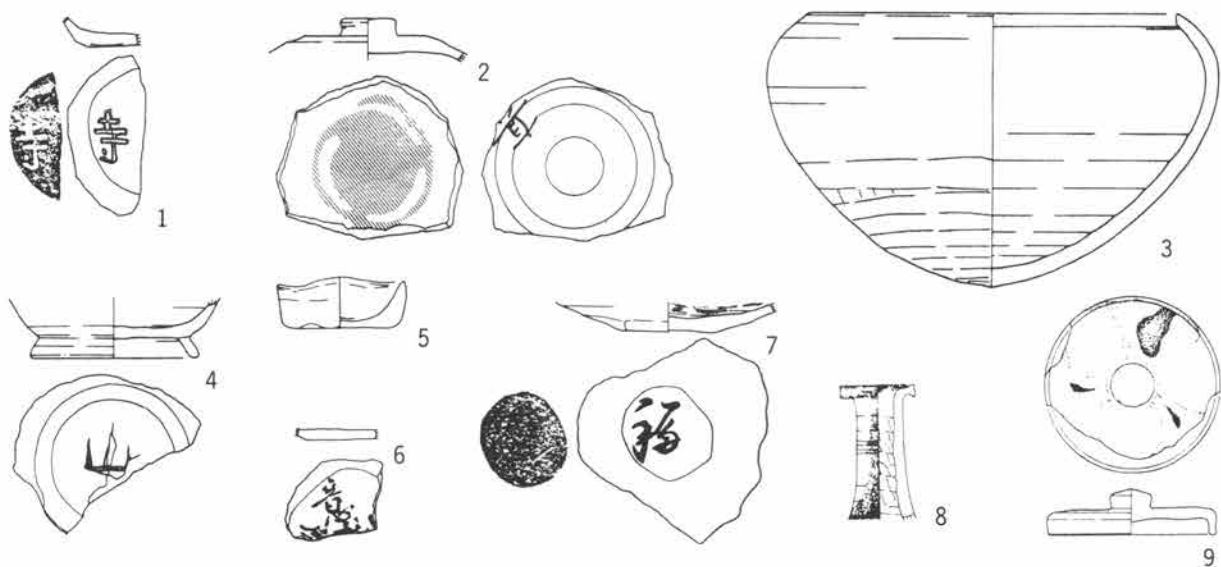


第27図 内野台遺跡遺構配置図

44 大椎第2遺跡

千葉市緑区小食土町1,163-13他

村田川に注ぐ小支谷に面した丘陵上に位置する。小支谷に突き出した丘陵南端から仏教遺物がまとまって出土した。南南東に底を出す方三間の片庇建物の2号掘立柱建物跡の南西に接する6号竪穴住居跡からヘラ書き土器「寺」「山」、土師器鉄鉢形土器、転用硯などが出土した(1~4)。「寺」はロクロ土師器坏の底部外面にヘラ書きされている。2は土師器蓋の内面を硯として転用しており、外面には「真」とヘラ書きされている。このほかグリッドから水瓶や三彩小壺蓋、墨書土器「福」「意□□□」、手捏等が発見された(5~9)。仏教遺物が集中して発見されており、立地の特異性からも第2号掘立柱建物跡は仏堂として機能した可能性がある。



第28図 大椎第2遺跡遺構配置図・出土遺物(1~7・ $\frac{1}{4}$ 、8・ $\frac{1}{2}$ 、9・ $\frac{1}{2}$ )

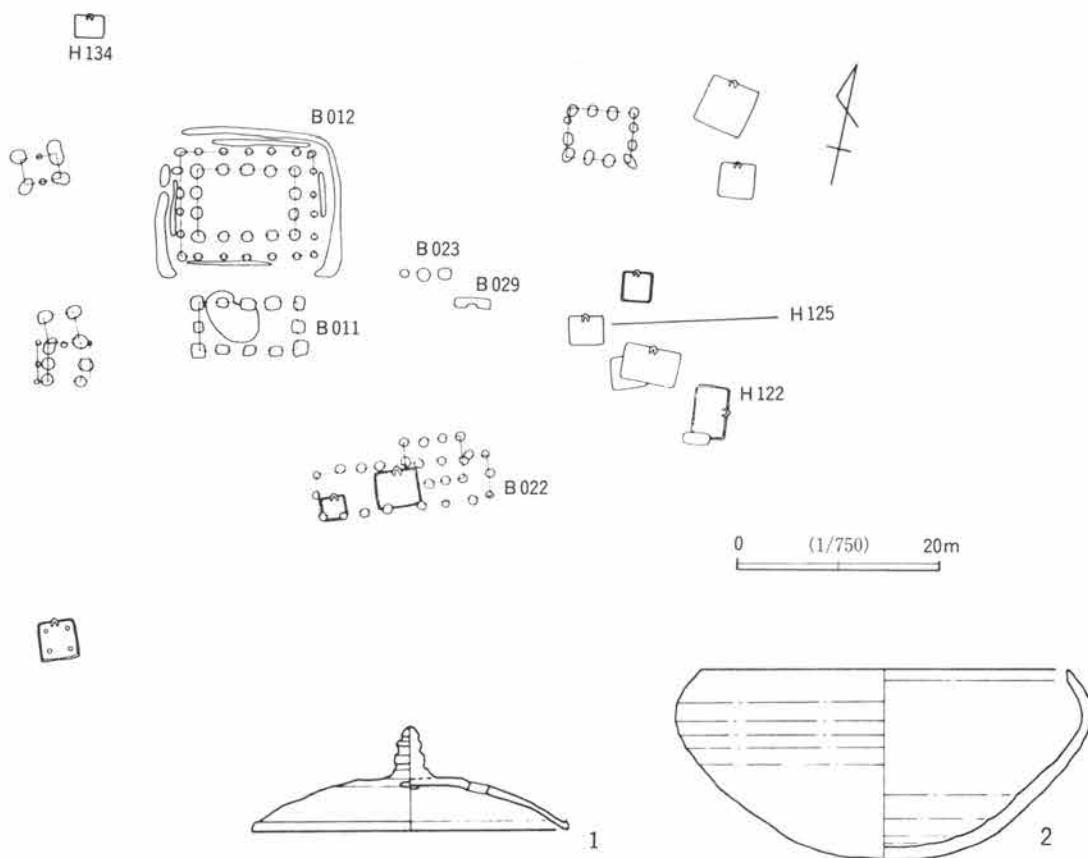
45 山田台廃寺跡

東金市山田字新林833他

太平洋に注ぐ南白亀川上流の標高75m～79mの台地上に位置している。山田台廃寺跡は大網山田台遺跡群No3地点として発掘調査された新林Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ遺跡の中から発見された。このNo3地点からは旧石器時代から平安時代の遺構・遺物が発見されたが、特に8世紀後半から9世紀前半を中心とした時期の集落跡が大規模に発見された。掘立柱建物跡は63棟発見され、8世紀後半から9世紀前半にかけての竪穴住居跡が71軒、9世紀後半以降の竪穴住居跡が11軒発見された。山田台廃寺跡はこの調査区の中央付近から発見された。

中心建物跡のB012は四間四面の掘立柱建物の後、坪地業の礎石建物跡に建替えられている。この前面のB011は二間×四間の掘立柱建物跡で1度の建替えが確認されている。この2棟の建物跡はほぼ柱筋を揃えており、正堂と礼堂として機能した双堂形式の仏堂である。この仏堂の東からは幢竿支柱跡と想定されるB023とB029が位置し、南には二間×七間の建物跡のB022が発見された。

寺院の東側のH117から須恵器の香炉蓋(1)が、H122から土師器の鉄鉢が、H125から須恵器の鉄鉢(2)や墨書土器「山口万」「立万」「万」等が、H134から土師器の鉄鉢が出土した。このほかB012付近から香炉蓋と唐草文軒平瓦や凸型台一枚作りの格子叩きの平瓦、丸瓦などの瓦も若干出土した。



第29図 山田台廃寺跡遺構配置図・出土遺物 (1/4)

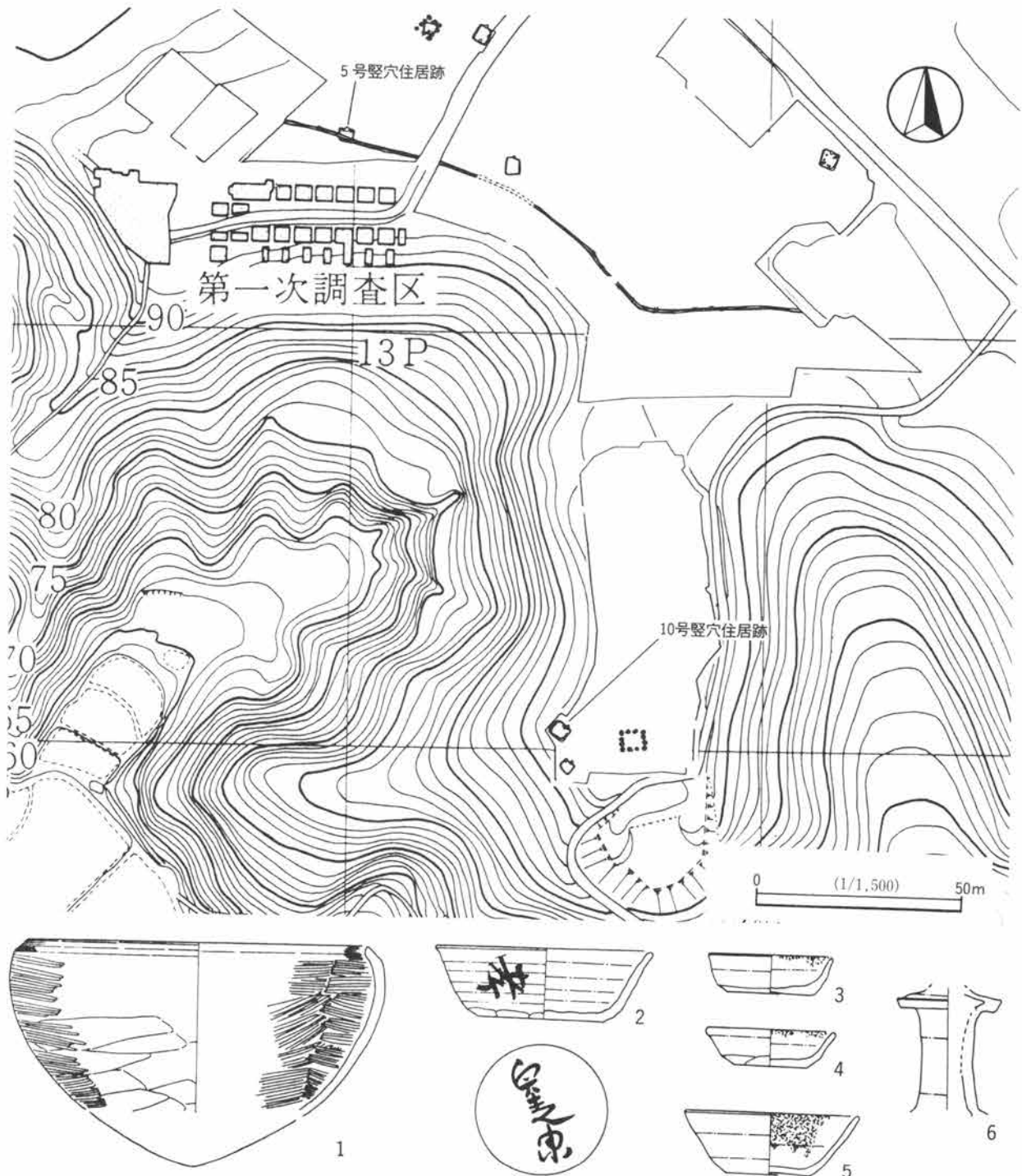


II 主要遺跡概要

49 南河原坂第2遺跡

千葉市緑区小食土町1, 178-34他

村田川上流の谷津に面した台地南端に位置する。舌状に伸びた台地先端の10号竪穴住居跡から浄瓶と墨書土器「孝/宍□□」、そして多くの灯明皿が出土した(2~6)。この他に周辺では竪穴住居跡1軒と方三間の掘立柱建物跡1棟が発見された。また、10号竪穴住居跡の北北東約150m離れた丘陵南端の5号竪穴住居跡からは土師器鉄鉢形土器(1)が発見された。

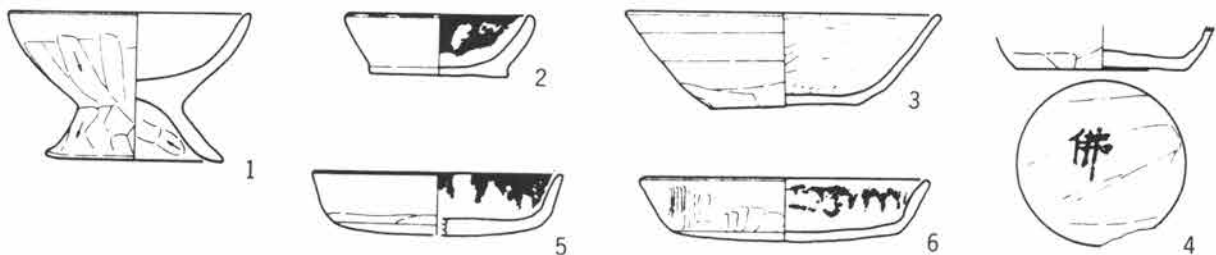
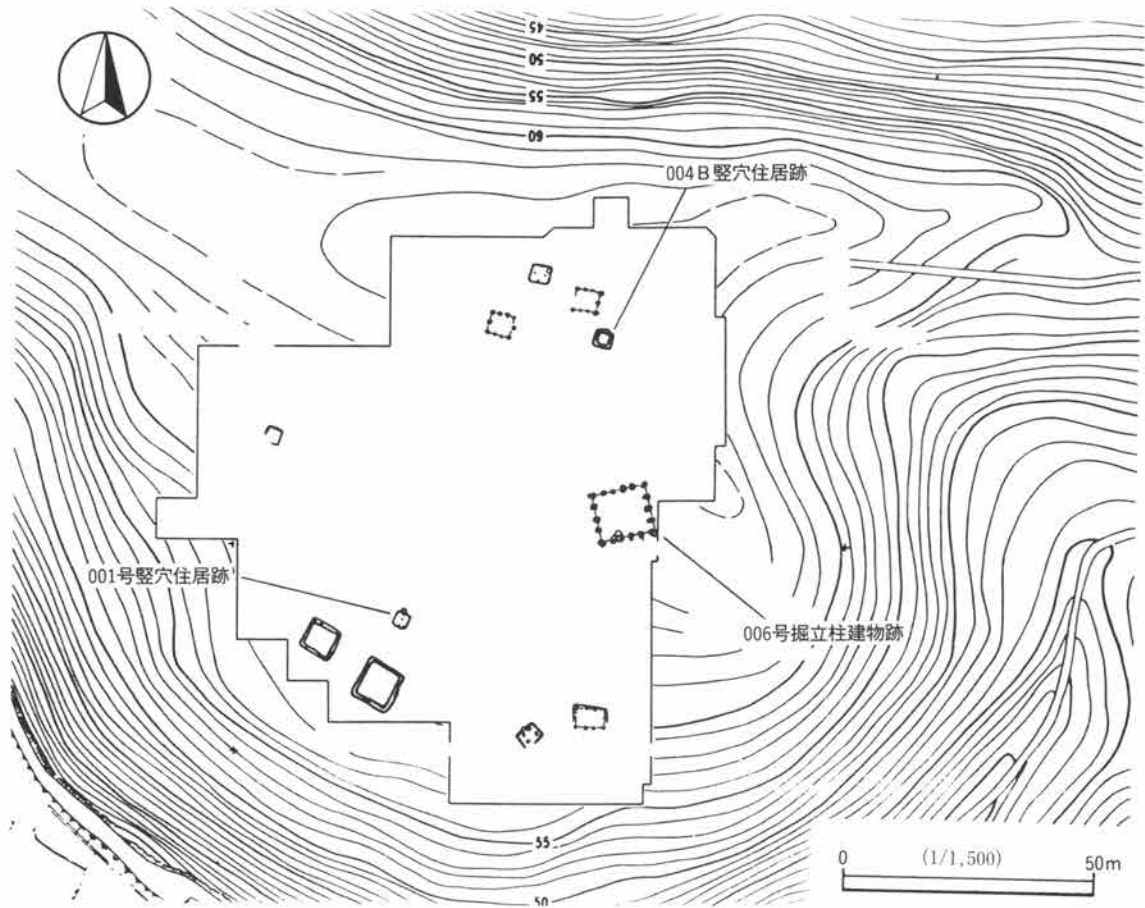


第30図 南河原坂第2遺跡遺構配置図・出土遺物(1/4)

51 大野第7遺跡

千葉市緑区大木戸町1,209-22他

村田川上流の小支谷に南北が挟まれた丘陵頂部に位置する。8世紀中葉から9世紀前半の遺構群が発見された。丘陵南端に8世紀後半の方形墳墓2基が北辺を揃えて東西に並び、その北側に南北に並んで001号竪穴住居跡が発見された。001号竪穴住居跡(1、2)と、その隣接グリッド(5、6)から灯明皿がややまとまって発見された。そして、丘陵北部に9世紀前半の掘立柱建物跡と竪穴住居跡が発見された。004B竪穴住居跡(3、4)から墨書土器「佛」が出土した。また丘陵の中央部から、4間×5間の006号掘立柱建物跡が単独で1棟発見された。東西10.4m、南北9.6m前後を測る大型の施設である。

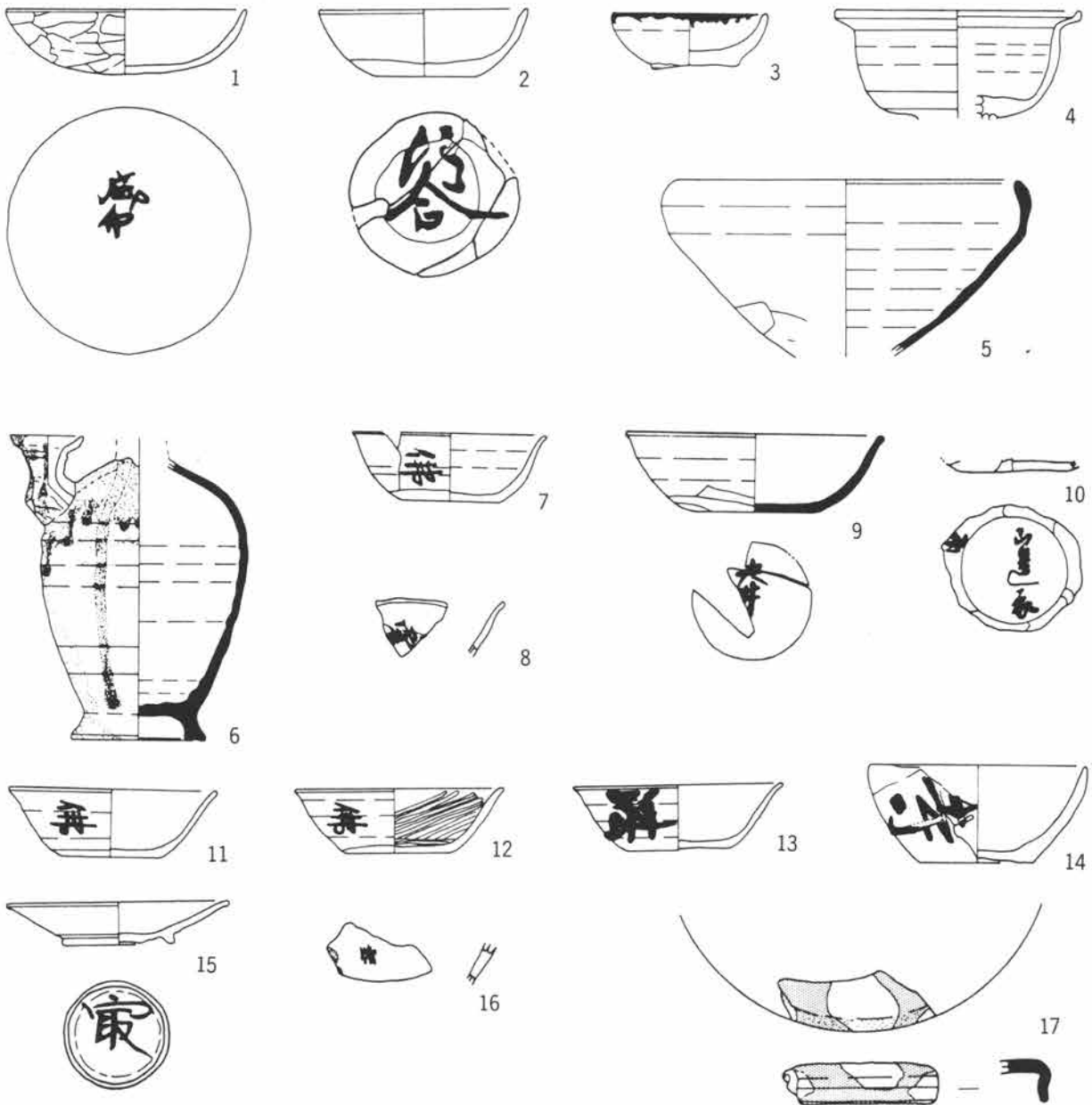


第31図 大野第7遺跡遺構配置図・出土遺物(1/4)

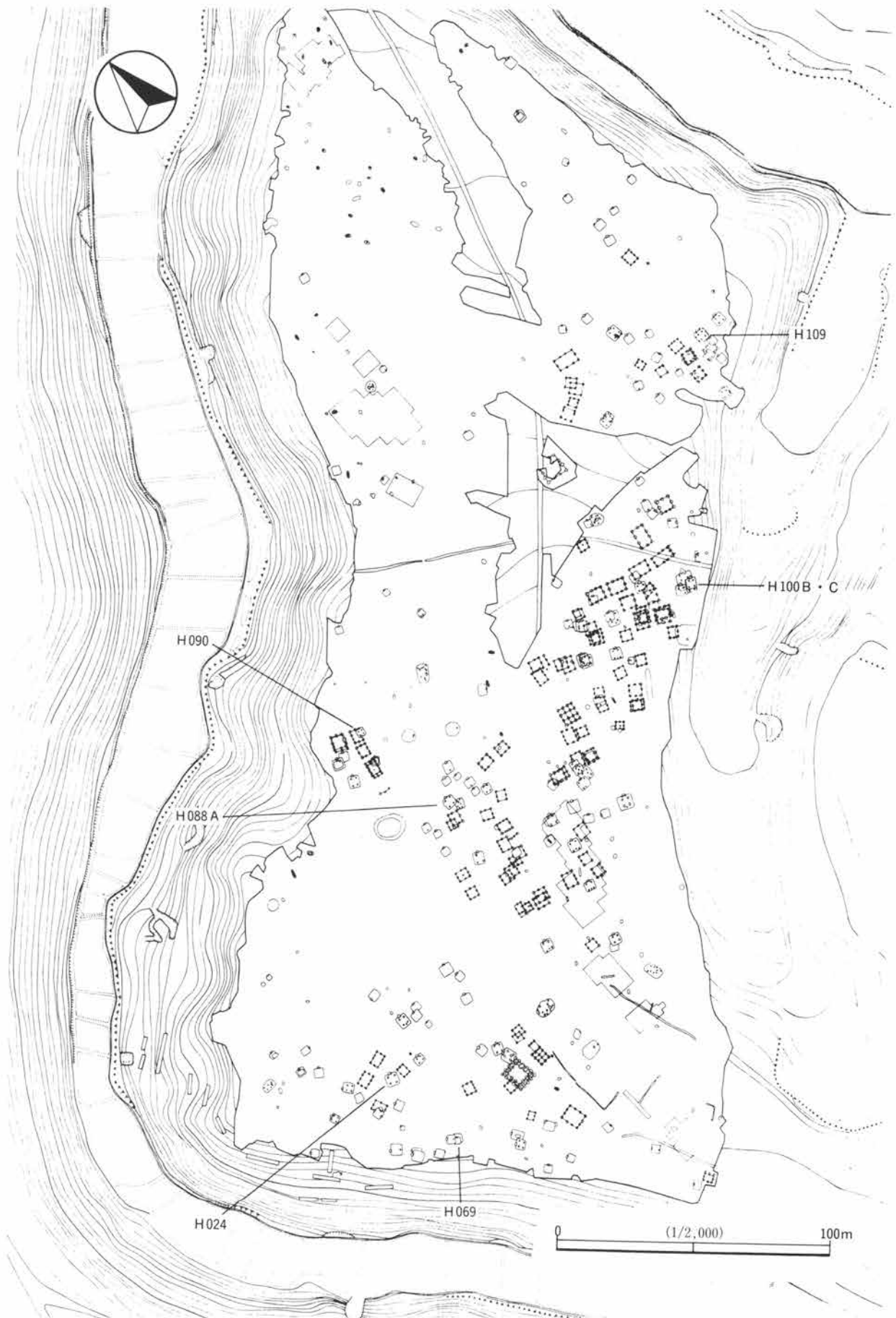
64 砂田中台遺跡

山武郡大網白里町砂田520他

村田川の最上流に面した台地上に位置する。台地北東端の竪穴住居跡H109 (15、16) から墨書土器「佛」が、竪穴住居跡H100B・C (11~14) から墨書土器「寺」「佛」「法」が出土した。台地中央西端付近の竪穴住居跡H088Aから浄瓶 (6) が、竪穴住居跡H090 (7、8) からは墨書土器「佛」「□(家カ)」が出土した。なおこの付近のグリッドからは二彩陶器の破片 (17) が出土した。さらに台地南端の竪穴住居跡H024 (1、2) から墨書土器「盛□(佛カ)」が、竪穴住居跡H069A (3~5) から須恵器鉄鉢形土器が出土した。このように台地の広い範囲から時間幅をもつ仏教遺物が出土している。なお、台地南端付近に位置する四面庇建物跡が仏堂と指摘されている。



第32図 砂田中台遺跡出土遺物 (1~16・¼、17・½)

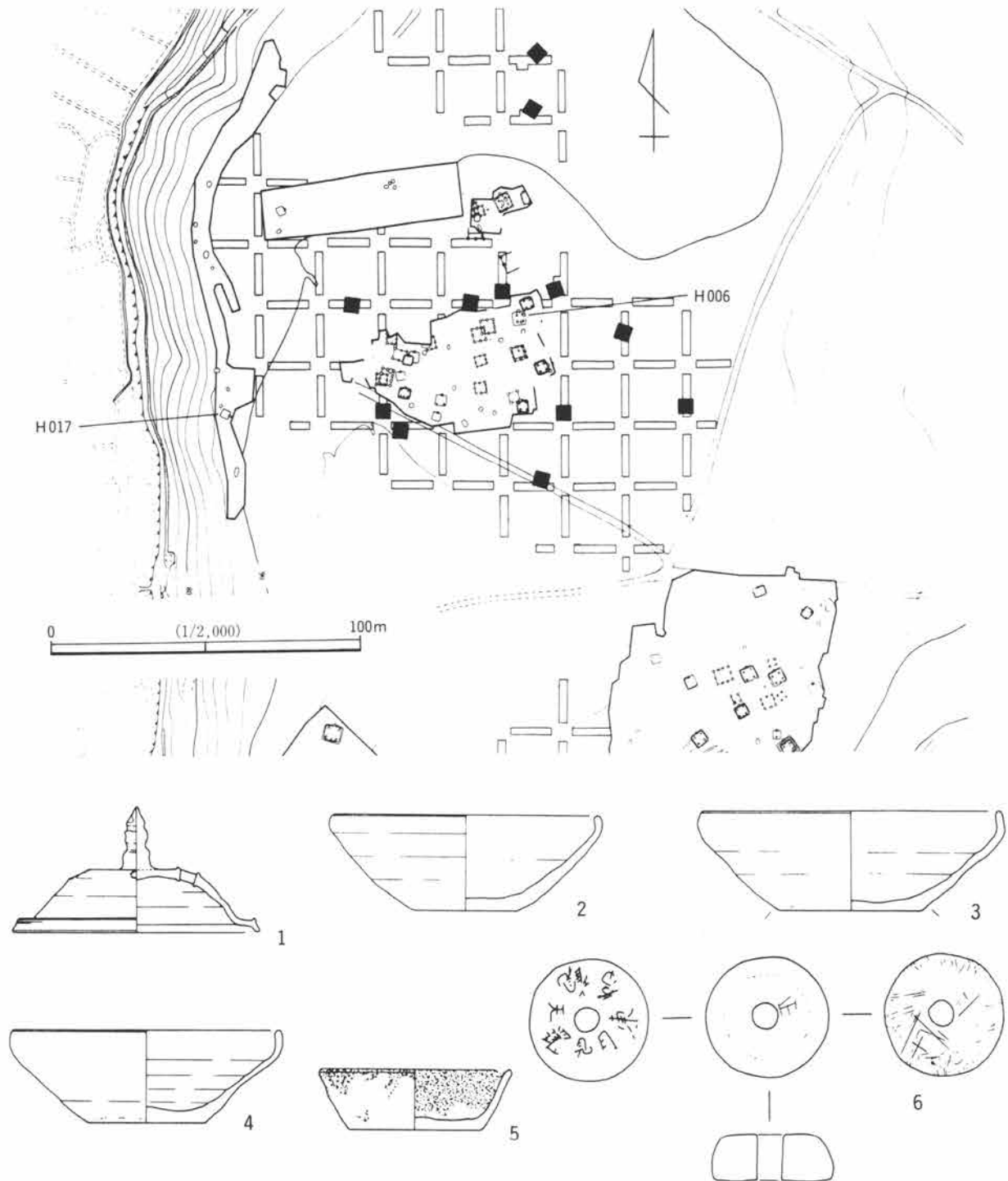


第33図 砂田中台遺跡遺構配置図

66 中林遺跡

山武郡大網白里町砂田字南中林439他

村田川の最上流に面した台地上に位置する。台地中央部で掘立柱建物跡がやや集中して発見された。仏教遺物は、台地西端から単独で発見された竪穴住居跡H017からまとまって出土した(1~5)。香炉蓋と土師器鉢形土器3点と、灯明皿、坏、甕、甑が発見された。なお、台地中央の掘立柱建物跡群に接した竪穴住居跡H006から「東・月・見・還・天・観・為」と刻書された石製紡錘車(6)が出土した。

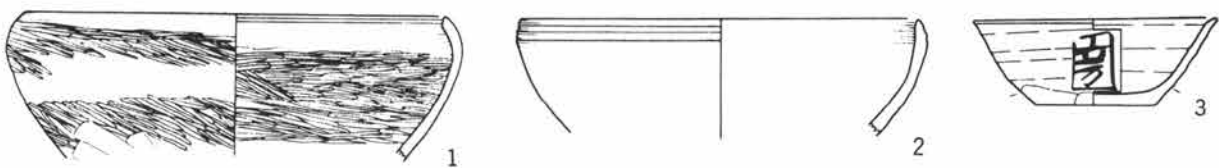
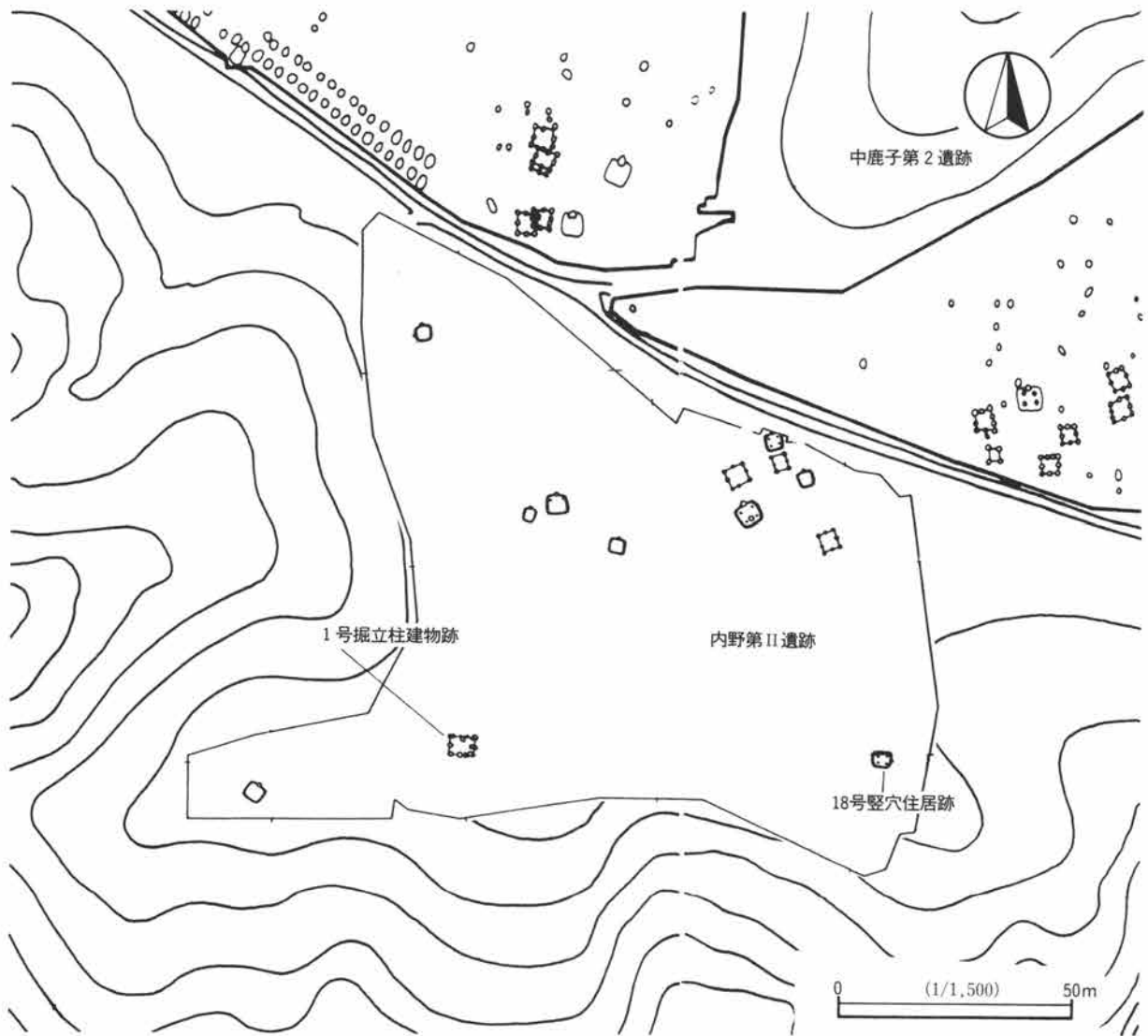


第34図 中林遺跡遺構配置図・出土遺物(1/4)

67 内野第II遺跡

茂原市桂840他

村田川上流の谷津に面した台地端部に位置する。台地中央の中鹿子第2遺跡に隣接して掘立柱建物跡群等がまとまって発見された。そして、これら建物跡群から約40m離れた台地南東端の18号竪穴住居跡から土師器鉄鉢形土器2点と墨書土器「囿」が出土した(1~3)。また、台地南西端の1号掘立柱建物跡から富寿神寶が、H003土坑から神功開寶が出土した。富寿神寶は1号掘立柱建物跡の地鎮に使用されたと考えられている。なお、隣接する中鹿子第2遺跡からも墨書土器「寺」「佛カ」が出土している。



第35図 内野第II遺跡遺構配置図・出土遺物

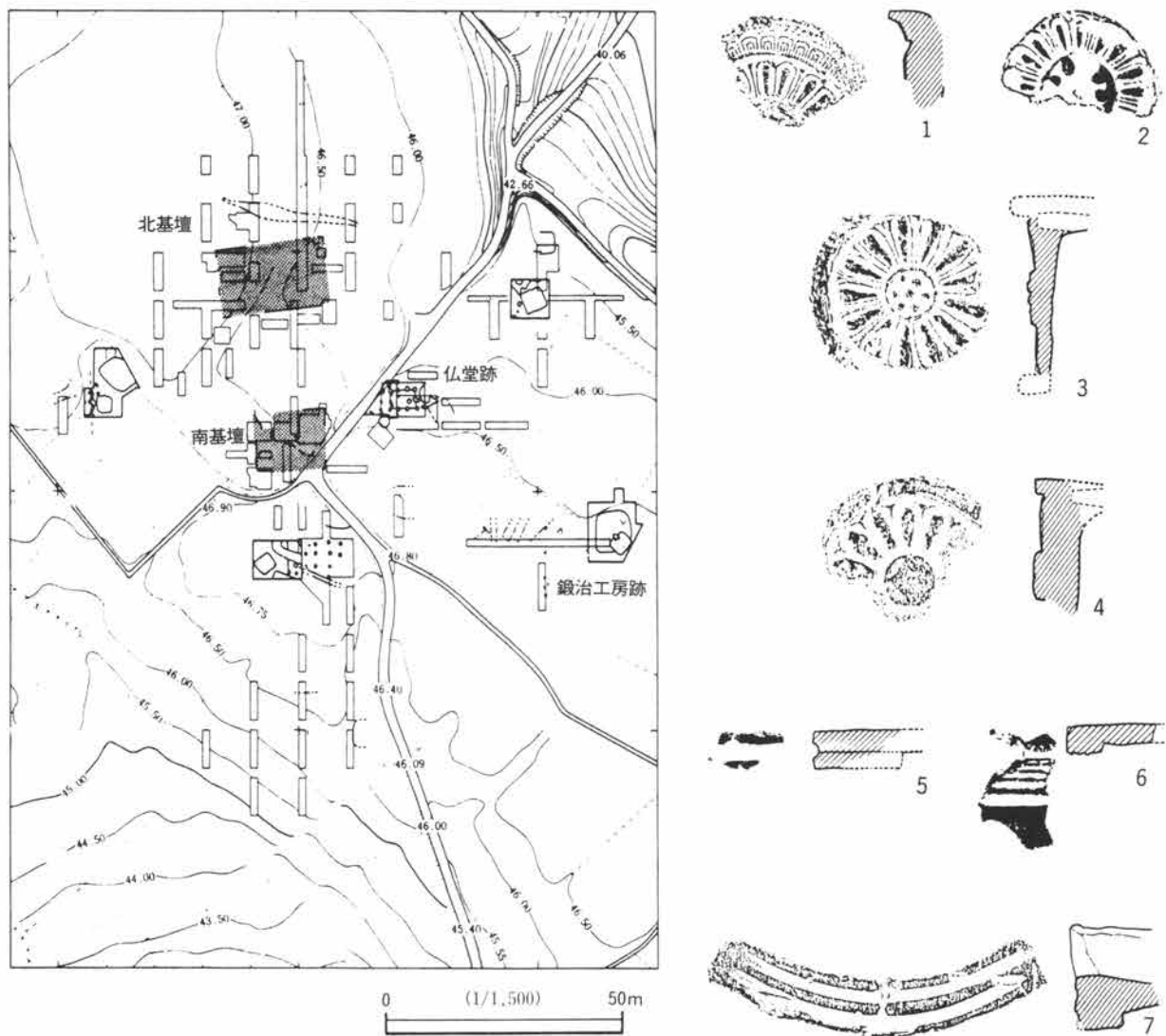


69 真行寺廃寺跡

山武郡成東町真行寺565他

境川を望む標高約46mの台地端部に位置している。支谷を一つ隔てた北東の台地上に前方後円墳2基を含む真行寺古墳群が位置し、北西約400mの島戸東遺跡は武射郡家の可能性が指摘されている。

昭和56～58年度に(財)千葉県文化財センターが、昭和57・58年度には成東町教育委員会が発掘調査を実施した。基壇建物跡2基と掘立柱建物跡、鍛冶工房跡、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡が確認された。南北に並ぶ基壇は主軸方向をやや異にしているが、南基壇が金堂跡、北基壇が講堂跡に比定されている。南基壇では掘込み地業が、北基壇では旧表土上の地業と瓦積み化粧の存在が確認された。塔は未確認で、存在する可能性は低い。このほか、南基壇の南で門跡、南基壇の東で仏堂と想定される三間四面の掘立柱建物跡が、そして北基壇の北や南基壇の南東からも掘立柱建物跡が確認され、寺院施設が基壇建物跡周辺に広く展開している。なお講堂は基壇築成土中から瓦片が出土し、金堂後の造営と想定されている。さらに講堂基壇は平面規模や瓦積み化粧、基壇回りの溝や基壇外周被覆土層の存在など、多くの点で上総国分尼寺跡講堂基壇との工法上の類似点が指摘されている。また、金堂基壇周辺で11世紀以降の土器が出土しており、この時期まで寺院跡が存続した可能性が指摘されている。このほか、瓦塔や鉄鉢、浄瓶、香

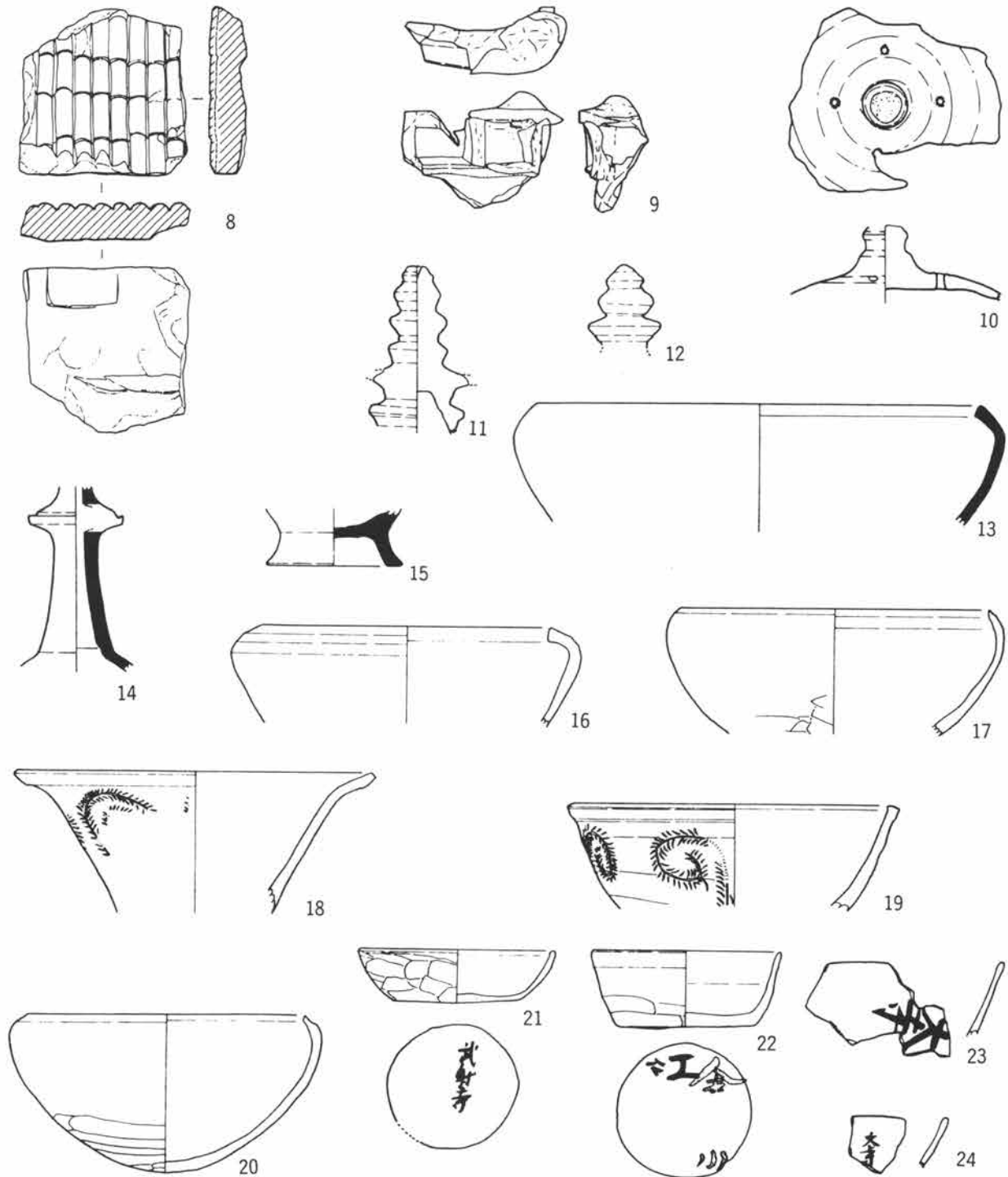


第36図 真行寺廃寺跡遺構配置図・出土瓦(1/6)



炉蓋、墨書土器「武射寺」「大寺」「仏工舎/小」など多くの仏具等が出土した。

軒丸瓦は雷文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦(1、2)、素縁単弁十三葉蓮華文軒丸瓦2種(3、4)の3種がある。軒平瓦は素文(6)、二重弧文(5)、重郭文(7)の3種がある。6は段顎で顎面に3条の隆線をもつ。丸瓦は無段式と有段式の2種がある。前者には粘土板成形によるものと粘土紐成形によるものがある。平瓦は凸面ナデツケ成形、格子叩き、平行叩き、斜格子叩き、縄叩き、同心円叩き、特殊叩きがある。特殊叩きには蓮華文や鳥形、蕨手文、飛雲文、渦巻き文など多様な文様が確認されている。

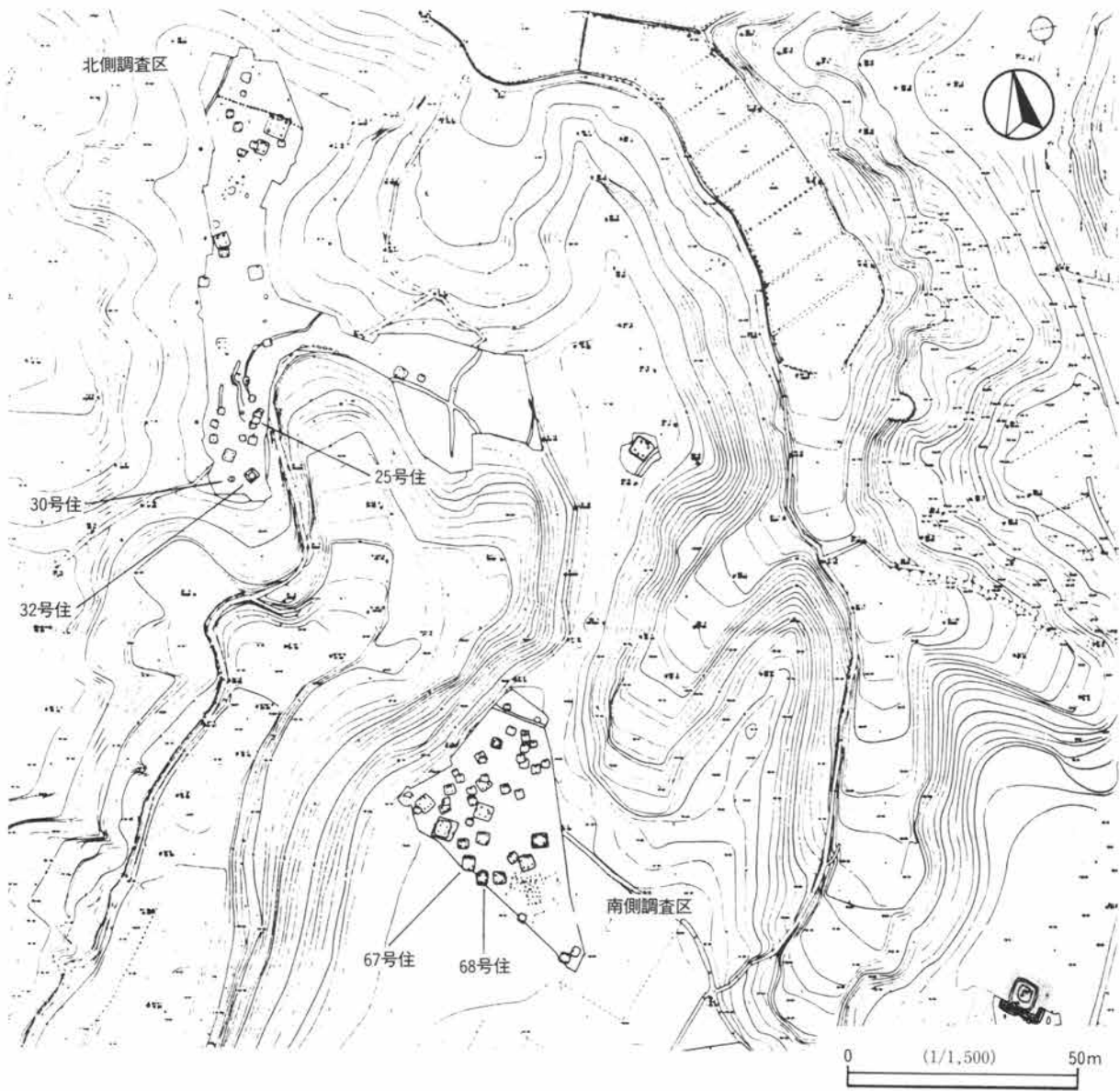


第37図 真行寺廃寺跡出土遺物 (1/4)

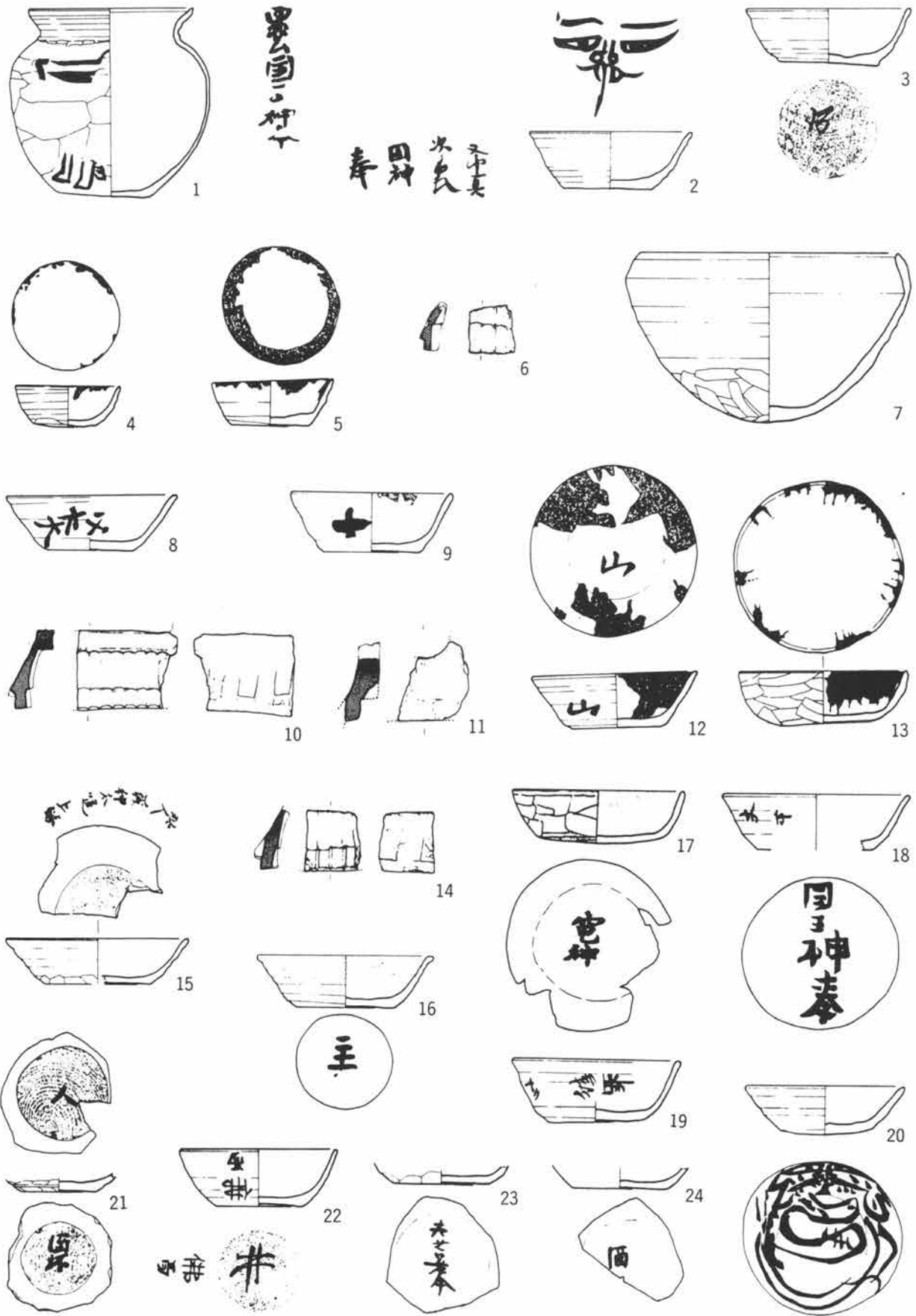
76 庄作遺跡

山武郡芝山町庄作634他

栗山川支流の高谷川に注ぐ支谷に挟まれた台地上に位置する。北側調査区からは、南からの支谷に突き出した台地南端に位置する30号竪穴住居跡（4～7）から瓦塔片と土師器鉄鉢形土器が、32号竪穴住居跡（8～14）から瓦塔片が、25号竪穴住居跡（1～3）から人面墨書土器「丈部真次□（召カ）代国神奉」「罪ム国玉神奉」が出土した。30号・32号竪穴住居跡からは灯明皿の出土量が特に多い。さらに南側調査区の台地中央部の68号竪穴住居跡（21～24）から墨書土器「佛酒／井」「酒坏」が、隣接する67号竪穴住居跡（18～20）から人面墨書土器「国玉神奉／手」などが出土した。北側調査区から仏教遺物等がまとまって出土しており、台地南端に瓦塔が設置されていた可能性がある。



第38図 庄作遺跡遺構配置図

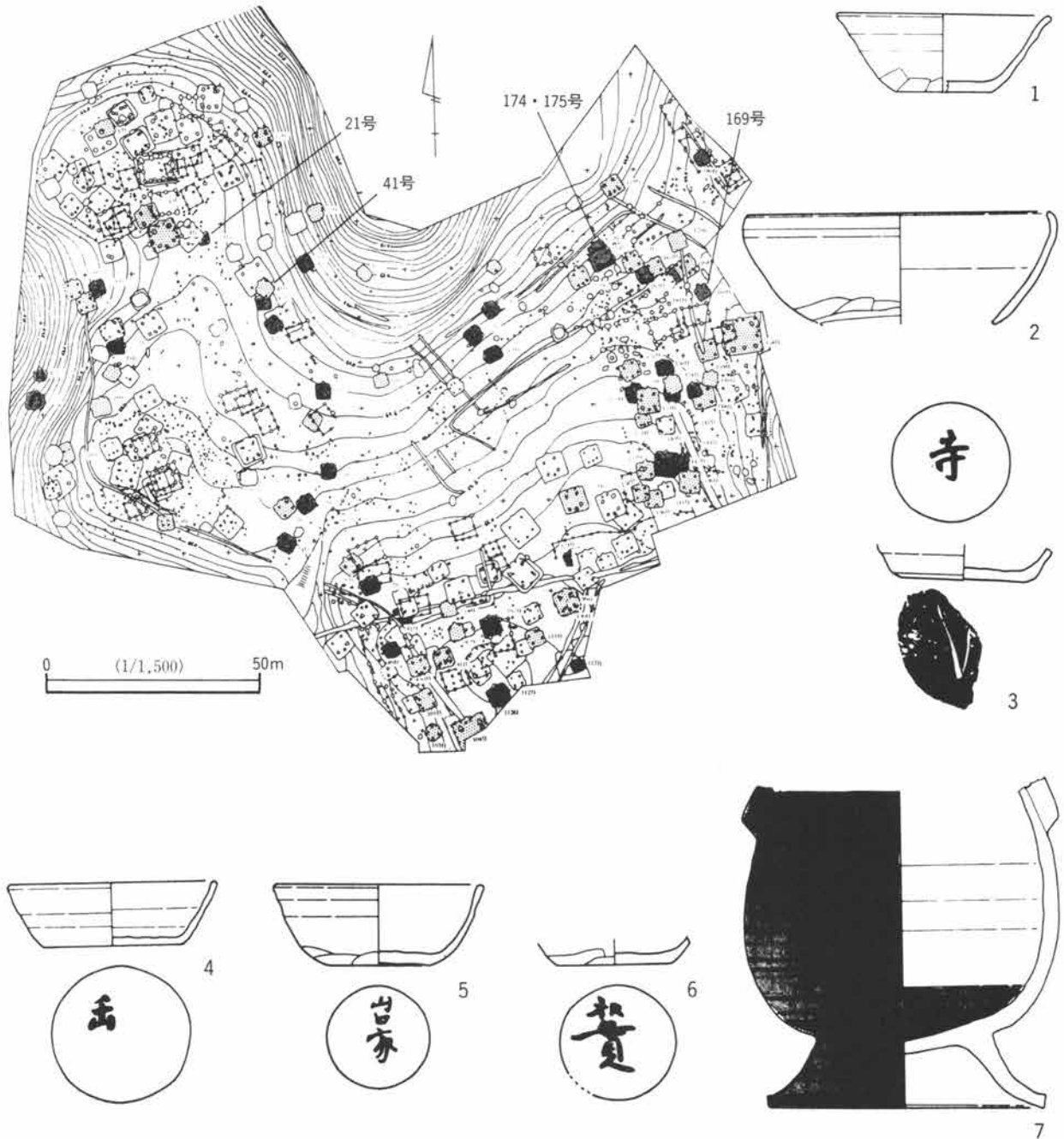


第39図 庄作遺跡出土遺物 (1/4)

81 作畑遺跡

東金市油井字作畑224他

真亀川に面した台地南端に位置する。散在した複数の竪穴住居跡から仏教遺物が出土した。調査区北西の21号竪穴住居跡（1、2）から土師器鉄鉢形土器が、41号竪穴住居跡（3、4）から墨書土器「寺」「缶」が出土した。調査区北東の174号・175号竪穴住居跡から墨書土器「弘貫」（6）が、169号竪穴住居跡（5、7）から灰釉双耳壺と墨書土器「山口家」が出土した。なお墨書土器「弘貫」は久我台遺跡でも出土しており、同一の僧名と指摘されている。



第40図 作畑遺跡遺構配置図・出土遺物（1/4）